

仙台市文化財調査報告書第337集

沼向遺跡第35次調査

—宮城県仙台港背後地土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅱ—

2009年2月

仙台市教育委員会

序 文

仙台市の文化財保護行政に対しまして、日ごろからご理解、ご協力を賜り、誠に感謝申し上げます。

ここで報告しますのは、仙塩広域都市計画事業・仙台港背後地土地区画整理事業に伴う遺跡発掘調査のうち、沼向遺跡の第35次調査をまとめたもので、沼向遺跡としては2冊目の報告書となります。

この区画整理事業は、仙台港の増大する物流需要と船舶の大型化・コンテナ化等の輸送革新に対応するため、仙台港に隣接する北側から西側の背後地一帯を、宮城県はもとより、東北地方の国際貿易・交通拠点として、また仙台都市圏の物流拠点・工業生産拠点としての機能を持つべき地区として整備計画されました。現在、宮城県が施行主体で、県と仙台市が共同で整備に当たっております。

この区画整理地内の土地利用は、センター地区、流通業務地区、工業地区、住宅地区の4つに区分されており、ここで報告します沼向遺跡は工業地区に該当する、一番海辺に近い遺跡です。本書は、古墳時代後期から平安時代初頭にかけての集落の調査報告を主とし、海岸部に住んでいた当時の人々の暮らしぶりを想起させる貴重な資料を得ることができました。

先人の遺した貴重な文化遺産を保護し、保存活用を図りつつ未来へと継承していくことは、現代に生きる私たち市民の大変な仕事であると思います。つきましては、今回の調査成果が、地域の歴史を解き明かしていくための貴重な資料となり、学術研究のみならず学校教育や生涯教育などのあらゆる場面で活用され、皆様の文化財へのより深い関心とご理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から本報告書の刊行に際しましてご指導、ご協力下さいました皆様に心より感謝申し上げる次第です。

平成 21 年 2 月

仙台市教育委員会
教育長 荒井 崇

例 言

1. 本書は仙台港背後地土地区画整理事業に伴い実施された、沼向遺跡第35次発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査は、仙台市教育委員会の委託を受け、株式会社四門仙台支店が行なった。
3. 調査は、仙台市教育委員会生涯学習部文化財課 佐伯修一・斎野裕彦の指導・監督のもとに、株式会社四門仙台支店 高橋直崇・田口雄一が行なった。
4. 本書の執筆は、佐伯修一・斎野裕彦・高橋直崇・田口雄一の協議により行なった。
5. 調査及び報告書作成にあたり、下記のデジタル機器・ソフトウェアを使用した。

測量・遺構計測	遺構君	(株式会社 CUBIC)
遺構図・遺物実測図編集	photoshop・illustrator	(Adobesystems)
報告書編集・作成	InDesign	(Adobesystems)
Word・Excel		(Microsoft)
6. 本調査の実施に際し、仙台港背後地土地区画整理事務所より御協力を賜った。また、出土した自然遺物について仙台市科学館副館長高取知男氏にご教示を賜った。木製品の樹種に関しては、早稲田大学人間科学学術院助手の鈴木伸哉氏に同定をお願いした。記して感謝の意を表す次第である。
7. 発掘調査に関わる一切の資料は、仙台市教育委員会が保管している。

凡 例

1. 本書の土色は、新版標準土色帖（農林水産省水産技術会議事務局 1998 年版）に準拠している。
2. 本書中の第1章第2図は国土地理院発行の2万5千分の1地形図「塩釜」仙台東北部を合成したものを使用した。
3. 図中の座標値は、沼向遺跡の先行調査：第1～34次調査（第1～3次調査は報告書刊行済、第4～34次調査は報告書作成中）に倣い、日本測地系座標を使用した。
4. 座標 X-191405・Y15415を沼向遺跡の $10 \times 10m$ Grid の機軸とし、Y軸は基点から北へ 0A・0B・0C…、南へ A・B・C…、X軸は東へ 1・2・3…、西へ 01・02・03…とする。
5. 本文図版で使用した方位はすべて真北を基準としている。
6. 標高地は海拔高度（T.P.）を示す。
7. 遺構図は縮尺 1/60 を基本とした。その他、各図のスケールを参照されたい。
8. 本調査区と、先行する隣接する調査区にまたがって完結する遺構については、その理解に必要とされる場合、先行調査の未報告部分との合成図を掲載した。
9. 基本層の表記は沼向遺跡の先行調査に準じ、浜堤列では表土層からローマ数字を用い、後背湿地ではアラビア数字を用いた。先行調査の基本層に対応しない層には、「アルファベット（ex.A 層）」の名称を付いた。
10. 遺構名の略号は、SI：堅穴住居跡・堅穴遺構、SA：区画施設、SD：溝跡、SK：土坑、SX：性格不明遺構、P：ピットを使用した。これらの遺構の中に埋まっている土を「埋土（まいど）」とした。
11. 遺構名は、遺構ごとに「調査区名称 - 番号」の名称を付けた。先行する調査区から続く遺構については、同一遺構名を使用した。
12. 調査区・遺構の面積は測量用ソフトを使用して、算出した。
13. 遺構の主軸方位は、カマドの確認できる堅穴住居跡はカマドを通した軸方位を主軸方位とし、その他の遺構に関しては長軸の方位を主軸方位とした。
14. 遺構の壁面の立ち上がり角は、鉛直軸に対する壁の角度を計測した。
15. SI堅穴住居跡・堅穴遺構の断面図では、床面・底面及びカマド使用面は太線とし、掘方は細線とした。
16. 遺物の登録・整理及び報告書での表示には、以下の分類と略号を使用した。

A : 繩文土器	B : 弥生土器	C : 非クロ土師器	D : ロクロ土師器	E : 須恵器	G : 土師質土器	
I : 陶器	J : 磁器	K : 石器	石製品	N : 金属製品	L : 木製品	O : 自然遺物
P : 土器	S : 石	W : 木				
17. 遺構平面図・断面図中では、以下の略号を用いて遺物を表記した。
18. 遺物実測図は原則として縮尺 1/3 で表示した。
19. 遺物実測図において、外形線・中心線・稜線は実線、推定線は破線で表した。中心線が一点鎖線のものは、転回し、図上復元したものである。内面黒色処理を施したものについては、トーンを一部にかけた。
20. 本文中の遺物番号は、「挿図番号 + 図中番号 (ex. 第10図1)」で示した。

目 次

序	文	(i)
例	言	(ii)
凡	例	(iii)
目	次	(iv)
挿 図 目 次		(v)
表 目 次		(vi)
写 真 図 版 目 次		(vii)

<p>第1章 調査概要 1</p> <p>第1節 調査に至る経緯 1</p> <p>第2節 調査要綱 2</p> <p>第3節 遺跡の位置と環境 4</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 地形的環境 4 2. 歴史的環境 5 <p>第4節 調査の方法と経過 5</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 調査区と調査Gridの設定 5 2. 遺構の名称 5 3. 基本層序 8 4. 遺構検出面 8 5. 調査方法 8 6. 調査経過 9 <p>第5節 整理作業の方法と経過 9</p>	<p>1. 検出遺構 83</p> <p>2. 出土遺物 83</p> <p>3. 遺構群の変遷 83</p> <p>4. まとめ 83</p>
第4章 第35次調査C区 85	
<p>第1節 調査概要 85</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 調査の経過 85 2. 基本層序 85 <p>第2節 検出遺構と出土遺物 89</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. III層上面遺構 89 2. II層上面遺構 89 3. その他の出土遺物 92 <p>第3節 まとめ 93</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 検出遺構 93 2. 出土遺物 93 3. 遺構群の変遷 93 4. まとめ 93 	<p>第5章 第35次調査D区 95</p> <p>第1節 調査概要 95</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 調査の経過 95 2. 基本層序 95 <p>第2節 検出遺構と出土遺物 95</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. トレンチ1 95 2. トレンチ2 98 3. トレンチ3 98 <p>第3節 まとめ 98</p>
第6章 総括 99	
<p>第1節 調査概要 75</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 調査の経過 75 2. 基本層序 75 <p>第2節 検出遺構と出土遺物 76</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. III層上面遺構 76 2. II層上面遺構 81 3. その他の出土遺物 83 <p>第3節 まとめ 83</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1. A区 99 2. B区 99 3. C区 99 4. D区 99 5. まとめ 99 <p>文献 99</p> <p>写真図版 101</p> <p>報告書抄録 121</p>

挿図目次

第1図	沼向遺跡位置図	1	SX35A08	39	
第2図	事業地内遺跡分布図	2	第44図	Ⅲ層上面SX性格不明遺構出土遺物（2）	40
第3図	遺跡範囲と調査地点	3	第45図	Ⅲ層上面SX性格不明遺構平面図・断面図（3）	40
第4図	仙台平野北部微地形分類図	4	第46図	Ⅲ層上面SX性格不明遺構出土遺物（3）	40
第5図	周辺の遺跡図	6	第47図	Ⅲ層上面SX性格不明遺構平面図・断面図（4）	41
第6図	第35次調査A区 北西壁土層断面位置図・ 等高線図	10	第48図	Ⅲ層上面SX性格不明遺構出土遺物（4）	41
第7図	第35次調査A区北西壁土層断面	11	第49図	Ⅲ層上面SX性格不明遺構平面図・断面図（5）	42
第8図	沼向遺跡第35次調査A区 Ⅲ層上面遺構 全体図（1）	13・14	第50図	Ⅲ層上面SX性格不明遺構出土遺物（5）	42
第9図	沼向遺跡第35次調査A区 Ⅲ層上面遺構 全体図（2）	15・16	第51図	Ⅲ層上面SX性格不明遺構平面図・断面図（6）	43
第10図	SI35A01堅穴遺構平面図・断面図	17	第52図	Ⅲ層上面SX性格不明遺構出土遺物（6）	43
第11図	SI35A03堅穴住居跡平面図・断面図	17	第53図	Ⅲ層上面SX性格不明遺構平面図・断面図（7）	44
第12図	SI35A03堅穴住居跡出土遺物	18	第54図	Ⅲ層上面SX性格不明遺構平面図・断面図（8）	45
第13図	SI35A04堅穴遺構平面図・断面図	19	第55図	Ⅲ層上面SX性格不明遺構出土遺物（7）	46
第14図	SI35A04堅穴遺構出土遺物	19	第56図	Ⅲ層上面SX性格不明遺構平面図・断面図（9）	47
第15図	SI35A08堅穴住居跡平面図・断面図	20	第57図	Ⅲ層上面SX性格不明遺構出土遺物（8）	47
第16図	SI35A08堅穴住居跡出土遺物	21	第58図	Ⅲ層上面SX性格不明遺構平面図・断面図（10）	48
第17図	SI35A10A堅穴住居跡平面図 SI35A10A・B 堅穴住居跡断面図	22	第59図	Ⅲ層上面SX性格不明遺構平面図・断面図（11）	49
第18図	SI35A10B堅穴住居跡平面図・断面図	23	第60図	Ⅲ層上面SX性格不明遺構出土遺物（9）	50
第19図	SI35A10A・B堅穴住居跡土層記述	24	第61図	Ⅲ層上面SX性格不明遺構出土遺物（10）	51
第20図	SI35A10堅穴住居跡出土遺物	25	SX35A32		51
第21図	SI2516堅穴住居跡平面図・断面図	26	第62図	Ⅲ層上面SX性格不明遺構出土遺物（11）	52
第22図	Ⅲ層上面SA区施設平面図・断面図	26	第63図	Ⅲ層上面ピット平面図・断面図（1）	53
第23図	Ⅲ層上面SD溝跡平面図・断面図	27	第64図	Ⅲ層上面ピット平面図・断面図（2）	54
第24図	Ⅲ層上面SD溝跡出土遺物	28	第65図	SD2523 小溝状遺構群35次A群平面図・ 断面図	55
第25図	Ⅲ層上面SK土坑平面図・断面図（1）	29	第66図	小溝状遺構群35次A群断面図	56
第26図	Ⅲ層上面SK土坑出土遺物（1）	29	第67図	小溝状遺構群35次A群出土遺物	56
第27図	Ⅲ層上面SK土坑平面図・断面図（2）	30	沼向遺跡第35次調査A区 Ⅱ層上面遺構 全体図	57・58	
第28図	Ⅲ層上面SK土坑出土遺物（2）	30	第69図	Ⅱ層上面SD溝跡断面図	59
第29図	Ⅲ層上面SK土坑平面図・断面図（3）	31	第70図	Ⅱ層上面SD溝跡出土遺物	60
第30図	Ⅲ層上面SK土坑出土遺物（3）	31	第71図	Ⅱ層上面SK土坑平面図・断面図	60
第31図	Ⅲ層上面SK土坑平面図・断面図（4）	32	第72図	Ⅱ層上面SX性格不明遺構平面図・断面図	61
第32図	Ⅲ層上面SK土坑出土遺物（4）	33	第73図	Ⅱ層上面SX性格不明遺構出土遺物	62
第33図	Ⅲ層上面SK土坑出土遺物（5）	34	第74図	Ⅱ層上面ピット平面図・断面図	63
第34図	Ⅲ層上面SK土坑平面図・断面図（5）	34	第75図	その他の出土遺物	64
第35図	Ⅲ層上面SK土坑平面図・断面図（6）	35	第76図	古墳時代後期の土師器変遷図	67
第36図	Ⅲ層上面SK土坑出土遺物（6）	35	第77図	沼向遺跡第35次調査A区検出遺構 新旧関係模式図	68
第37図	Ⅲ層上面SK土坑平面図・断面図（7）	35			
第38図	Ⅲ層上面SK土坑出土遺物（7）	36			
第39図	Ⅲ層上面SK土坑平面図・断面図（8）	36			
第40図	Ⅲ層上面SK土坑出土遺物（8）	37			
第41図	Ⅲ層上面SX性格不明遺構平面図・断面図（1）	37			
第42図	Ⅲ層上面SX性格不明遺構平面図・断面図（2）	38			
第43図	Ⅲ層上面SX性格不明遺構出土遺物（1）				

第78図	沼向遺跡第35次調査A区遺構群変遷図	69
第79図	沼向遺跡第35次調査B区南壁土層 断面位置図・等高線図	75
第80図	沼向遺跡第35次調査B区南壁土層断面	75
第81図	沼向遺跡第35次調査B区Ⅲ層上面遺構全体図	76
第82図	Ⅲ層上面SA区施設平面図・断面図	77
第83図	Ⅲ層上面SK土坑平面図・断面図	78
第84図	Ⅲ層上面SX性格不明遺構平面図・断面図	79
第85図	Ⅲ層上面SX性格不明遺構出土遺物	80
第86図	Ⅲ層上面ビット平面図・断面図	80
第87図	沼向遺跡第35次調査B区Ⅱ層上面遺構全体図	81
第88図	Ⅱ層上面SD溝跡断面図	81
第89図	Ⅱ層上面SD溝跡出土遺物	82
第90図	Ⅱ層上面ビット平面図・断面図	82
第91図	B区その他の出土遺物	82
第92図	沼向遺跡第35次調査B区検出遺構 新旧関係模式図	83
第93図	第35次調査C区南壁土層断面(1)	85
第94図	第35次調査C区南壁土層断面(2)	86
第95図	沼向遺跡第35次調査C区南壁土層 断面位置図・等高線図	86
第96図	沼向遺跡第35次調査C区Ⅲ層上面遺構全体図	87
第97図	7号方形周溝墓平面図・断面図	88
第98図	Ⅲ層上面SK土坑平面図・断面図	89
第99図	沼向遺跡第35次調査C区Ⅱ層上面遺構全体図	90
第100図	Ⅱ層上面SD溝跡断面図	91
第101図	Ⅱ層上面SD溝跡出土遺物	91
第102図	Ⅱ層上面SK土坑平面図・断面図	92
第103図	Ⅱ層上面SX性格不明遺構平面図・断面図	92
第104図	沼向遺跡第35次調査C区検出遺構 新旧関係模式図	93
第105図	沼向遺跡第35次調査D区 壁土層断面位置図・等高線図	95
第106図	沼向遺跡第35次調査D区試掘区土層断面	96
第107図	沼向遺跡第35次調査D区全体図	97
第108図	Ⅱ層上面SD溝跡断面図	97

表 目 次

第1表	遺跡地名表	7
第2表	第35次調査A区遺物出土数量表(1)	71
第3表	第35次調査A区遺物出土数量表(2)	72
第4表	第35次調査A区SI堅穴住居跡・ 堅穴遺構観察表	72
第5表	第35次調査A区SA区施設観察表	72
第6表	第35次調査A区SD溝跡観察表	72
第7表	第35次調査A区SK土坑観察表(1)	72
第8表	第35次調査A区SK土坑観察表(2)	73
第9表	第35次調査A区SX性格不明遺構観察表	73
第10表	第35次調査A区ビット観察表	74
第11表	第35次調査A区小溝状遺構群観察表	74
第12表	第35次調査B区遺物出土数量表	84
第13表	第35次調査B区SA区施設観察表	84
第14表	第35次調査B区SD溝跡観察表	84
第15表	第35次調査B区SK土坑観察表	84
第16表	第35次調査B区SX性格不明遺構観察表	84
第17表	第35次調査B区ビット観察表	84
第18表	第35次調査C区その他の出土遺物	92
第19表	第35次調査C区遺物出土数量表	94
第20表	第35次調査C区方形周溝墓観察表	94
第21表	第35次調査C区SD溝跡観察表	94
第22表	第35次調査C区SK土坑観察表	94
第23表	第35次調査C区SX性格不明遺構観察表	94
第24表	第35次調査D区遺物出土数量表	98
第25表	第35次調査D区SD溝跡観察表	98

写真図版目次

写真図版-1 (A区)	101
写真図版-2 (A区)	102
写真図版-3 (A区)	103
写真図版-4 (A区)	104
写真図版-5 (A区)	105
写真図版-6 (A区)	106
写真図版-7 (A区)	107
写真図版-8 (A区)	108
写真図版-9 (A区)	109
写真図版-10 (A区)	110
写真図版-11 (B区)	111
写真図版-12 (B区)	112
写真図版-13 (C区)	113
写真図版-14 (C区)	114
写真図版-15 (D区)	115
写真図版-16 (遺物)	116
写真図版-17 (遺物)	117
写真図版-18 (遺物)	118
写真図版-19 (遺物)	119
写真図版-20 (遺物)	120

第1章 調査概要

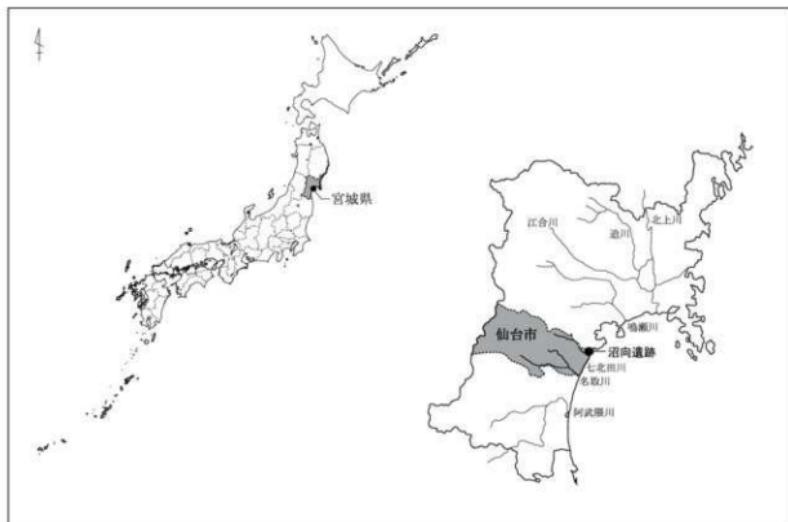
第1節 調査に至る経緯

平成2年11月16日に都市計画決定(平成3年7月23日事業計画決定)された事業区域には、現在、発掘調査対象遺跡として中野高柳遺跡、竹ノ内遺跡、沼向遺跡(遠藤館を含む)がある。

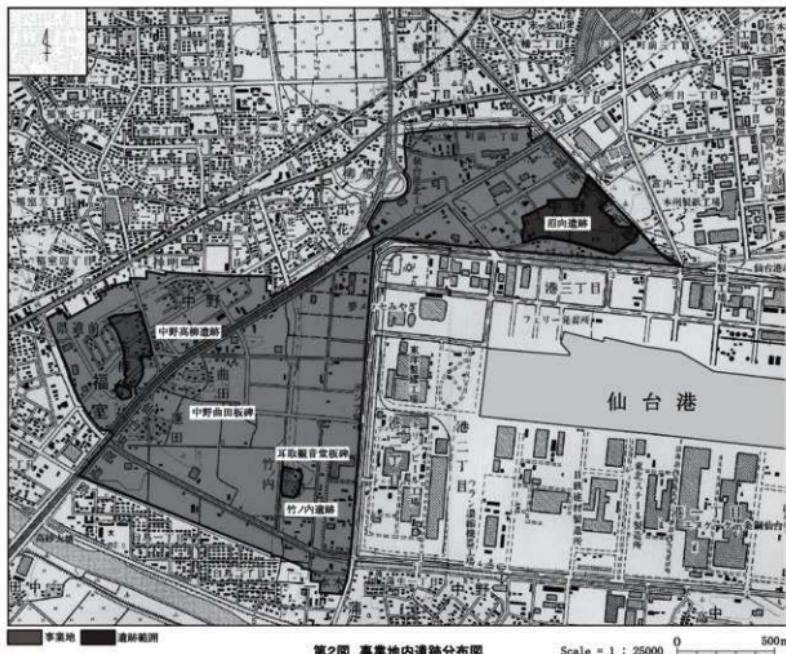
平成2年度から土地区画整理を担当する県土木側と文化財行政を担当する宮城県文化財保護課及び仙台市文化財課との間で、事業と遺跡の調査等について協議が重ねられた。協議の一環として、周知されていた高柳A遺跡・高柳B遺跡、竹ノ内遺跡、沼向遺跡、中野曲田板碑、耳取觀音堂板碑等について、平成2年度に宮城県文化財保護課、仙台市文化財課及び宮城県国際港都市整備課の3者で、改めて分布調査を行なった。平成3年度から5年度にかけては、分布調査の結果を受けて、高柳A・B遺跡と竹ノ内遺跡の確認調査を宮城県文化財保護課、沼向遺跡の確認調査を仙台市文化財課が実施した。

平成5年9月7日、確認調査の報告会を開催、遺跡範囲を確定し、本調査範囲を文化財側から説明した。この時に高柳A遺跡と高柳B遺跡を中野高柳遺跡と一本化し、その範囲も他の遺跡同様、若干変更している。

それを受けて平成6年度から本調査を開始した。その後、平成6年度の沼向遺跡の調査において、その北側の水田(後背湿地)を試掘調査し、水田の広がりを確認したので、遺跡範囲を北側に拡大している。遺跡範囲は東西約600m、南北約350mの約11.7haである。平成16年度までに34次にわたる調査が行なわれ、古墳時代前期、後期、奈良～平安時代初頭、近世を中心とした遺構遺物が検出されている。今回、調査の対象となったのは、第3図に示すように道路建設予定地部分である。A区・B区・C区では本調査を行ない、隣接地を含むD区では試掘調査を行なった。なお、第1次～3次調査報告書はすでに刊行されているが、第4次～34次調査の報告書は現在作成中である。



第1図 沼向遺跡位置図

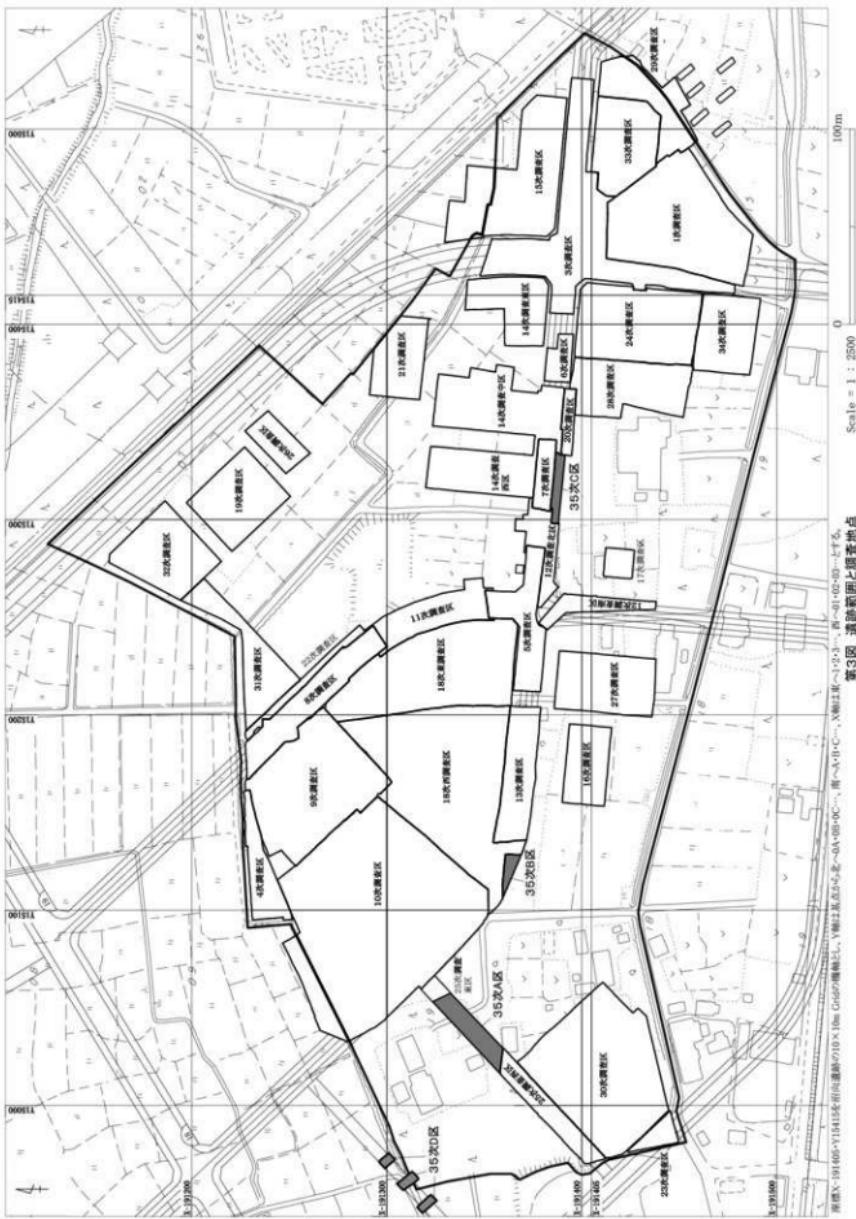


第2図 事業地内遺跡分布図

Scale = 1 : 25000 0 500m

第2節 調査要綱

遺跡名称	沼向遺跡（宮城県地名表記載番号 01151、仙台市文化財登録番号 C-177）
所在地	宮城県仙台市宮城野区中野字沼向 87、107-3、134-1 他
調査主体	仙台市教育委員会（生涯学習部文化財課）
調査監督者	調査係主査 斎野裕彦・調査係文化財教諭 佐伯修一
調査担当者	株式会社四門仙台支店 高橋直崇
調査員	株式会社四門仙台支店 田口雄一（発掘調査）
調査補助員	株式会社四門仙台支店 田口雄一（遺物整理）・山内七恵（発掘調査）
計測員	株式会社四門仙台支店 山谷信夫
計測補助員	株式会社四門仙台支店 志賀昌弘
調査面積	839.4 m ²
	A区…460.3 m ²
	B区… 83.0 m ²
	C区…166.7 m ²
	D区…129.4 m ² [試掘] (1トレンチ…43.3 m ² 、2トレンチ…52.2 m ² 、3トレンチ…33.9 m ²)
調査期間	平成20年7月28日～平成20年10月20日
	A区…7月28日～10月20日
	B区…7月30日～ 9月12日



第3図 遺跡範囲と調査地点

C区…7月30日～9月17日

D区…9月29日～9月30日

検出遺構 総数162基

A区…計128基（竪穴住居跡4軒、竪穴遺構2基、区画施設1条、溝跡18条、土坑35基、性格不明遺構29基、ピット38基、小溝状遺構群1群）

B区…計21基（区画施設1条、溝跡3条、土坑4基、性格不明遺構7基、ピット6基）

C区…計12基（方形周溝墓1基、溝跡8条、土坑2基、性格不明遺構1基）

D区…計1基（溝跡1条）

出土遺物 総数10162点（土師器、須恵器、陶磁器、土製品、石製品、木製品、金属製品など、天箱26箱分）

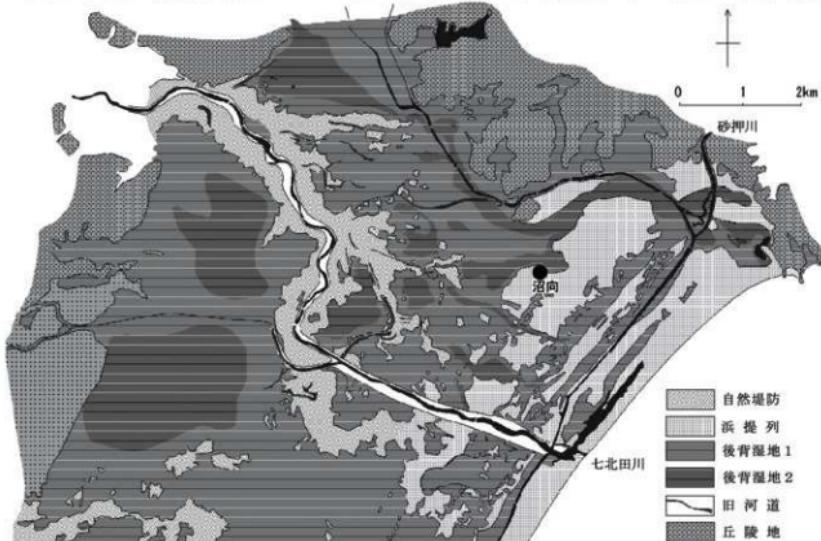
第3節 遺跡の位置と環境

1. 地形的環境

沼向遺跡は、仙台市北東端、仙台港フェリー埠頭から北方約400m、多賀城市と隣接する宮城野区中野字沼向に位置する（第2図）。仙台平野は、海岸線に沿って3列の浜堤列が形成されており、沼向遺跡はこれらのうち、約5000年前に形成された最も内陸側の浜堤列（第I浜堤列）と、その背後に広がる後背湿地に立地する（第4図）（松本：1994）。現況における標高は浜堤列上で約1.5m、後背湿地で約0.6mである。

仙台平野は、南北約50km、東西約10kmの太平洋に面する臨海沖積低地である。平野の地盤高は、大部分で5m以下であり、地表面は極めて低平かつ低湿で、自然堤防、旧河道、後背湿地、浜堤列が明瞭に発達する。沖積低地の北方には、緩やかな起伏を有する丘陵地が広がり、北東には無数の島が散在する松島湾と七ヶ浜半島がある。仙台平野西方には、標高100mを越えない低丘陵が広がっている。

仙台平野北部は、幹線流路長45kmの七北田川下流域に位置する。沼向遺跡は、七北田川の北側、多賀



※ 松本秀明ほか2005「仙台平野北部、七北田川下流域に発達する自然堤防地形の形成年代と箇離堆積過程」『2005年日本地理学会春季学術大会講演要旨集』No.67
をもとに、松本氏の勘定を受け作成した。

第4図 仙台平野北部微地形分類図

城政府南面を東流する砂押川の南側に位置する。七北田川はかつて冠川と称し、本流は現在の多賀城市新田から多賀城市八幡へと東流し湊浜で海に注いでいた。近世初頭において七北田川は、沼向遺跡の北側を流れていることになる。

2. 歴史的環境

縄文時代：仙台平野の北東に位置する七ヶ浜半島から松島湾内にかけては、縄文時代の遺跡が数多く分布している。七北田川流域では、北方の丘陵に金掘貝塚（第5図54）、五万崎遺跡（第5図55）、自然堤防に市川橋遺跡（第5図52）がある。

弥生時代：弥生時代の遺跡では、七ヶ浜半島の海岸部縁辺に梯形圓貝塚（第5図86）をはじめとして多くの貝塚がある。七北田川流域では遺跡は少なく、山王遺跡八幡地区（第5図50）で、中期中葉の遺物包含層が検出されている。また、丘陵では郷楽遺跡で後期の住居が調査されている。

古墳時代：古墳時代前期の仙台平野北部は、浜堤列上の沼向遺跡第1～3次調査で古墳及び方形周溝墓が、自然堤防とその縁辺からは、山王遺跡多賀前地区をはじめとした居住域と水田域が調査されている。古墳時代中期は、七北田川の自然堤防に鴻ノ巣遺跡（第5図34）、新田遺跡（第5図46）など、古墳時代後期前半まで継続する集落が営まれる。後期の後半には山王・市川橋付近に居住域が形成され、砂押川河口、七ヶ浜の丘陵南面に横穴墓群が造営される（第5図82・83・88・90）。

古代：奈良時代になると、沼向遺跡から北北西約3.5kmの丘陵上に多賀城（第5図53）が造営され、またその南東の丘陵に付属寺院である多賀城廃寺（第5図66）が置かれる。多賀城は、延暦二十三（802）年に胆沢城が完成すると鎮守府としての機能が移されるもの、10世紀後半に廃絶するまで律令制による東北経営に中心的な役割を果たした。陸奥国一宮である塩釜神社は、仙台平野の北東部、塩釜湾に面して位置する。

中世：奥州藤原氏が滅びた後、中世の仙台平野北部を掌握していたのは、岩切城（第5図155）を居城とした留守氏である。自然堤防上の微高地には、中野高柳遺跡（第5図2）、鴻ノ巣遺跡（第5図34）、新田遺跡（第5図46）、山王遺跡（第5図50）に留守氏の家臣団の居館や村落領主層のものと推定される屋敷跡がある。慶長年間（1596～1615）には、蒲生村肝入の小野源三は、七北田川の流路を蒲生へ流れよう開削した。

近世：伊達氏は、仙台に領地を移した後、藩財政の建て直し策として海上交通網の整備及び石高の増収に取り組み、寛文十（1670）年に、塩釜湾と仙台城下を結ぶ海上輸送路の強化として七北田川の改修工事及び、後に貞山堀（第5図9・87）と呼ばれる御船入堀、御船曳堀の開発事業にとりかかる。一方で、石高の増収策として、積極的に野谷地開発に取り組む。仙台藩は、野谷地開発の一方法として知行地附与に野谷地を含めた。伊達氏の入部当時に耕作不能の低湿地や遊水地が広がっている領土を田園地帯にしたのは家臣団の新田開発であった。伊達家臣遠藤半助重久は寛永21（1644）年に中野村に屋敷を賜り、沼向の野谷地を拝領する。この屋敷も沼向遺跡に含まれる。沼向遺跡周辺では、自然堤防に立地する大日北遺跡（第5図45）で、近世墓群が調査されている。

第4節 調査の方法と経過

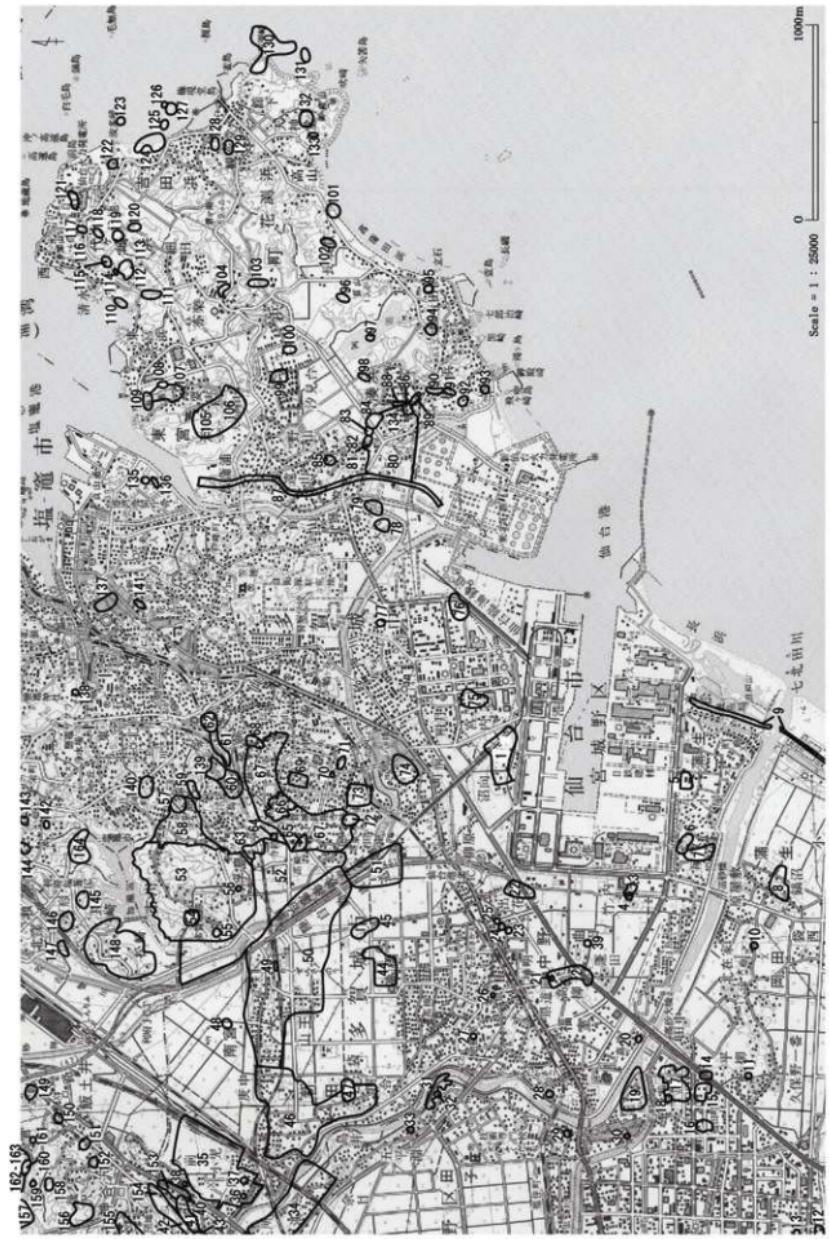
1. 調査区と調査Gridの設定

今回実施した発掘調査は、仙台港背後地の区画整理事業に伴う道路整備の事前発掘調査である。道路予定期地より2m外側までを調査対象とし、4ヶ所の調査区を設定した（第3図）。本調査では、沼向遺跡第1～3次調査で用いられた国家座標を基準とし、座標X-191405・Y15415を機軸とした。10×10mのグリッドを踏襲しており、国家座標の数値は日本測地系（平面直角座標系X）を用いている。グリッド名は、Y軸では基点から北へ0A・0B・0C…、南へA・B・C…、X軸では東へ1・2・3…、西へ01・02・03…とする。また、各グリッドは5×5mに細分し、北西から時計回りにa・b・c・dとした。遺構の位置はGridで示し、遺構に伴わない遺物はグリッドごとに取り上げた。

2. 遺構の名称

遺構名の略語として、SI：竪穴住居跡・竪穴遺構、SA：区画施設、SD：溝跡、SK：土坑、SX：性格不

第5図 周辺の道路図



第1表 遺跡地名表

No.	遺跡名	種別	立地	時代	No.	遺跡名	種別	立地	時代
1	前山遺跡	古墳・集落・水田跡	丘陵・後背複地	弥生・平安・平成	84	大代貝塚(備文貝塚)	貝塚・堆塚	丘陵斜面	縄文・古代
2	中野原遺跡	散布地	丘陵・台地	平安・中世	85	柏木塚	散在地・製陶	丘陵斜面	古代
3	竹ノ丸遺跡	散布地	丘陵	平安	86	側市貝塚	貝塚・堆塚	丘陵斜面	弥生・古代
4	耳取神宮堂板碑群	散布地	自然遺跡	中世	87	貞山遺跡	溝河	山麓開拓地	近世
5	西原遺跡	散布地	自然遺跡	奈良・平安	88	御前塚穴墓群	横穴墓	丘陵斜面	古墳後
6	牛の子遺跡	散布地	自然遺跡	奈良・平安	89	砂山穴墓群	横穴墓	丘陵斜面	古墳
7	和田母祖御跡	屋敷	丘陵	近世	90	裏山横穴墓群	横穴墓	丘陵斜面	古墳後
8	田母母祖御跡	屋敷	自然遺跡	近世	91	弁人遺跡	散在地	海岸	古代
9	真山遺跡	屋敷	丘陵	近世	92	半天山遺跡	散在地	丘陵斜面	古代
10	岡田神社坂板碑群	板碑	自然遺跡	中世	93	弁大・遺跡	散在地	海岸	古代
11	福室寺古神社坂板碑群	板碑群	自然遺跡	中世	94	安山貝塚	貝塚・堆塚	丘陵斜面	縄文・弥生・古代
12	地藏院遺跡	散布地	自然遺跡	中世	95	諏訪神社前遺跡	散在地・製陶	丘陵	縄文・弥生・古代
13	六丁の木町北町板碑群	板碑	自然遺跡	中世	96	鬼の塚横穴墓群	横穴墓	丘陵斜面	古墳
14	小原遺跡	散布地	自然遺跡	平安	97	阿川削面塚	貝塚	丘陵斜面	縄文・弥生
15	鶴見山遺跡	散布地	自然遺跡	平安	98	林崎貝塚	貝塚	丘陵斜面・海岸	縄文・弥生・古代
16	田子山遺跡	散布地	自然遺跡	平安	99	野山唐松塚	製塩場	丘陵斜面	縄文・弥生
17	鶴見山遺跡	散布地	自然遺跡	平安	100	鬼ヶ原山野山貝塚	貝塚・製塩場	丘陵斜面	縄文・弥生・部長
18	勝野吉野神社坂板碑群	板碑	自然遺跡	中世	101	長須賀遺跡	貝塚・製塩場	丘陵斜面	縄文・平安
19	福島山遺跡	散布地	自然遺跡	平安	102	東川原遺跡	散在地	海岸	古墳
20	八咫八幡神社坂板碑群	板碑	自然遺跡	中世	103	下田遺跡	製陶	丘陵斜面	不明
21	中野原板碑群	板碑	自然遺跡	中世	104	且谷遺跡	製陶	丘陵斜面	不明
22	出之遺跡	散布地	自然遺跡	奈良・平安	105	太木城跡	城館	丘陵	中世
23	出之一丁目八坂神社坂板碑群	板碑群	自然遺跡	中世	106	木内削面塚	貝塚	丘陵	縄文・前後
24	出之二丁目八坂神社坂板碑群	板碑	自然遺跡	中世	107	左道遺跡	散在地	丘陵	古代
25	出之三丁目八坂神社坂板碑群	板碑群	自然遺跡	中世	108	小保ノ貝塚	貝塚	丘陵	縄文・弥生・古代
26	蟹守寺遺跡	散布地	自然遺跡	中世	109	左道貝塚	貝塚	丘陵斜面	縄文・古代
27	西光寺今井遺跡	板碑	自然遺跡	縦倉	110	昌山唐松塚	散在地・製塩場	丘陵斜面	弥生・平安
28	延宝寺板碑群	板碑	自然遺跡	縦倉	111	小久唐松塚	散在地・製塩場	丘陵斜面	弥生・古代
29	雲間寺板碑群	板碑	自然遺跡	中世	112	水浜貝塚	貝塚・製塩場	丘陵斜面	弥生・古代
30	四野原寺堂板碑群	板碑	自然遺跡	中世	113	水原唐松塚	散在地・製塩場	丘陵斜面	平安
31	蟹下遺跡	散布地	自然遺跡	平安	114	水舟横穴墓	横穴墓	海蜘蛛尾	古墳
32	蟹山遺跡	散布地	自然遺跡	中世	115	土居山貝塚	貝塚	丘陵斜面	弥生・古代
33	五平山板碑群	板碑群	自然遺跡	中世	116	土居山貝塚	貝塚・製塩場	丘陵斜面	平安
34	鹿ノ瀬遺跡	集落	自然遺跡	奈良～中世	117	清水原貝塚	貝塚	丘陵斜面	弥生・平安
35	鶴ノ口遺跡	集落・城館・水田跡	自然遺跡	奈良・平安・中世・近世	118	清水貝塚	貝塚・製塩場	丘陵斜面	古代
36	鶴ノ口八坂神社坂板碑群	板碑	自然遺跡	中世	119	東貝塚	貝塚・製塩場	丘陵斜面	縄文・古代
37	鶴ノ口坂板碑群	板碑	自然遺跡	中世	120	沢上貝塚	貝塚	丘陵斜面	縄文・古代
38	荒瀬原音堂板碑群	板碑	自然遺跡	中世	121	新田貝塚	貝塚	丘陵斜面	平安
39	中野原坂板碑群	板碑	自然遺跡	中世	122	神明遺跡	散在地	丘陵斜面	古代
40	化野原坂板碑群	板碑	自然遺跡	中世	123	尻尾只塚	貝塚	海岸	縄文・弥生・平安
41	羽佐根横穴墓群	板碑群	丘陵削面	中世	124	二月田削面塚(草薙貝塚)	貝塚	丘陵斜面	縄文・後・魏・孫
42	黒野原横穴墓群	板碑群	丘陵削面	中世	125	吉田神社遺跡	散在地	丘陵斜面	古代
43	五平山板碑群	板碑群	丘陵削面	中世	126	吉田削面塚	貝塚	丘陵斜面	縄文・中世
44	鶴ノ瀬遺跡	集落	自然遺跡	奈良～中世	127	吉田城跡	城館	丘陵	中世？
45	大日北遺跡	散布地	自然遺跡	古代～万世	128	櫛ノ口遺跡	貝塚	丘陵斜面	縄文・中世
46	新川削面塚	集落・屋敷	自然遺跡	古代～万世	129	若山貝塚	貝塚	丘陵斜面	縄文・中
47	安来城跡	寺院	自然遺跡	古代～中世	130	花南削面塚	城館	散在地	平安・中世
48	内田船跡	城館	自然遺跡	中世	131	翁前神社遺跡	散在地	丘陵斜面	古代
49	山王城跡千利進地区	集落・都市・屋敷・貝塚	自然遺跡	弥生～近世	132	表貝塚	貝塚	海岸	平安
50	山王城跡	集落・都市・屋敷・貝塚	自然遺跡	弥生～近世	133	高山西原唐松塚	横穴墓	丘陵斜面	古墳後
51	大貫遺跡	散布地	自然遺跡	古代	134	新田削面塚	貝塚	海岸	古代
52	大日北遺跡	散布地	自然遺跡	古代～万世	135	一本木貝塚	貝塚・製塩場	海岸	縄文・平安
53	神代城跡 多賀城跡	城館・市	自然遺跡	古代～平安	136	一本木横穴墓群	横穴墓	丘陵斜面	縄文・古墳
54	金命山遺跡	円墳	丘陵削面	古代～後	137	集落古跡	城館	丘陵	中世
55	方正山遺跡	円墳	丘陵	古文・後	138	龜釜山神社境内遺跡	散在地・製塩場	丘陵斜面	縄文・後
56	田原廢塚穴墓群	废穴墓	丘陵削面	古墳後	139	福山削面塚	横穴墓	丘陵斜面	平安・中世
57	法門山遺跡	坡面	自然遺跡	古代	140	母子丸貝塚	散在地	丘陵斜面	平安
58	西原削面塚	集落	丘陵	古代～中世	141	加須原横穴墓群	横穴墓	丘陵斜面	奈良？
59	高原削面塚	散在地	丘陵	古代～中世	142	十本木道跡	城館	丘陵	古代
60	小伏遺跡	散布地	丘陵	古代～中世	143	十三塚跡	散在地	丘陵斜面	古代
61	野川削面塚	城館	丘陵削面	古代～中世	144	阿女森遺跡	散在地	丘陵斜面	縄文・後
62	矢子山地跡	城館・城塹	丘陵	古代～中世	145	猿置遺跡	散在地	丘陵斜面	古代
63	熊前城跡	官衙・城館	丘陵	古代～中世	146	天用削面塚	散在地	丘陵斜面	古代
64	今野原住宅区	官衙	丘陵削面	近世	147	北住跡	散在地	丘陵斜面	古代
65	高崎削面塚	円墳	丘陵削面	古墳・古文～近世	148	加瀬原跡	散在地	丘陵斜面	縄文・古代
66	多賀城跡寺跡	寺院	丘陵	奈良・平安	149	伊豆山比賣神社	神社	丘陵	平安
67	高崎削面塚	集落・都市・城館	丘陵	奈良・平安・中世	150	高野山通路	散在地	丘陵斜面	古墳・平安
68	留・谷遺跡	城館	丘陵	古代～中世	151	西天神遺跡	散在地	丘陵斜面	古代
69	御原削面塚	城館	丘陵	古代～中世	152	聚元古墳	円墳	丘陵	古墳
70	物荷原遺跡	円墳	丘陵	古墳後	153	船ノ口遺跡	城館	丘陵	中世
71	桜井削面塚	坡面	丘陵	中世	154	羽白山通路	散在地	丘陵斜面	中世
72	東山二條前遺跡	散布地	丘陵	古代～中世	155	羽切通路	城館	丘陵	中世
73	志引遺跡	散布地	城館	古代～中世	156	北之丸二重墓群	横穴墓	丘陵	古墳
74	八幡城跡	散布地	城館	古代～中世	157	菅谷削面塚	城館	丘陵	奈良～中世
75	八幡外削面塚	集落	丘陵	古代～近世	158	菅曾丸跡	散在地	丘陵斜面	古代
76	東京削面塚	散布地	丘陵	古代	159	六ヶ所遺跡	散在地	丘陵斜面	古代
77	木曾遺跡	城館	丘陵	不明	160	六葉削面屋敷	磨砂	丘陵	古墳
78	西原削面塚	散布地	丘陵	古代	161	馬場削面塚	横穴墓	丘陵斜面	古墳後
79	元寺削面塚	散布地	自然遺跡	古代	162	菅谷削面土遺跡	散布地	丘陵斜面	古代
80	大代削面塚	散布地	自然遺跡	古代	163	菅谷横穴墓群	横穴墓	丘陵	古墳後
81	大代削面塚	官衙	海崖	弥生・中世	164	加瀬原貝塚	貝塚	丘陵斜面	縄文・古代
82	大代削穴墓群	横穴墓	丘陵削面	古墳後					
83	德本削面塚	横穴墓	丘陵削面	古墳後					

明遺構、P:ピットを使用した。遺構番号については、第35次調査A区1号土坑は「SK35A01」、第35次調査B区2号溝跡は「SD35B02」のように頭に調査区名を付して表記した。また、隣接する調査区から続く遺構については、先行する調査区の遺構名称を優先した。調査中に欠番とした遺構名称については、名称の振り替えは行なわず、そのままとした。

3. 基本層序

今回の発掘調査では、沼向遺跡第1～3次調査報告書の基本層序に準じて分層した。

(1) 浜堤列基本層序

沼向遺跡第1～3次調査では、浜堤列の基本層序は、大別でI～III層の3層が確認されている。基本層I層は、砂質シルトの耕作土及び整地層である。II層は黒色～黒褐色の粘土質シルトやシルトの自然堆積層である。III層は浜堤列を構成する砂層である。

基本層のうち、I層はa、b、c層に細分される。Ia層は調査開始前の耕作土及び整地層である。第35次調査A区では、Ia₁層とIa₂層に細分した。Ib層は、Ia層以前の耕作土及び整地層である。第35次調査A区ではIb₁層とIb₂層に細分した。Ic層は、Ia層・Ib層がIII層上面に及ぼした搅乱層で、第35次調査では確認していない。II層はIIa₁、IIa₂、IIa₃、IIb層に細分される。このうち、IIa₂層は灰白色火山灰層で、第1～3次調査のテフラ分析で、延喜15（915）年降下の十和田火山灰という結果が得られている。この層を挟むIIa₁層、IIa₃層は、黒色で粘土質の自然堆積層である。III層は、a、b、c、d、e、f、gの7層に細分される。これらのうち、IIIa～IIId層はIIIe層上面の地形的に窪んだ部分でのみ認められる層である。IIIe～IIIf層は、IIIe層の下面に堆積する層で、第35次調査では確認していない。また、第1～3次調査の基本層序に当たるまらない層は、それぞれの調査区でA層、B層とした。

第35次調査では、A区でIa₁層、Ia₂層、Ib₁層、Ib₂層、IIa₁層、IIa₂層、IIIe層を、B区でIa層、Ib層、IIa₁層、IIIe層を、C区でIa層、Ib層、IIa₁層、IIb層、IIIa層、IIIe層を、D区でIa層、Ib層、IIb層、IIIa層、IIIe層を確認した。

(2) 後背湿地基本層序

沼向遺跡第1～3次調査では、後背湿地の基本層序は大別12層、細別19層が確認されている。1層は現代の水田耕作土、2層は現代の客土、3a層は近世水田耕作土、3b層は水田耕作土もしくは粘土層、3c層は自然堆積の泥炭質粘土層、4層は十和田火山灰、5層は自然堆積の泥炭質粘土層、6層は砂層である。7層及び8層は自然堆積の泥炭質粘土層で、第1～3次調査では、8層を8a層と8b層に細分し、8a層を水田耕作土としている。第4次調査以降では8層中に水田耕作土が認められず、7層と8層を明確に分離できなかったため、同一層として7・8層とした。本調査区についても、7層と8層は分離できなかつたため、第4次調査以降の基本層序にしたがい、7・8層として報告する。9a層は奈良時代～平安時代初頭の水田耕作土、9b層は自然堆積の粘土層、10a層は古墳時代後期～奈良時代の水田耕作土、10b層は自然堆積の粘土層、11層は古墳時代中期を遡る水田耕作土、12a層及び12b層は粘土を主体とする自然堆積層である。

第35次調査では、D区で後背湿地基本層2層、4層、5層、6層、7・8層を確認した。

4. 遺構検出面

沼向遺跡の浜堤列で検出される遺構は、「II層上面遺構」と「III層上面遺構」の2時期に大別できる。これまでの調査では「II層上面遺構」は近世、「III層上面遺構」は古墳時代～古代を中心とする遺構群であることが明らかとなっている。それぞれ、浜堤列基本層I層除去後のII層上面、II層除去後のIII層上面で検出される遺構のことを指している。これらの遺構埋土は、「II層上面遺構」では黒色～黒褐色の砂質シルトや粘土を主体とするのに対し、「III層上面遺構」では褐色～にぶい黄褐色の砂質シルトやシルト質砂を主体とするため、両者は明確に区分することができる。第35次調査においても、この先行調査の成果をもとに、「II層上面遺構」と「III層上面遺構」に分ける方法を用いて、遺構の分類ならびに記述を行うこととした。なお、基本層II層は、第35次調査では、I層に削平されていることが多く、部分的にしか残存していない傾向があった。

5. 調査方法

表土の掘削は、遺構確認面直上までバックホウを用いて行なった。図面の作成は、平面図及び地形測量はト

ータルステーションによる三次元計測を行ない、土層断面図は手書き図面を中心に、遺物微細図などは手書き図面と写真実測を併用した。写真撮影は35mmフィルムカメラでリバーサルフィルム、モノクロフィルムで撮影し、デジタルカメラを併用した。調査区全景写真撮影は、ローリングタワー及びスカイマスターを必要に応じて使い分けた。

6. 調査経過

(1) A区

7月28日から調査開始。A～C区外周フェンス設置、調査区設定、重機による表土掘削を開始。29日に南半部表土掘削を終了。II層上面遺構精查を開始。8月1日に南半部II層上面の遺構確認全景の写真撮影。5日から調査区北半を重機による表土掘削を行なう。25日にII層上面の遺構完掘全景の写真撮影。9月9日にIII層上面の遺構確認全景の写真撮影。10月17日にIII層上面の遺構完掘全景の写真撮影。20日に調査区北西壁土層断面の写真撮影の後、計測と機材を撤収し、調査を終了した。

(2) B区

7月30日に重機による表土掘削を開始。8月1日に遺構確認全景の撮影。9月12日に完掘全景の写真撮影。南壁土層断面の写真撮影・計測を行ない、調査を終了した。

(3) C区

7月30日に重機による表土掘削開始。8月1日に表土掘削終了。2日～6日に切株根切。6日に遺構確認全景の写真撮影。8日に南壁土層断面の写真撮影・計測。9月9日に北壁東側部分の拡張。周溝墓確認状況の写真撮影。17日に周溝墓完掘全景の写真撮影を行ない、調査を終了した。

(4) D区

9月29日に重機による表土掘削。1・2トレチの調査。30日も引き続き重機による表土掘削。2・3トレチの調査を行ない、重機でトレチを埋め戻し、調査を終了した。

第5節 整理作業の方法と経過

発掘調査中から、遺物洗いなどの基礎整理作業を行ない、11月1日から引き続き沼向遺跡調査事務所内にて、本格的に室内整理作業を開始した。

遺構は、調査中の遺構番号を優先し、欠番となった遺構番号の振り替えは行なっていない。遺構図は、測量用ソフトで平面図を作成し、断面図については図面編集ソフトにてトレースした。平面図と断面図の整合作業は、図面編集ソフト内で行なった。12月中旬に遺構図の編集作業は終了した。

遺物は、堅穴住居跡・堅穴遺構の床面・底面出土資料を優先して接合・実測及び登録作業を行なった。登録した遺物は基本的に全て実測対象とし、12月中旬に遺物実測作業は終了した。

1月に遺構写真図版、遺物写真図版を作成し、その後、編集作業を行なった。

調査参加者

赤坂 浩樹	及川 洋	大山のり子	萱場美枝子	小松 美樹	齋藤 勝彦	佐々木和江	佐々木久次郎
佐藤てる子	庄子 浩行	庄子 光治	鈴木 英治	鈴木 朝子	鈴木 将記	高橋 育	高橋 由美子
武田 隆志	千葉志津子	虎井 優子	西村 高志	畠中 美春	早坂 寛己	堀越 和也	松野 誠
三浦 綾子	三浦 喜代	森田 仁	森田 美保				

整理参加者

大山のり子	小松 美樹	佐々木和江	鈴木 英治	鈴木 朝子	鈴木 将記	千葉志津子	虎井 優子
西村 高志	畠中 美春	三浦 綾子	三浦 喜代				

第2章 第35次調査A区

第1節 調査概要

1. 調査の経過

A区は遺跡範囲の西部に位置し、北東と南西は第25次調査区に接する。調査期間は7月28日～10月20日で、実働46日間である。調査面積は460.3m²である。

確認した遺構は、III層上面遺構では、竪穴住居跡4軒、竪穴遺構2基、区画施設1条、溝跡5条、土坑28基、性格不明遺構28基、ピット25基、小溝状遺構群1群30条、II層上面遺構では、溝跡13条、土坑7基、性格不明遺構1基、ピット13基の計128基である。

出土した遺物は、繩文土器、弥生土器、非クロト師器、須恵器、陶磁器、土製品、石製品、礫、金属製品、木製品などで、計9683点である。

遺構確認面の標高は1.0～1.2mである。

2. 基本層序

沼向遺跡第1～3次調査に準じた基本層、Ia₁層・Ib₁層・IIa₁層・IIa₂層・IIIe層を確認した。本調査区では、Ia₁層をIa₁層・Ia₂層に細分し、Ib₁層をIb₁層・Ib₂層に細分した。また、沼向遺跡第1～3次浜堤列基本層序に対応しない自然堆積層をA層・B層とした。遺構はII層上面遺構、III層上面遺構ともIII層上面で検出している。

I層 Ia₁層・Ia₂層・Ib₁層・Ib₂層の4層を確認した。

Ia₁層 黒褐色砂質シルトからなる。炭化物、焼土粒を含む。現代の畑耕作土及び整地土である。調査区中央では、下面が小溝状に起伏しており、底部に糞穀の混入が認められる。層厚は20～52cmである。

Ia₂層 にぶい黄褐色砂質シルトからなる。暗褐色砂質シルト、黒褐色粘土質シルトブロックを含む。Ia₁層以前の整地土である。層厚は0～30cmである。

Ib₁層 暗褐色粘土質シルトからなる。Ia₂層以前の畑耕作土及び整地土である。II層上面遺構のうち、新しい段階の遺構は、Ib₁層上面から掘り込まれる。また、II層上面遺構のうち、古い段階の遺構埋土上層はIb₁層に類似する。層厚は0～34cmである。

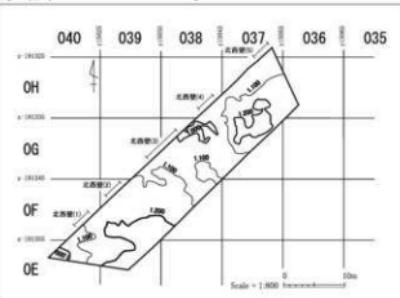
Ib₂層 黒色粘土質シルトからなる。黒褐色粘土質シルトブロックを少量含む。Ib₁層以前の畑耕作土及び整地土である。土色や土性は、基本層IIa₁層に類似する。II層上面遺構のうち、古い段階の遺構埋土下層はIb₁層に類似する。層厚は0～24cmである。

II層 IIa₁層とIIa₂層の2層を確認した。いずれも自然堆積層である。

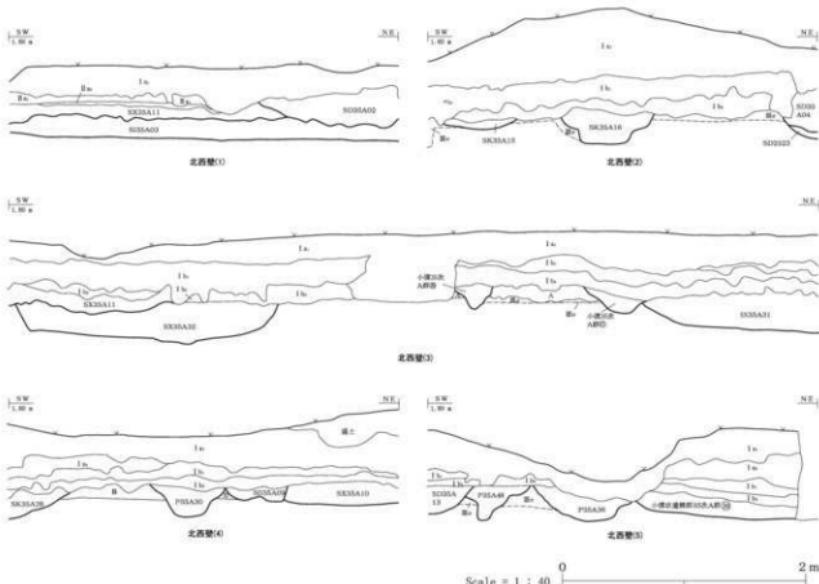
IIa₁層 黒色粘土質シルトからなる。灰白色火山灰ブロックを少量含む。調査区南西部で平面的に確認された。層厚は0～10cmである。

IIa₂層 いわゆる灰白色火山灰層である。層相変化で、にぶい黄褐色または褐灰色を呈す。調査区南西部で平面的に確認した。層厚は0～4cmである。

III層 IIIe層を確認した。自然堆積層である。



第6図 第35次調査A区 北西壁土層断面位置図・等高線図



第7図 第35次調査A区北西壁土層断面

IIIe層 にぶい黄褐色～にぶい黄橙色シルト質砂からなる。IIIe層上面で遺構検出を行なっている。層厚は0～20cm以上である。

- A層** 暗灰黄色粘土質シルトからなる。灰黃褐色シルト質砂を多量に含む。調査区北東のIIIe層上面で確認された層で、III層上面遺構はA層上面から掘り込まれる。層厚は0～15cmである。
- B層** 灰黃褐色シルト質砂からなる。調査区南西のIIIe層上面で確認された層で、III層上面遺構はB層上面から掘り込まれる。層厚は0～12cmである。

第2節 検出遺構と出土遺物

1. III層上面遺構

III層上面の遺構は堅穴住居跡4軒、堅穴遺構2基、区画施設1条、溝跡5条、土坑28基、性格不明遺構28基、ピット25基、小溝状遺構群1群30条の、合計94基を検出した。第8図は、III層上面遺構の全体図である。III層上面遺構は、後述するように、複数時期に区分され、そのうち最も新しい時期の遺構群は第65図に示し、それに先行する時期の遺構群を第9図に示した。

(1) SI堅穴住居跡・堅穴遺構 III層上面の堅穴住居跡はSI35A03、SI35A08、SI35A10（A・B）、SI2516の4軒、堅穴遺構はSI35A01、SI35A04の2基を検出した。

SI35A01堅穴遺構 (第10図、第4表、写真図版3) 0F-039c 0F-038d Gridに位置する堅穴遺構である。本遺構は重複関係から、小溝状遺構群35次A群より古く、SX35A13より新しい。南東は調査区外に続く。他遺構に削平され、遺存状況は悪い。平面形は東西に長い長方形で、長軸4.29m以上、短軸3.19m以上である。現存する長辺方向を長軸とした主軸方位は、N-85°-Wである。壁高は0.13mで、壁面の立ち上がり角は比較的遺存状況の良好な西壁で46度である。底面はやや起伏しており、底面標高は1.17～1.22mである。確

040

039

038

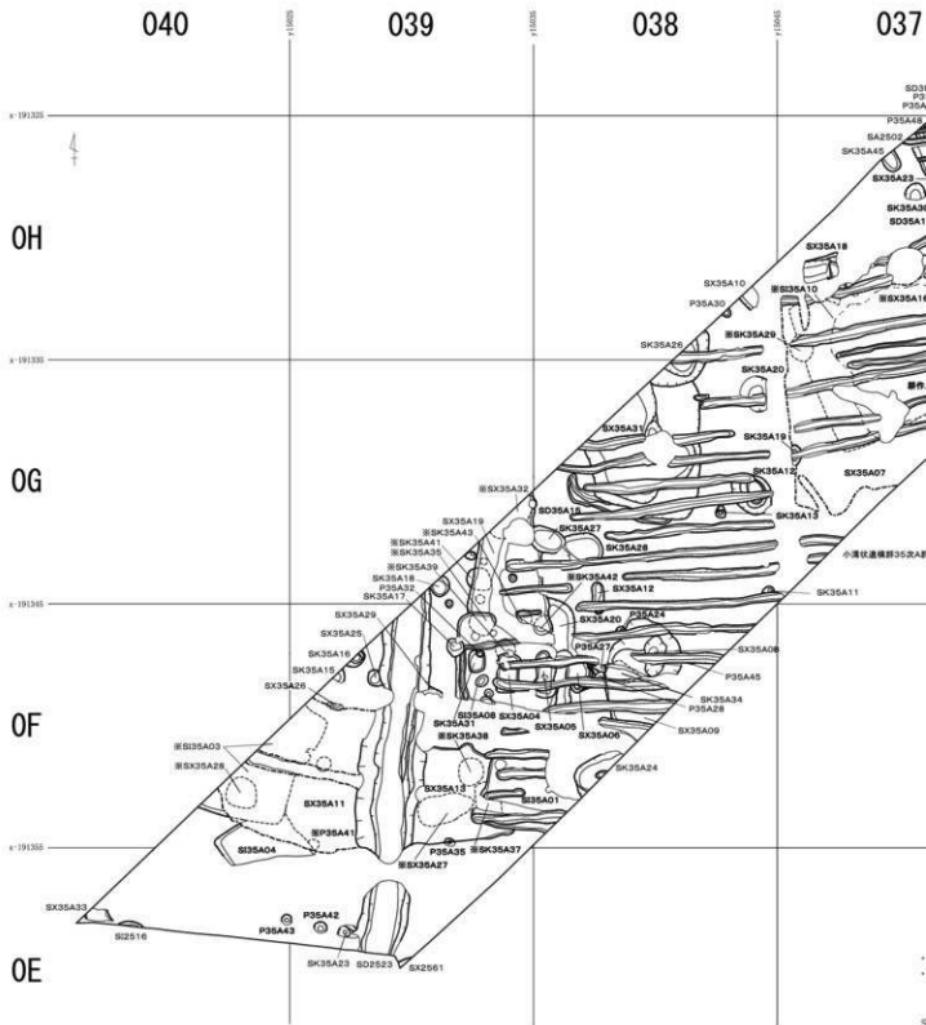
037

OH

OG

OF

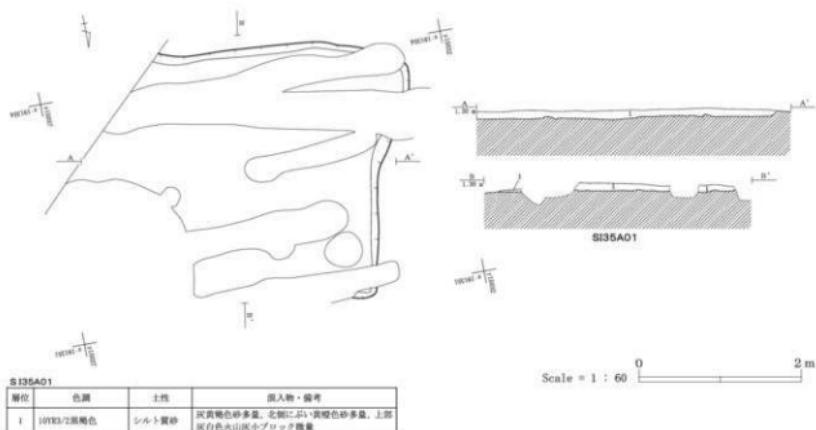
OE



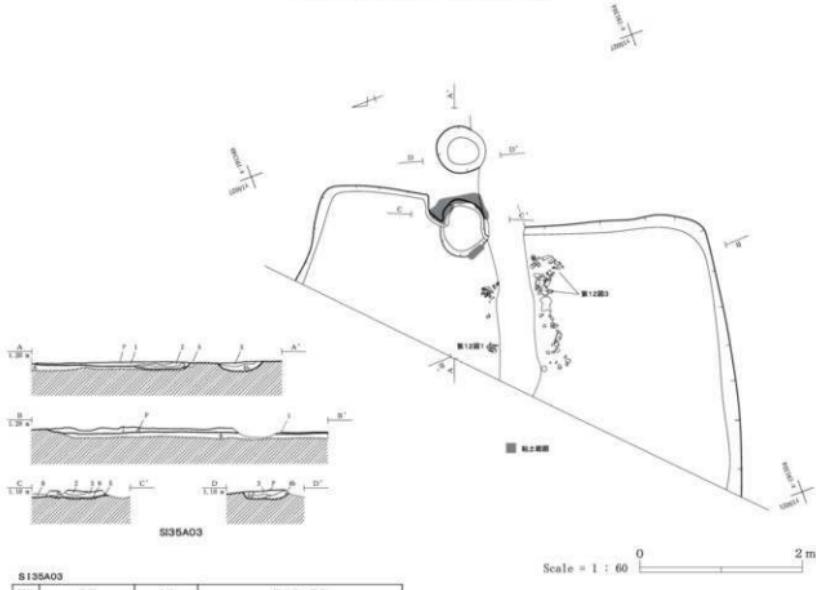
第8図 沼向遺跡第35次調査A区 III層上面遺構全体図(1)



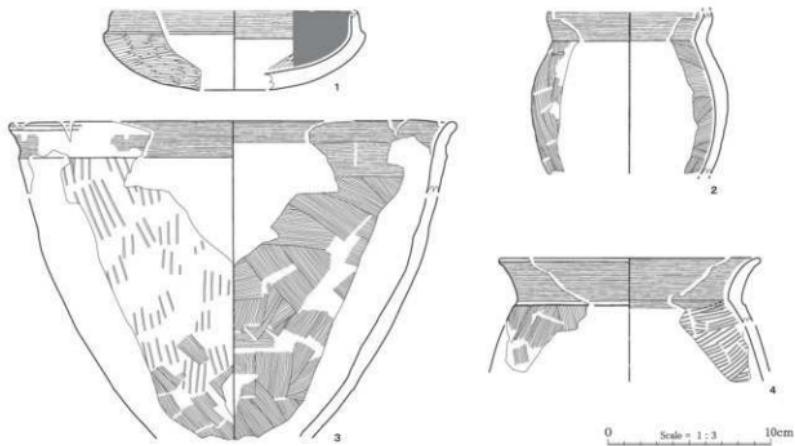
第9図 沼向遺跡第35次調査A区 Ⅲ層上面遺構全体図(2)



第10図 SI35A01竪穴遺構平面図・断面図



第11図 SI35A03竪穴住居平面図・断面図

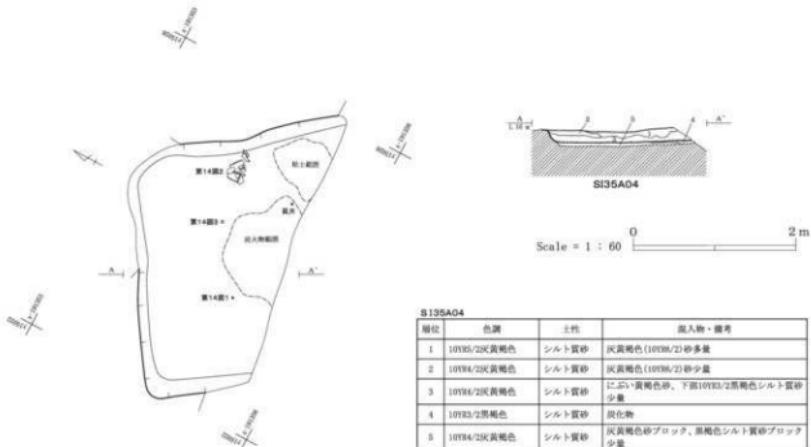


第12図 SI35A03竪穴住居跡出土遺物

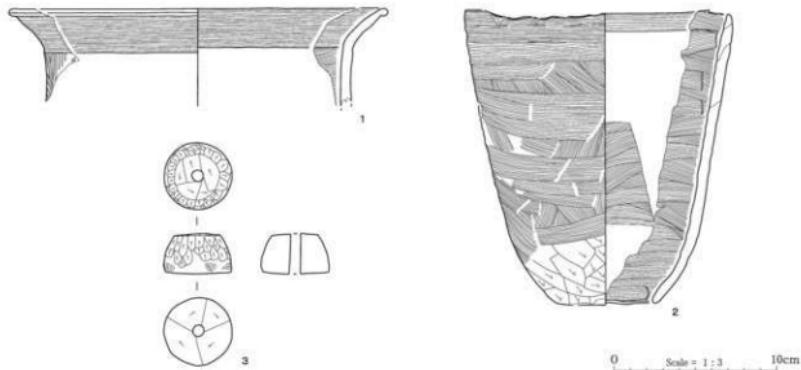
単位はcm・g ()の数値は復元値

認された底面面積は 5.0 m^2 で、推定底面面積は 13.8 m^2 以上である。付属施設は認められない。埋土は黒褐色シルト質砂の單層である。遺物は、埋土より非ロクロ土師器片が出土している。

SI35A03 竪穴住居跡（第11・12図、第4表、写真図版3・4・16） 0F-040bc 0F-039ad Gridに位置する。カマドを有する竪穴住居跡である。本遺構は重複関係から、SX35A11より古く、SI35A04、SX35A28より新しい。北西は調査区外に続く。上部及び中央を他遺構に削平され、遺存状況は悪い。平面形は方形で、規模は長辺 5.50m 、短辺 3.83m 以上である。カマドを通した主軸方位は $N-70^\circ-E$ である。壁高は 0.08m で、壁面の立ち上がり角は南壁で 19° である。床面は平坦で、床面標高は 1.03m である。確認された床面積は 10.6 m^2 で、推定床面積は 30.3 m^2 である。床面南西壁中央からカマドを検出した。周溝及び柱穴は認められない。掘り方を有する。カマド両袖と燃焼部、煙道部先端が遺存し、燃焼部は竪穴内に納まる。カマド袖材は粘土である。カマド袖は遺構確認面まで遺存する。カマド燃焼部内部の幅は残存長で 0.54m 、袖先端から燃焼部先端までの奥行きは 0.68m である。燃焼部は床面より 0.04m 低い。竪穴壁から 0.32m 離れて煙道部の落ち込みが認められる。煙道部先端は竪穴壁より 0.88m 先まで続く。カマド袖部は粘土質シルトで構築されている。埋土は大別5層、細別6層認められる。1層は床面埋土である。2層は粘土質シルトのカマド天井部崩壊土である。遺物は、床面から非ロクロ土師器の壺（第12図1）、甕（第12図2・3）が出土している。また、埋土から非ロクロ土師器の甕（第12図4）が出土している。第12図1の壺は、口縁部は直立し、体部との境は屈曲する。調整は、口縁部ではヨコナデ、体部では内外面ともヘラミガキが施され、内面は黒色処理される。第12図2の甕は、体部は卵形である。体部最大径は、中位に位置する。口縁部は内反する。調整は、体部外面ではヘラナデが施される。第12図3の甕は、体部は逆鐘形である。体部最大径は、頸部に位置する。口縁部は外反して開き、頸部に段を有する。調整は、体部外面ではハケメの後、体部下半にヘラナデが施される。第12図4の甕は、体部は卵形である。口縁部は外



第13図 SI35A04竪穴遺構平面図・断面図



No	登録番号	遺構名・基本層	層位	種別	器種・名称	部位	高さ	口径幅	底径厚さ	重さ	備考	図版番号
1	C-19	SI35A04	床面	素面	陶器	口縁部～全体	既存 6.0	(23.0)	—	—	外側:ハケメ→ヨコナダ(11) 内側:ハラナダ→ヨコナダ(11)	16-6
2	C-16	SI35A04	床面	素面	陶器	口縁部～底部	18.0	16.1	6.0	—	外側:輪潤み→ハラズ(体下～底)→ハラナダ(体)→ヨコナダ(11) 内側:輪潤み→ハラナダ	16-5
3	P-01	SI35A04	床面	土器類	鋤頭車	—	2.1	—	4.2	47.9	上面:ハラズ(1) 側面:ナダ(側下)→ハラズ(側上)	16-7
—	O-01	SI35A04	床面	自然遺物	貝片	—	既存 5.2	(4.1)	—	—	下面:ハラズ(1)	16-8

* O-01は、写真のみ掲載している。

第14図 SI35A04竪穴遺構出土遺物

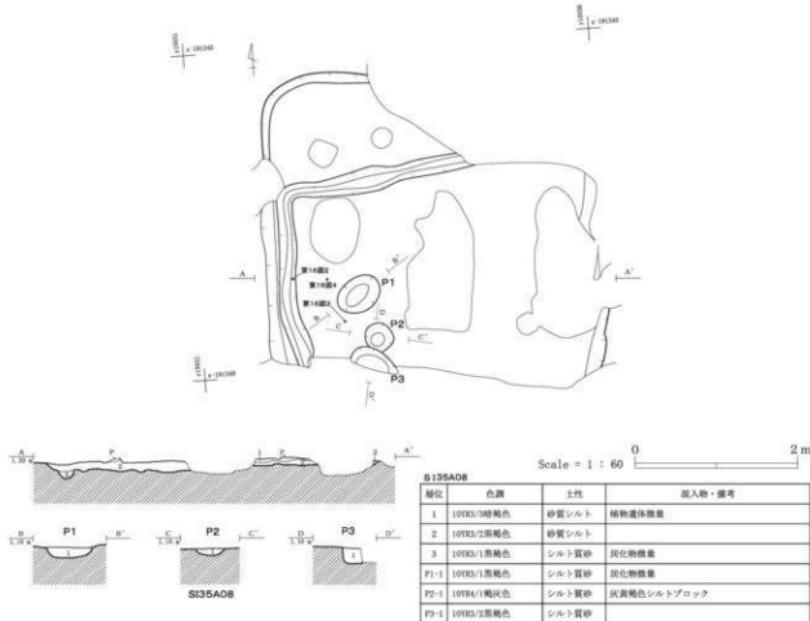
単位は cm・g ()の数値は復元値

反して開き、頸部に段を有する。調整は、体部外面ではハラナダ、内面ではハケメが施される。

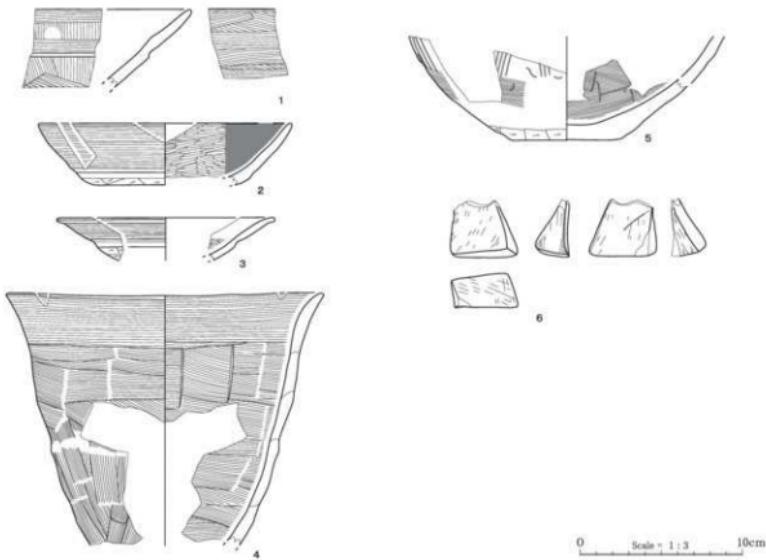
SI35A04竪穴遺構 (第13・14図、第4表、写真図版4・16) 0F-040c 0F-039d OE-040b OE-039a Grid に位置する竪穴遺構である。本遺構は重複関係から、SI35A03、SX35A11より古く、P35A41より新しい。他遺構に削平され、北半部のみ確認した。平面形は方形で、上端規模は、長軸 3.16m、短軸 2.87m 以上である。現存する長辺を長軸とした主軸方位は、N -55° -W である。壁高は 0.18m で、壁面の立ち上がり角は 65 度である。底面は平坦で、底面標高は 0.86m である。確認された底面面積は 5.9 m²で、推定底面面積は 9.9 m²である。付属施設は認められない。底面下全面に掘り方が認められる。掘り方底部はほぼ平坦で、工具痕は認

められない。底面からの深さは0.05mである。埋土は5層認められ、いずれもシルト質砂である。3層は底面直上埋土である。4層、5層は掘り方埋土である。竪穴底面中央部に炭化物の分布する範囲が認められた。また、底面東側に粘土が薄く分布する範囲が認められた。遺物は、底面から非クロロ土師器の甕（第14図1）、瓶（第14図2）、土製紡錘車（第14図3）のほか、自然遺物として貝の破片が1点（写真図版16-8）出土している（註1）。第14図1の甕は、体部は長胴である。口縁部は外傾して開き、頸部に段を有する。調整は、体部外面ではハケメが施される。第14図2の瓶は、体部は漏斗状で、無底式である。口縁部は、直立する。調整は、体部内外面ともヘラナデが施される。体部外面下半はヘラケズりがなされる。第14図3の土製紡錘車は、上面と下面はヘラケズりで、側面はナデの後、上方にヘラケズりがなされる。

SI35A08 竪穴住居跡（第15・16図、第4表、写真図版4・5・16） 0F-0396 0F-038a Gridに位置する竪穴住居跡である。本遺構は重複関係から、SK35A17、SK35A31、SX35A04、SX35A05、小溝状遺構群35次A群より古く、SK35A35、SK35A39、SX35A19、SX35A20、P35A46、P35A47より新しい。他遺構に削平され、竪穴北東及び南辺は遺存しない。平面形は方形で、上端規模は東西4.29m、南北3.89m以上である。想定される主軸方位は、N -86° -Wである。壁高は0.18mで、壁面の立ち上がり角は、遺存状況の良好な竪穴西壁で51度である。床面はやや起伏しており、西側に向かって下がる。床面標高は1.02m～1.11mである。確認された床面積は9.7 m²で、推定床面積は18.4 m²である。床面からは周溝及びピット3基を検出した。掘り方は認められない。周溝は、幅0.17～0.31m、深さ0.11m、断面形は「U」字状で、西側は竪穴壁に沿って、北側は竪穴壁から1.1m離れて巡る。ピットは、竪穴南西部に位置する。平面形は、いずれも梢円形で、柱材及び柱痕跡は認められず、位置からも主柱穴とは考えにくい。埋土は3層認められる。2層は底面直上埋土で、3層は周溝埋土である。遺物は、埋土2層から非クロロ土師器の坏（第16図1）、埋土1層から非クロロ土師器の坏（第16図2・3）、甕（第16図4・5）、砥石（第16図6）が出土している。第16図1の坏は、



第15図 SI35A08竪穴住居跡平面図・断面図



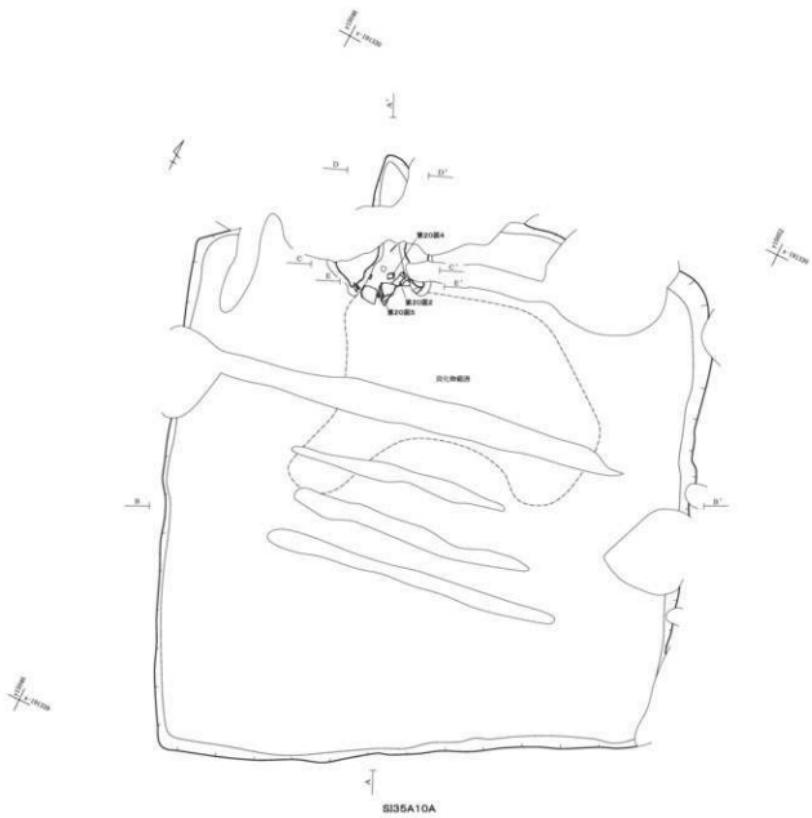
No	登錄番号	遺構名・基本層	層位	概別	器種・名称	部位	器高 残存	口径 幅	底径 厚さ	裏古	備考	図版番号
1	C-10	SI35A08	埋2	単口ヨリ 土師器	壺	口縁部 ~体部	4.8	-	-	-	外面:ヘラナデ(口~体)→ヨコナデ(口下)→ヨコナデ(口上) 内面:ヘラナデ(口~体)→ヨコナデ(口上)	16-9
2	C-09	SI35A08	埋1	単口ヨリ 土師器	壺	口縁部 ~体部	3.8	(15.4)	-	-	外面:ヘラケズリ(体)→ヨコナデ(口) 内面:ヘラミガキ(口~体)・黒色処理	16-10
3	C-11	SI35A08	埋1	単口ヨリ 土師器	壺	口縁部 ~体部	2.7	(13.3)	-	-	外面:ヘラケズリ(体)→ヨコナデ(口) 内面:ヘラミガキ(口)	16-11
4	C-08	SI35A08	埋1	単口ヨリ 土師器	甕	口縁部 ~体部	15.5	(19.2)	-	-	外面:ヘラナデ(体)→ヨコナデ(口) 内面:ヘラナデ(体)→ヨコナデ(口)	16-12
5	C-51	SI35A08	埋1	単口ヨリ 土師器	甕	体部 ~底部	6.4	-	6.8	-	外面:ハケメ(口)→ヘラナデ(体下)→ヘラケズリ(口) 内面:ヘラナデ(体下~底)・底外:ヘラケズリ	16-13
6	K-06	SI35A08	埋1	石製品	礫石	-	3.5	4.1	2.2	25.9	使用面:5面	16-14

第16図 SI35A08堅穴住居跡出土遺物

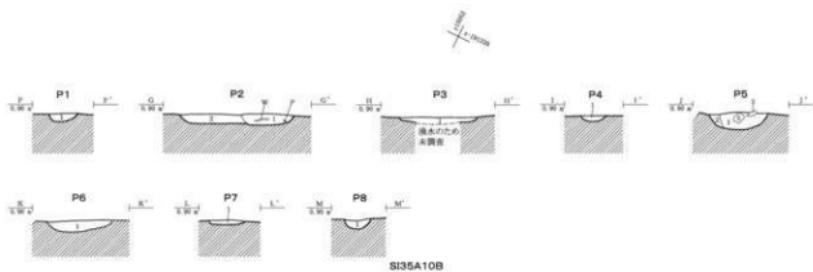
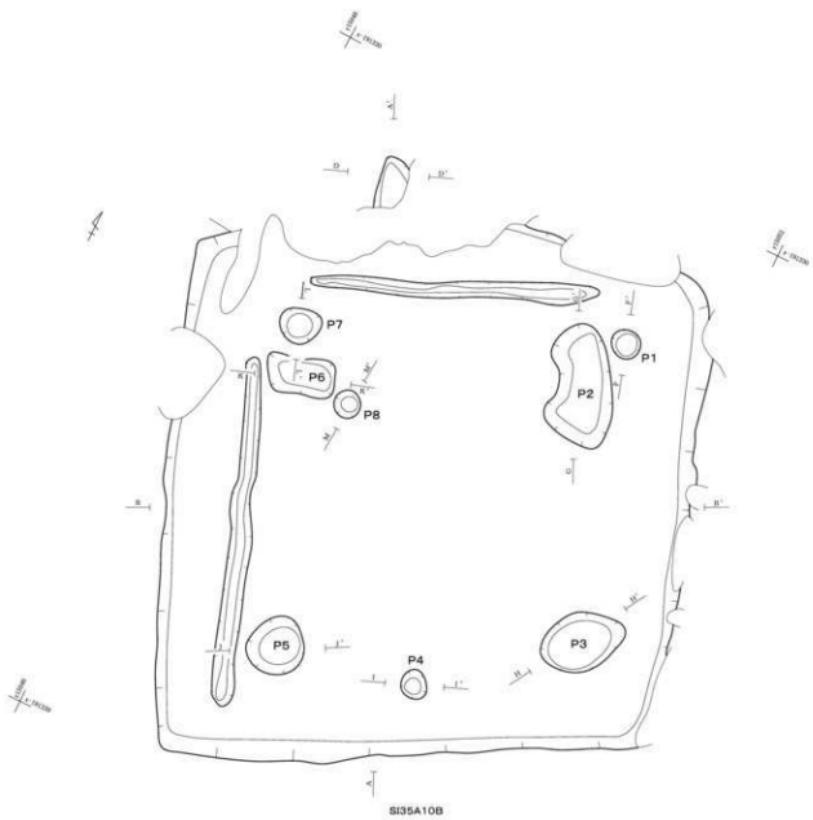
単位はcm・g ()の数値は復元値

口縁部は外傾して開き、体部との境に稜を有する。調整は、外面ではヘラナデの後、口縁端部と稜上方にヨコナデが施される。外面のヘラナデは、非常に細かいハケメの可能性がある。その場合、古墳時代前期の鉢の可能性が考えられる。第16図2の壺は、口縁部は内湾気味に外傾して開き、体部との境に稜を有する。調整は、外面では口縁部はヨコナデ、内面ではヘラミガキを施した後、黒色処理される。体部外面は、ヘラケズリがなされる。第16図3の壺は、口縁部は外傾して開き、体部との境に稜を有する。調整は、外面では口縁部はヨコナデ、内面ではヘラミガキが施される。第16図4の甕は、体部は逆鐘形である。体部最大径は、頸部に位置する。口縁部は、外反して開き、頸部に段はない。調整は、体部内外面ともヘラナデが施される。第16図5は、卵形の甕の底部である。調整は、ハケメの後、ヘラナデが施される。第16図6の礫石は、使用面が5面みられる。

SI35A10堅穴住居跡 (第17・18・19・20図、第4表、写真図版5・6・16) OH-037cd 0G-037ab Gridに位置する堅穴住居跡である。本遺構は重複関係から、SK35A29、SX35A07、小溝状遺構群35次A群より古く、SX35A16、SX35A17、SX35A18より新しい。上面を他遺構に削平されているが、床面の遺存状態は良好である。床面は2面認められ、上面をSI35A10A、下面をSI35A10Bとした。平面形は正方形である。SI35A10Aの上端規模は南北 6.72m、東西 6.72m、SI35A10Bの上端規模は東西 6.06m、南北 5.80m 以上である。



第17図 SI35A10A堅穴住居跡平面図 SI35A10A・B堅穴住居跡断面図



第18図 SI35A10B整穴住居跡平面図・断面図

SI35A10A-B

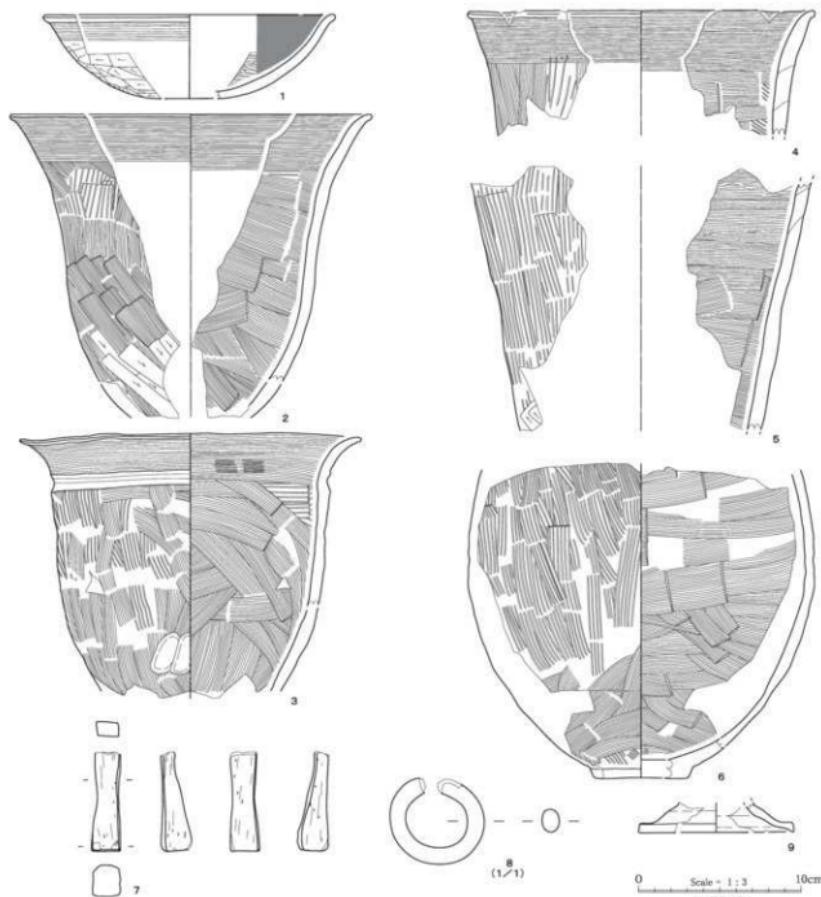
層位	土色	土性	剖面物・備考
1	10YR4/2灰黃褐色	シルト質砂	にぶい黄褐色シルト質砂小ブロック、酸化鉄多量、炭化物微量
2a	10YR4/3-5・6灰黃褐色	シルト質砂	灰黃褐色シルト質砂小ブロック多量、酸化鉄多量、炭化物微量
2b	10YR4/2灰黃褐色	シルト質砂	にぶい黄褐色シルト質砂小ブロック、酸化鉄多量、炭化物微量
3	10YR4/4褐色灰色	シルト質砂	炭化物シルト質砂小ブロック多量、酸化鉄多量、炭化物微量
4	10YR4/4褐色灰色	シルト質砂	灰黃褐色砂ブロック多量、酸化鉄・炭化物多量
5	10YR4/4褐色灰色	シルト質砂	灰黃褐色砂ブロック多量、炭化物微量
6	10YR4/2灰黃褐色	シルト質砂	にぶい灰黃褐色砂ブロック、炭化物少量
7	10YR5/1黒褐色	粘土質シルト	黒褐色(10YR2/2)質砂シルト小ブロック少量
8	10YR5/1黒褐色	シルト質砂	黒褐色砂小ブロック、炭化物・酸化鉄多量
9	10YR5/2灰黃褐色	粘土	灰黃褐色砂小ブロック少量、炭化物
10	10YR4/2灰黃褐色	シルト質砂	にぶい灰黃褐色砂小ブロック多量、酸化鉄多量
11	10YR4/2灰黃褐色	シルト質砂	黑褐色砂小ブロック多量
12	10YR4/3-5・6灰黃褐色	シルト質砂	にぶい灰黃褐色砂小ブロック多量、酸化鉄

層位	土色	土性	剖面物・備考
13	10YR2/1墨褐色	シルト質砂	上面炭化物微多量
14	10YR4/2灰黃褐色	シルト質砂	にぶい灰黃褐色砂ブロック、上面炭化物微多量
15	10YR4/2灰黃褐色	シルト質砂	にぶい灰黃褐色砂小ブロック、上面炭化物微多量
P1-1	10YR4/2灰黃褐色	シルト質砂	
P2-1	10YR5/1黒褐色	シルト質砂	灰黃褐色砂小ブロック少量、酸化鉄、炭化物微量
P2-2	10YR4/1褐色灰色	シルト質砂	黒褐色粘土ブロック少量、酸化鉄、炭化物微量
P3-1	10YR4/1褐色灰色	シルト質砂	灰黃褐色砂小ブロック少量
P4-1	10YR4/1褐色灰色	シルト質砂	灰黃褐色砂小ブロック少量
P5-1	10YR4/2灰黃褐色	シルト質砂	灰黃褐色砂小ブロック少量
P5-2	10YR4/3-5にぶい褐色	シルト質砂	黒褐色砂ブロック少量、炭化物
P6-1	10YR4/2褐色灰色	シルト質砂	灰黃褐色砂小ブロック微量
P7-1	10YR4/1褐色灰色	シルト質砂	灰黃褐色砂小ブロック微量
P8-1	10YR4/2褐色灰色	シルト質砂	灰黃褐色砂小ブロック少量

第19図 SI35A10A・B堅穴住居跡土層記註

カマドを通した主軸方位はいずれもN-24°-Wである。壁高はSI35A10Aで0.09m、SI35A10Bで0.20mである。壁面の立ち上がり角は46～66度である。床面は平坦である。床面標高はSI35A10Aで0.94m、SI35A10Bで0.83mである。確認した床面積は、SI35A10Aで33.2m²、SI35A10Bは掘り方の下端で36.5m²である。SI35A10Aの床面中央部に炭化物の分布が認められ、カマドを検出した。カマドは、堅穴北壁中央やや西寄りに位置する。袖と燃焼部、煙道が遺存し、燃焼部は堅穴内に納まる。カマド袖材は粘土で、袖先端部に粘土質の凝灰岩の切り石を用いている。また、カマド焚口天井部に掛けられていたと考えられる粘土質の凝灰岩の切り石が、カマド袖先端付近の床面に破碎した状態で出土した。カマド袖は遺構確認面まで遺存する。カマド燃焼部内部の幅は、残存長で0.68m、袖先端から煙道部先端までの奥行きは1.74mである。煙道部は堅穴壁から0.78m突出する。燃焼部と煙道部との境界は他遺構に削平されており、段差の有無は不明である。燃焼部は床面より0.08m低い。カマド煙道部及び燃焼部は掘り方を有し、特に堅穴外に突出する燃焼部は幅0.12mの厚さでカマド構築材の粘土が貼られている。SI35A10Bの床面からは、周溝及びピット8基を検出した。床面は掘り方まで一度下げており、断面観察で周溝が掘り込まれている層上面を床面と認定した。周溝は、堅穴西壁側及び北壁側を巡る。北壁側の周溝は、SI35A10Aカマド下部にも遺存する。西側の周溝は、堅穴壁から0.38m以上離れて位置する。周溝の幅は0.22m～0.27m、深さ0.10mである。断面形は「U」字状である。ピットはいずれも柱材や柱痕跡は認められなかったが、配置からP1、P3、P5、P7の4本柱の主柱穴であると考えられる。また、P4はカマドと対極の南壁際中央に位置することから、出入り口施設に伴うピットの可能性がある。埋土は、大別15層、細別16層認められる。1～9層はSI35A10A埋土、10～15層はSI35A10Bの埋土である。2層は床面直上埋土で、堅穴西壁付近で2b層が深く落ちこんでいることから、SI35A10A西壁際の周溝の可能性がある。3層は堅穴西壁付近にのみ認められる堅穴壁崩落土、4層は堅穴床面中央からカマド手前に分布する、炭化物粒を含む層である。5～8層はカマド埋土で、うち7層は粘土質シルトのカマド天井部崩落土である。9層は、カマド袖から天井部にかけて遺存する粘土層である。10層、11層はSI35A10BからSI35A10Aへ床面を嵩上げする際の埋土である。12層はSI35A10B周溝埋土で、13～15層はSI35A10B掘り方埋土である。

遺物は、SI35A10Aの床面カマド周辺から非クロコ土師器の甕（第20図2・4・5）がまとめて出土している。また、SI35A10Bの床面から非クロコ土師器の甕（第20図3）が出土した。その他、SI35A10Aの埋土から非クロコ土師器壺（第20図1）、非クロコ土師器甕（第20図6）、砥石（第20図7）、金属製耳環（第20図8）、須恵器高坏脚部（第20図9）が出土している。第20図1の壺は、口縁部は外反して開く、端部は外反する。体部との境に稜はみられない。調整は、外面では口縁部はヨコナデ、内面ではヘラミガキが施された後、黒色処理される。体部外面はヘラケヅリがなされる。第20図2の甕は、体部は漏斗形である。体部最大径は、頸部に位置する。口縁部は、緩やかに外反して開く。頸部に段はない。調整は、体部外面では、ハケメの後ヘラナデが施される。体部下半は、ヘラケヅリがなされる。第20図3の甕は、体部は逆鐘形である。体部最大径は、中位に位置する。口縁部は外反して開き、頸部に沈線状の段を有する。調整は、体部外面ではハケメの後ナ



No.	登録番号	遺物名	基本番	層位	種別	器種・名称	部位	高さ	口径	底径	重さ	備考	図版番号
1	C-15	S135A10A		埋2	漆コクリ	漆 土刷漆	口縁部 ～底部	残存 5.2	(17.7)	-	-	外面:ハラケズ(体～底)→ヨコナヂ(口) 内面:ハラミキ(口～底)・黒色処理	16-18
2	C-12	S135A10A		床面	漆コクリ	漆 土刷漆	口縁部 ～体部	残存 18.6	(22.0)	-	-	外面:ハラミキ→ラナヂ(体)→ハラケズ(体下～底)→ヨコナヂ (口) 内面:ハラミキ(体上)→ラナヂ(体)→ヨコナヂ(口)	16-19
3	C-13	S135A10B		床面	漆コクリ	漆 土刷漆	口縁部 ～体部	残存 18.2	(30.8)	-	-	外面:ハケミ(体上)→ナヂ(体)→オサエ(体下)→ヨコナヂ(口) 内面:ハケミ(口～体上)→ハナヂ(体)→ヨコナヂ(口)	16-20
4	C-50	S135A10A		床面	漆コクリ	漆 土刷漆	口縁部 ～体部	残存 7.7	(21.2)	-	-	外面:ハケミ(口～体)→ハナヂ(体)→ヨコナヂ(口) 内面:ハケミ(体)→ラナヂ(体)→ヨコナヂ(口)	16-17
5	C-55	S135A10A		床面	漆コクリ	漆 土刷漆	體部	残存 18.2	-	-	-	外面:ハケミ(体)→ハラケズ(体下) 内面:輪模込み・ラナヂ(体)	16-18
6	C-14	S135A10A		埋3b	漆コクリ	漆 土刷漆	体部 ～底部	残存 19.4	-	(5.6)	-	外面:輪模込み・ハケミ(体～底)→ナヂ(体下) 内面:ラナヂ(体)	16-16
7	K-02	S135A10A		埋2	石製品	砥石	-	残存 6.1	1.9	-	31.7	使用面:4面	16-22
8	N-01	S135A10A		埋土	金製品	耳環	-	残存 1.8	1.9	0.5	1.7	(脚芯細落點)	16-23
9	E-01	S135A10A		埋2	漆刷漆	漆 高坪	脚部	残存 1.8	-	(9.5)	-	外面:クロナヂ 内面:クロナヂ	16-21

第20図 S135A10堅穴住居跡出土遺物

単位は cm · g ()の数値は復元値

デが施され、下後にオサエメがみられる。第20図4の甕は、体部は漏斗状である。体部最大径は、頭部に位置する。口縁部は、緩やかに外傾して開き、頸部に段はない。調整は、体部内外面とも、ハケメの後ヘラナデが施される。第20図5は、漏斗状の甕の体部である。調整は、外面ではハケメが施される。体部下半は、ヘラケズリがなされる。第20図6の甕は、卵形の体部である。体部最大径は、中位に位置する。調整は、体部外面ではハケメの後、下後にヘラナデが施される。第20図7の砥石は、使用面が4面みられる。第20図8の耳環は、肉眼では銅芯銀箔貼と観察される。第20図9は、須恵器高杯の脚裾部である。裾部は大きく開き、端部は屈曲し面をなす。

SI2516堅穴住居跡（第21図・第4表）

0E-040a Gridに位置する堅穴住居跡である。本調査区内での、Ⅲ層上面遺構との新旧関係はない。南西の第25次調査西区から続く遺構で、本調査区では堅穴北東部隅のみ認められた。本調査区で確認された範囲は、南北0.14m、東西1.02mである。壁高は0.28m以上で、壁面の立ち上がり角は74度である。埋土は壁際のみの調査であり、1層のみが認められた。遺物は出土していない。

(2) SA区画施設 Ⅲ層上面の区画施設を、1条検出した。

SA2502区画施設（第22図、第5表、写真図版5）OH-037b Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SD35A13より新しい。調査区北隅に位置する、溝状の掘りこみを有する区画施設である。第25次調査東区から続き、西側は調査区外へ続く。本調査区では全長3.96m以上の溝状の掘り込みを確認した。溝の幅は0.34m、深さは0.23mで、走行方向はN-89°-Eである。底面からピットは見つからなかった。遺物は、埋土から非ロクロ土師器片が出土している。

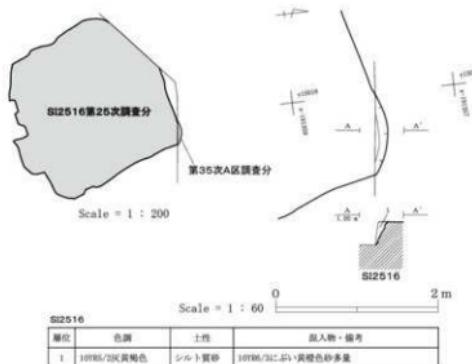
(3) SD溝跡 Ⅲ層上面の溝跡は、5条検出した。

SD35A12溝跡（第23図、第6表）

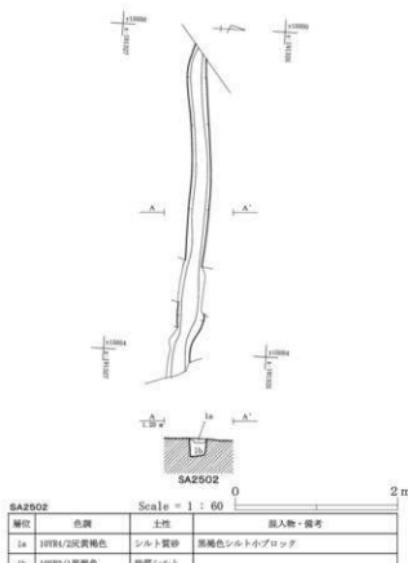
0I-037c OH-037b Gridに位置する。本遺構は重複関係から、小溝状遺構群35次A群より古い。北西方向に走る溝で、両端は他遺構に削平される。遺物は出土していない。

SD35A13溝跡（第23図、第6表）

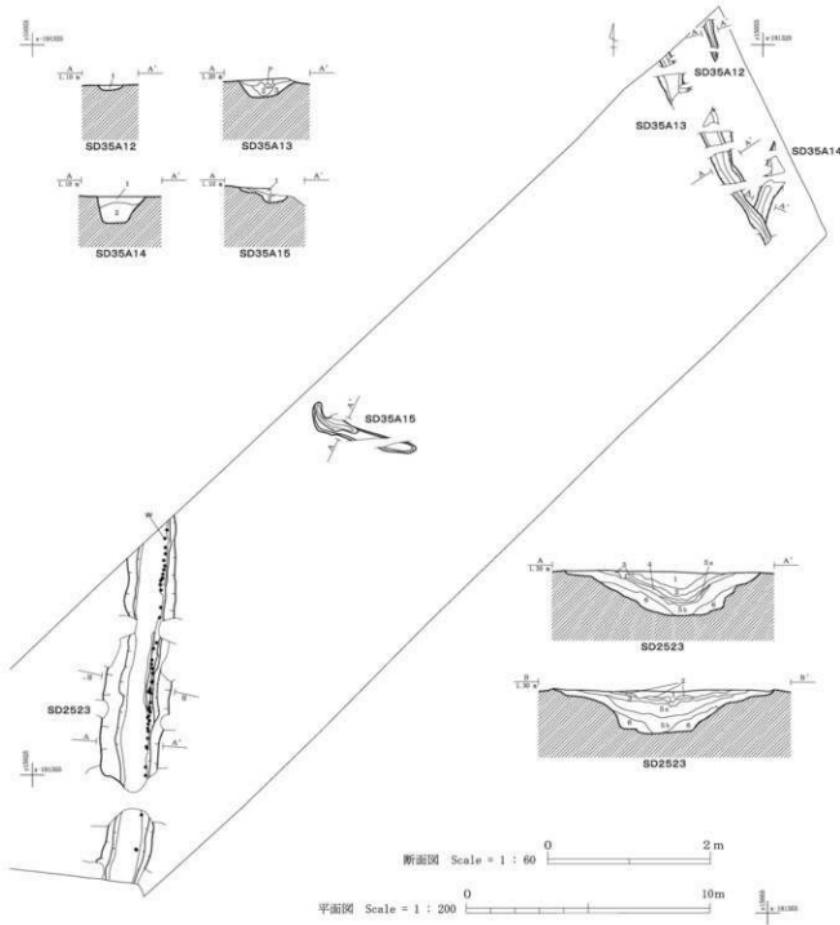
OH-037bc OH-036d Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SA2502、SX35A14、SX35A15、SX35A23、小溝



第21図 SI2516堅穴住居跡平面図・断面図



第22図 Ⅲ層上面SA区画施設平面図・断面図



SD35A12:

層位	色調	土性	混入物・備考
上	10YR4/2灰黄褐色	シルト質砂	黒褐色砂小ブロック

SD35A13:

層位	色調	土性	混入物・備考
1	10YR4/2灰黄褐色	シルト質砂	にぶい黒褐色砂ブロック多量
2	10YR3/1黒褐色	シルト質砂	灰黃褐色砂小ブロック多量、酸化鉄、炭化物微量
3	10YR4/2灰黄褐色	シルト質砂	にぶい黒褐色砂ブロック多量、酸化鉄

SD35A14:

層位	色調	土性	混入物・備考
1	10YR4/2灰黄褐色	シルト質砂	黒褐色砂小ブロック多量、酸化鉄
2	10YR3/1黒褐色	シルト質砂	下部灰黃褐色砂小ブロック少量

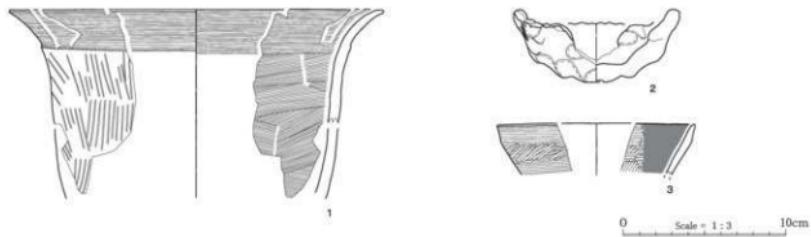
SD35A15:

層位	色調	土性	混入物・備考
1	2, 3Y3/1黒褐色	粘土シルト	灰黃褐色砂多量、炭化物、酸化鉄微量
2	10YR7/2灰黄褐色	シルト質砂	にぶい黒褐色砂多量、炭化物微量

SD2523:

層位	色調	土性	混入物・備考
1	10Y3/2暗褐色	砂質シルト	酸化鉄微量、植物遺体微量
2	10Y5/1黒色	粘土	西側上部ににぶい黄褐色砂多量
3	10Y7/2にぶい黄褐色	シルト	灰白色火山灰、上部灰黃褐色シルト質砂少量
4	10Y7/2/1黒色	粘土シルト	中央灰黃褐色砂多量
5a	10Y7/2/2灰黄褐色	シルト質砂	にぶい黄褐色砂多量
5b	10Y4/2灰黄褐色	シルト質砂	上部ににぶい灰黃褐色砂多量、下部植物遺体微量
6	10Y7/2灰黄褐色	シルト質砂	上部ににぶい灰黃褐色砂ブロック、下部ににぶい灰褐色砂と互層

第23図 III層上面SD溝跡平面図・断面図



第24図 III層上面SD溝跡出土遺物

単位はcm・g ()の数値は復元値

状遺構群35次A群より古く、SD35A14、SK35A32、SX35A21より新しい。北西方向に走る溝で、南端は他遺構に削平される。北西側は調査区外に続く。遺物は、埋土より非クロク土師器片が出土している。

SD35A14溝跡（第23図、第6表） OH-037c OH-036ad Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SD35A13、SX35A15より古い。北東方向に走る溝で、両端は他遺構に削平される。遺物は出土していない。

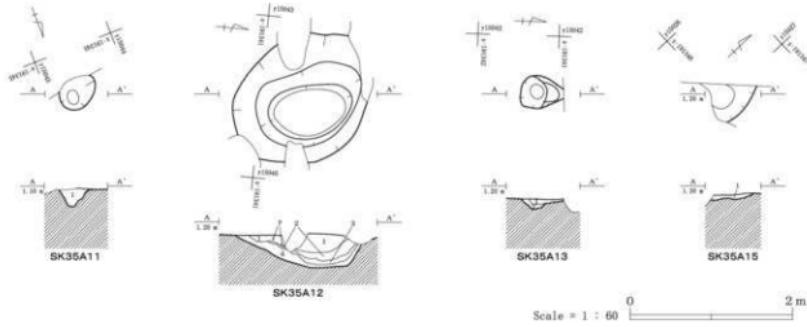
SD35A15溝跡（第23・24図、第6表、写真図版6・17） OG-038acd Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SX35A31より古い。東西方向に走る溝で、西端は北へ屈曲し、収束する。埋土は2層認められる。1層・2層ともに炭化物を混入する。遺物は、埋土1層から非クロク土師器甕（第24図1）と、手捏ね土器（第24図2）が出土している。第24図1の甕は、体部は逆鐘形である。体部最大径は、上位に位置する。口縁部は、外反して開き、頸部に段を有する。調整は、体部外面では、ハケメが施される。第24図2の手捏ね土器は、内外面ともにオサエメのみで成形されている。

SD2523溝跡（第23・24・65図、第6表、写真図版6・10・17） OG-039e OF-039abed OE-039a Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SK35A23、SX35A11、SX35A13、SX35A25、SX35A29より新しい。調査区南西で南北方向に走る溝である。南側は第25次調査区西から続き、北側は調査区外へ続く。規模は全長14.35m以上、幅2.70m、深さ0.55mである。溝の断面形は逆台形で、上半が開いている。底面は平坦で、工具痕が一部残存している。底面東壁際で、直径1cm程の木質の遺存体が連続して並んでいた。遺存状態が極めて悪く、出土遺物としてとりあげられなかった。壁面の壠の一部の可能性はあるが、詳細は不明である。溝の東側から2.4～2.7m離れて小溝状遺構群35次A群が位置することから、畠区画溝と考えられる。埋土は大別6層認められ、3層は灰白色火山灰層である。5a層は、Bベルト付近で層厚が厚いため、人為的な埋め戻しの可能性が考えられる。遺物は、埋土6層から非クロク土師器の壺（第24図3）が出土しているが、遺構の時期を示す資料ではない。その他埋土から、砥石片が出土している。底面から遺物は出土していない。第24図3の壺は、口縁部は外傾して開く。調整は、外面ではヨコナデ後にヘラミガキが施され、内面ではヘラミガキを施した後、黒色処理される。

(4) SK土坑 III層上面の土坑は、28基検出した。

SK35A11土坑（第25図、第7表） OG-038c Gridに位置する。本遺構は重複関係から、小溝状遺構群35次A群より古い。遺物は出土していない。

SK35A12土坑（第25・26図、第7表、写真図版7・17） OG-038bc Gridに位置する。本遺構は重複関係から、小溝状遺構群35次A群より古い。調査区中央に位置する不整楕円形の土坑で、炭化物を含む。遺物は、埋土2層から非クロク土師器の鉢（第26図1）が出土している。他に、埋土より礫が出土した。第26図1の鉢は、体



SK35A11

層位

色調

土性

混入物・備考

1

10YR3/2黒褐色

シルト質砂

黒褐色シルト(10YR3/2)ブロック少量

SK35A12

層位

色調

土性

混入物・備考

1

10YR4/2灰黄褐色

シルト質砂

黒褐色シルト質砂ブロック多量、上部黒褐色シルト質砂ブロック多量、炭化物微量、炭化物微量

2

10YR4/1暗灰色

シルト質砂

炭化物微量、壁面に灰褐色シルト質砂、暗灰色

3

10YR1/7/1黒色

シルト

炭化物微量、埋土より灰褐色シルト質砂ブロック微量、炭化物微量

4

10YR4/3C灰褐色

シルト質砂

灰褐色シルト質砂ブロック少量、炭化物微量

SK35A13

層位

色調

土性

混入物・備考

1

10YR6/1褐灰色

シルト質砂

灰褐色シルト質砂ブロック、炭化物少量

2

10YR6/3C5A1灰褐色

シルト質砂

灰褐色シルト質砂ブロック

SK35A15

層位

色調

土性

混入物・備考

1

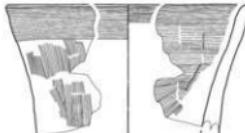
10YR3/2黒褐色

砂質シルト

Scale = 1 : 60

2 m

第25図 III層上面SK土坑平面図・断面図(1)



0 Scale = 1 : 3 10cm

No.	登録番号	遺構名・基本層	層位	種別	器種・名称	部位	高さ 現存	口径 幅	底径 厚さ	重さ	備考	図版番号
1	C-46	SK35A12	埋2	非クロ 土師器	林	口縁部 全体部	8.0 (14.9)	-	-	-	外面:ヘナナデ(体)→ヨコナデ(口) 内面:ヘナナデ(体)→ヨコナデ(口)	17-4

第26図 III層上面SK土坑出土遺物(1)

単位はcm・g ()の数値は復元値

部は漏斗状である。口縁部は緩やかに外傾して開く。調整は、体部内外面ともヘラナデが施される。

SK35A13土坑 (第25図、第7表) 0G-038c Gridに位置する。本遺構は重複関係から、小溝状遺構群35次A群より古い。遺物は、埋土から非クロコ土師器片が出土している。

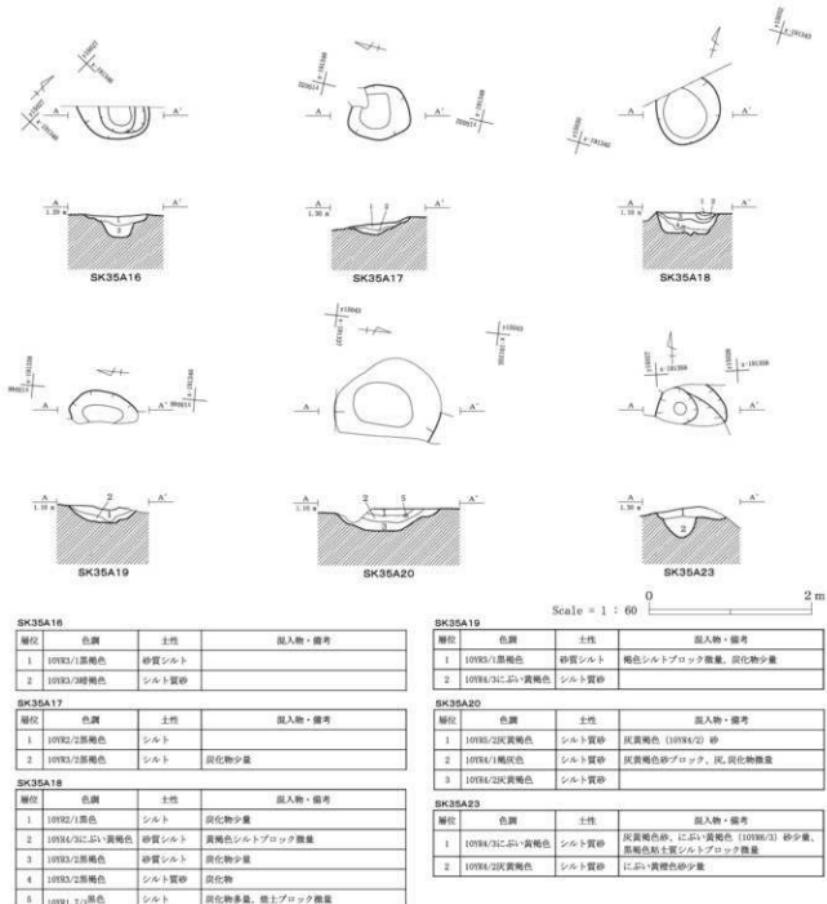
SK35A15土坑 (第25図、第7表) 0F-039a Gridに位置する。III層上面遺構との新旧関係はない。遺物は出土していない。

SK35A16土坑 (第27図、第7表) 0F-039a Gridに位置する。III層上面遺構との新旧関係はない。遺物は出土していない。

SK35A17土坑 (第27図、第8表) 0F-039b Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SI35A08より新しい。遺物は埋土より非クロコ土師器片が1点出土している。

SK35A18土坑 (第27図、第8表、写真図版7) 0G-039c Gridに位置する。本遺構はIII層上面遺構との新旧関係はない。調査区中央に位置する不整円形の土坑である。埋土は5層認められ、最下層の5層は焼土粒・炭化物を多く含む。遺物は埋土より非クロコ土師器片が1点出土している。

SK35A19土坑 (第27・28図、第8表、写真図版17) 0G-037a Gridに位置する。本遺構は重複関係から、



第27図 Ⅲ層上面SK土坑平面図・断面図（2）



No.	登録番号	遺構名・基本類	層位	幅	器種・名称	部位	深高 長さ	口径 幅	底盤 厚さ	直さ	備考	図版番号
1	C-62	SK35A19	埋2	ヨコア 土壙器	便	口縁部 ～体部	残存 5.3	(19.4)	-	-	外側:ハケX(5)→ヘナダ(体上)→コナデ(1) 内側:ヘナダ(体)→コナデ(口)	17-5

第28図 Ⅲ層上面SK土坑出土遺物（2）

単位はcm・g ()の数値は復元値

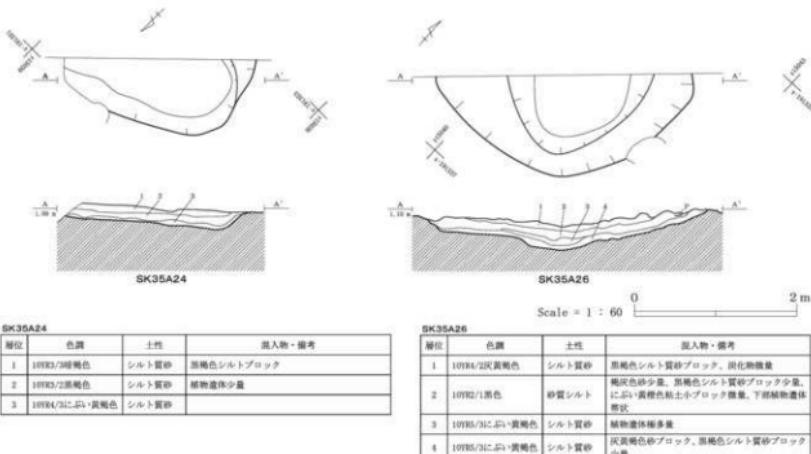
小溝状遺構群35次A群より古く、SX35A07より新しい。遺物は、埋土2層から非ロクロ土師器壺（第28図1）が出土している。第28図1の裏は、体部は逆鐘形である。口縁部は、外傾して開き、頸部に段を有する。調整は、体部外面ではハケメの後ヘラナデが施される。

SK35A20土坑（第27図、第8表）OG-038b Gridに位置する。本遺構は重複関係から、小溝状遺構群35次A群より古い。遺物は、埋土から非ロクロ土師器が1点出土している。

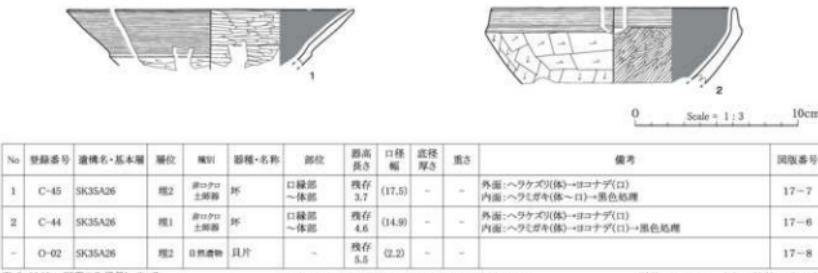
SK35A23土坑（第27図、第8表）OE-039a Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SD2523より古い。遺物は、埋土から非ロクロ土師器片が1点出土している。

SK35A24土坑（第29図、第8表）OF-038d Gridに位置する。本遺構は重複関係から、小溝状遺構群35次A群より古い。遺物は、埋土から非ロクロ土師器片が出土している。

SK35A26土坑（第29・30図、第8表、写真図版17）OH-038c OG-038ab Gridに位置する。本遺構は重複関係から、小溝状遺構群35次A群より古く、SX35A31より新しい。遺物は、埋土2層から非ロクロ土師器の坏（第30図1）、1層から非ロクロ土師器の坏（第30図2）が出土している。また、埋土から出土した非ロクロ土師器壺体部破片内面に密着して、自然遺物として貝の破片が1点（写真図版17-8）出土した（註2）。第30図1の坏は、口縁部は外傾して開き、体部との境の内外面に段を有する。調整は、外面では口縁部はヨコナデ、内面ではヘラミガキが施された後、黒色処理される。体部外面は、ヘラケズリがなされる。第30図2の坏は、口縁部は直立



第29図 III層上面SK土坑平面図・断面図(3)



※O-02は、写真的み掲載している。

第30図 III層上面SK土坑出土遺物(3)

単位はcm・g ()の数値は復元値

し、体部との境に段付の稜を有する。調整は、外面では口縁部はヨコナデ、内面はヘラミガキの後、口縁部はヨコナデが施され、黒色処理される。体部外面は、ヘラケズリがなされる。

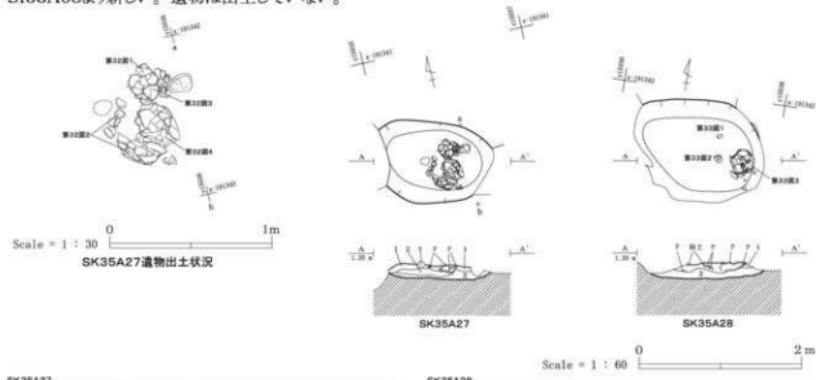
SK35A27土坑（第31・32図、第8表、写真図版7・17） 0G-039c 0G-038d Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SK35A28、SX35A19より新しい。調査区中央に位置する不整梢円形の土坑である。埋土は3層認められ、1層は粘土質シルトを含み、しまりが強い。遺物は、埋土1層から非ロクロ土師器の甕（第32図1・2・3・4）が出土している。第32図1は、長胴の甕の体部である。体部最大径は、中位に位置する。調整は、外面ではハケメの後、下半にナデが施される。第32図2の甕は、体部は長胴である。体部最大径は、中位に位置する。口縁部は外傾して開き、頸部に段を有する。調整は、体部外面ともヘラナデが施される。第32図3は、長胴の甕の体部である。体部下半は、ヘラケズリがなされる。第32図4の甕は、体部は長胴である。体部最大径は中位に位置する。口縁部は外反して開き、頸部に段を有する。調整は、体部外面では、ハケメの後ヘラナデが施される。

SK35A28土坑（第31・33図、第8表、写真図版7・17） 0G-038d Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SK35A27、小溝状遺構群35次A群より古い。調査区中央に位置する不整梢円形の土坑である。埋土は2層認められ、1層はしまりが強い。遺物は、埋土1層から非ロクロ土師器の壺（第33図1）と甕（第33図2・3）が出土している。第33図1の壺は、口縁部は外反して開き、体部との境に段を有する。調整は、外面では口縁部はヨコナデ、内面ではヘラミガキが施される。体部外面は、ヘラケズリがなされる。第33図2の甕は、体部は長胴である。体部最大径は上位に位置する。口縁部は、外反して開き、頸部に段を有する。調整は、体部内外面ともヘラナデが施される。第33図3の甕は、体部は卵形である。体部最大径は、中位よりやや下方に位置する。口縁部は外反して開き、頸部に段を有する。調整は、体部外面では、ハケメの後ヘラナデが施される。体部下半は、ヘラケズリがなされる。

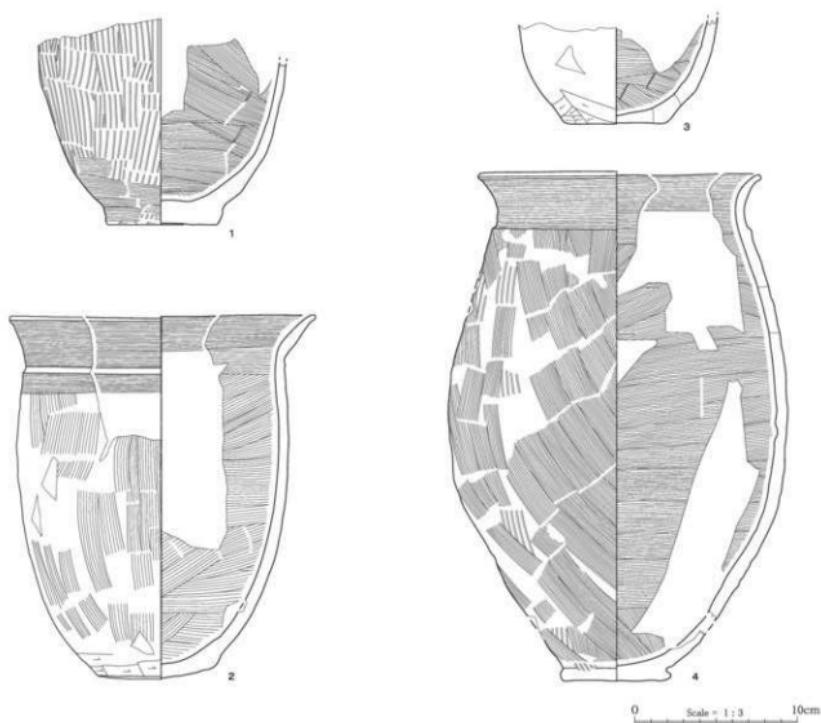
SK35A29土坑（第34図、第8表） OH-037d 0G-037a Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SX35A 07より古く、SI35A10より新しい。遺物は出土していない。

SK35A30土坑（第34図、第8表） OH-037b Gridに位置する。III層上面遺構との新旧関係はない。遺物は、埋土から非ロクロ土師器片が出土している。

SK35A31土坑（第34図、第8表） OF-039b Gridに位置する。本遺構は重複関係から、P35A32より古く、SI35A08より新しい。遺物は出土していない。



第31図 III層上面SK土坑平面図・断面図(4)



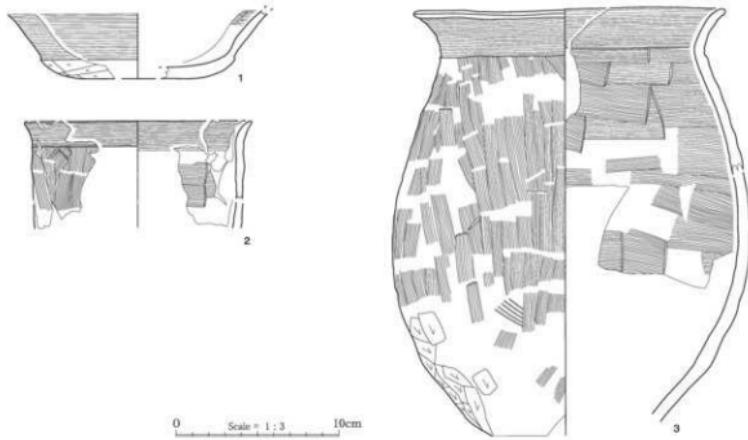
第32図 Ⅲ層上面SK土坑出土遺物(4)

単位はcm・g ()の数値は復元値

SK35A32土坑 (第34図、第8表) OH-037bc Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SD35A13、SX35A15より古い。遺物は、埋土から疊などが出土している。

SK35A34土坑 (第35・36図、第8表、写真図版7・17) OF-038a Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SX35A08、SX35A09より古い。遺物は、埋土1層から非ロクロ土器高杯 (第36図1) が出土している。第36図1の高杯は、短脚で裾部は「ハ」字状に開く。内部は半中実である。柱部と裾部の境に沈線が巡る。調整は、杯部内面ではヘラミガキが施された後、黒色処理される。柱部は内外面ともヘラケズリがなされる。

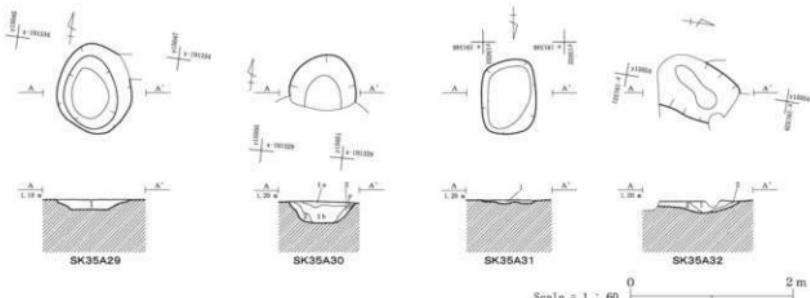
SK35A35土坑 (第35・36図、第8表、写真図版7・17) OF-039b Gridに位置する。不整楕円形の土坑である。本遺構は重複関係から、SI35A08より古く、SX35A19より新しい。遺物は、埋土から非ロクロ土器の杯 (第36図2) が出土している。第36図2の杯は、口縁部は内反して緩やかに開き、体部との境に稜はみられない。調整は、外面では口縁部はヘラナデ、内面ではヘラナデの後、一部にヘラミガキが施される。体部外面は、ヘラケズリがなされる。



No.	登録番号	遺物名・基本層	層位	種別	器種・名称	部位	高さ	口径幅	底径厚さ	重さ	備考	国版番号
1	C-29	SK35A28	埋I	漆口クロ 土解剖	環	体部 ～底部	残存 4.2	-	-	-	外表面：ヘラカズリ(体～底)→ヨコナヂ(体上) 内面：ヘラカズリ(体上)	17-13
2	C-66	SK35A28	埋I	漆口クロ 土解剖	環	口縁部 ～体部	残存 6.6	(13.0)	-	-	外表面：ヘラナヂ(体)→ヨコナヂ(1) 内面：ヘラナヂ(体)→ヨコナヂ(1)	17-14
3	C-57	SK35A28	埋I	漆口クロ 土解剖	環	口縁部 ～体部	残存 26.1	18.7	-	-	外表面：輪建み→ヘラカズリ(体下～底)→ハケヌ(体)→ヘラナヂ(体) →ヨコナヂ(1) 内面：ヘラナヂ(体)→ヨコナヂ(1)	17-15

第33図 Ⅲ層上面SK土坑出土遺物(5)

単位はcm・g ()の数値は復元値



層位	色調	土性	出入物・備考
1 10YR 4/3(2)黄褐色	シルト質砂		灰黄褐色シルト質砂小ブロック、上部酸化鉄塊多量

SK35A29

層位	色調	土性	出入物・備考
1 10YR 2/2(2)黄褐色	シルト質砂		に示す黄褐色砂ブロック少量

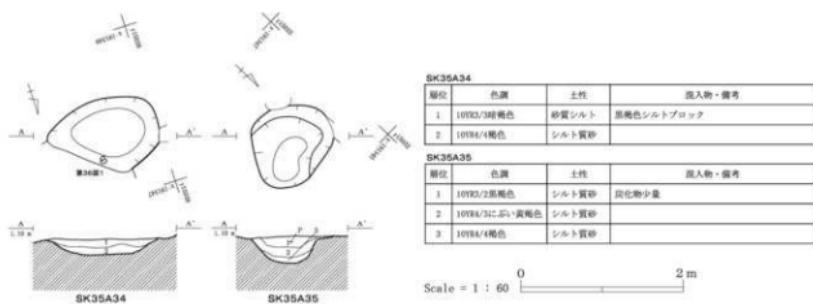
SK35A32

層位	色調	土性	出入物・備考
1a 10YR 1/1褐色	シルト質砂	黑色シルト質砂ブロック	酸化鉄
1b 10YR 1/1褐色	シルト質砂	酸化鉄	
2 10YR 1/2(2)黄褐色	シルト質砂	黑褐色シルト質砂ブロック少量	酸化鉄

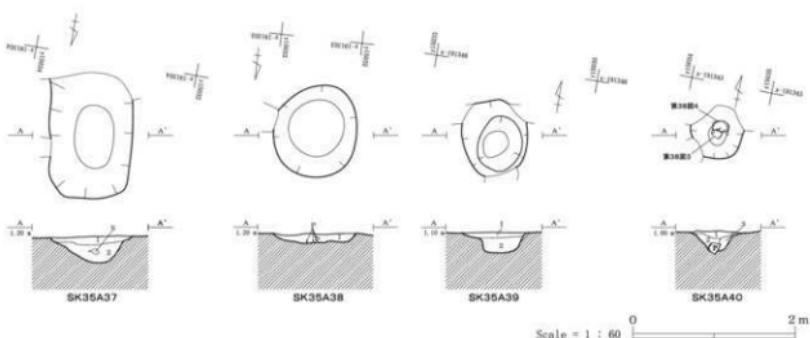
SK35A31

Scale = 1 : 60 2 m

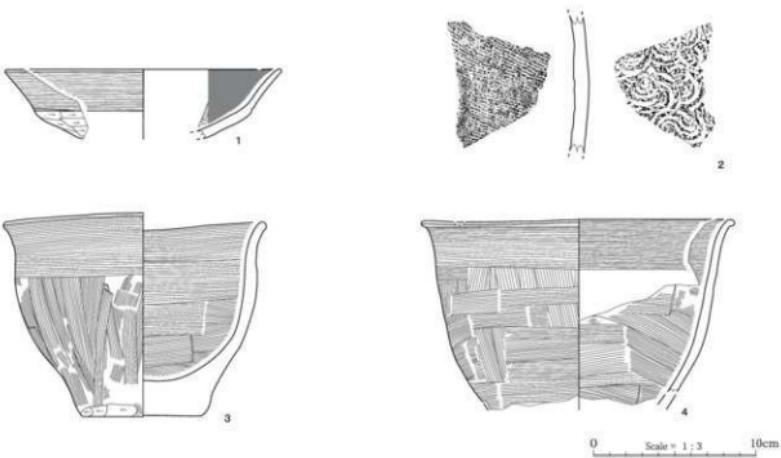
第34図 Ⅲ層上面SK土坑平面図・断面図(5)



第35図 III層上面SK土坑平面図・断面図(6)



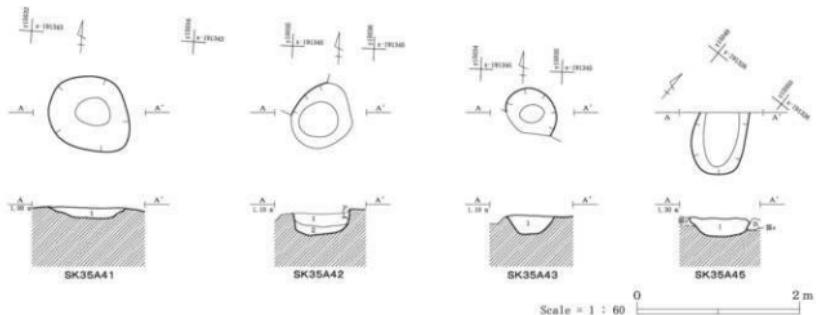
第37図 III層上面SK土坑平面図・断面図(7)



No.	登録番号	遺物名・基本層	層位	種別	器種・名称	部位	高さ	口径幅	底径厚さ	重さ	備考	図版番号
1	C-41	SK35A37	埋2	青クロ 土器類	壺	口縁部 ～体部	残存 4.3	16.0	—	—	外面:ヘタケズリ(体)→ヨコナゲ(1) 内面:ハラミガキ(口～体)→黒色処理	17-18
2	E-03	SK35A37	埋2	灰素器	便	体部	残存 9.3	—	—	—	外面:ヨコナゲ(体)→平行タタキ(体) 内面:ヨコナゲ(体)→円筒形(体)	17-19
3	C-23	SK35A40	底面	青クロ 土器類	盆	口縁部 ～底部	12.5	15.8	7.1	—	外面:ヘナナギ(体～底)→ヘタケズリ(底)→ヨコナゲ(1) 内面:ヘナナギ(体)→ヨコナゲ(1～体上) 底外:木葉痕	17-20
4	C-05	SK35A40	埋2	青クロ 土器類	盆	口縁部 ～体部	残存 11.7	18.9	—	—	外面:ヘナナギ(体)→ナゲ(1)→ヨコナゲ(1) 内面:ヘナナギ(1)→ヨコナゲ(1)	17-21

第38図 Ⅲ層上面SK土坑出土遺物 (7)

単位はcm・g ()の数値は復元値



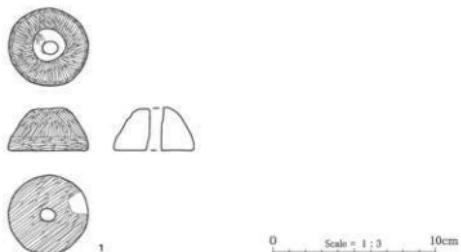
SK35A41			
層位	色調	土性	鉄入物・備考
1 10YRA/2灰黄褐色	シルト質砂	炭化物微量	

SK35A42			
層位	色調	土性	鉄入物・備考
1 10YRA/2灰黄褐色	砂質シルト	明黄褐色シルトブロック微量、炭化物微量	
2 10YRA/4褐色	シルト質砂	炭化物微量	

SK35A43			
層位	色調	土性	鉄入物・備考
1 10YRA/2灰黄褐色	砂質シルト	明黄褐色シルト (10YRA/6) ブロック微量、炭化物少量	

SK35A45			
層位	色調	土性	鉄入物・備考
1 10YRA/2灰黄褐色	シルト質砂	炭化物微量	

第39図 Ⅲ層上面SK土坑平面図・断面図 (8)



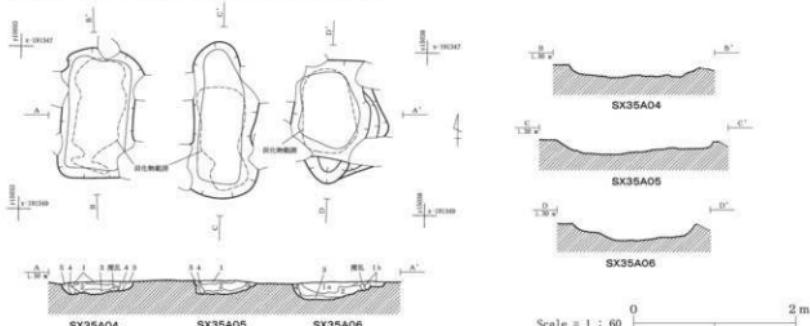
No	登録番号	遺構名・基本層	層位	種別	器種・名称	部位	器高 長さ	口径 幅	底径 厚さ	重さ	備考	図版番号
1	P-02	SX35A41	理1	土製品	劫鉢車	-	-	4.9	2.6	57.3	上面:ヘラミガキ 側面:ヘラミガキ 下面:ヘラミガキ	18-1

第40図 Ⅲ層上面SK土坑出土遺物(8)

単位はcm・g ()の数値は復元値

SK35A37土坑 (第37・38図、第8表、写真図版17) 0F-039c Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SX35A13より古い。遺物は、埋土2層から非ロクロ土師器坏 (第38図1)、須恵器壺体部片 (第38図2) が出土している。第38図1の坏は、口縁部は外反して開き、体部との境に稜を有する。調整は、外面では口縁部はヨコナデ、内面ではヘラミガキを施した後、黒色処理される。体部外面は、ヘラケズリがなされる。第38図2の須恵器壺は、外面は平行タタキ、内面は同心円文がみられる。

SK35A38土坑 (第37図、第8表) 0F-039c Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SX35A13より古い。遺物は、埋土から非ロクロ土師器片が出土している。

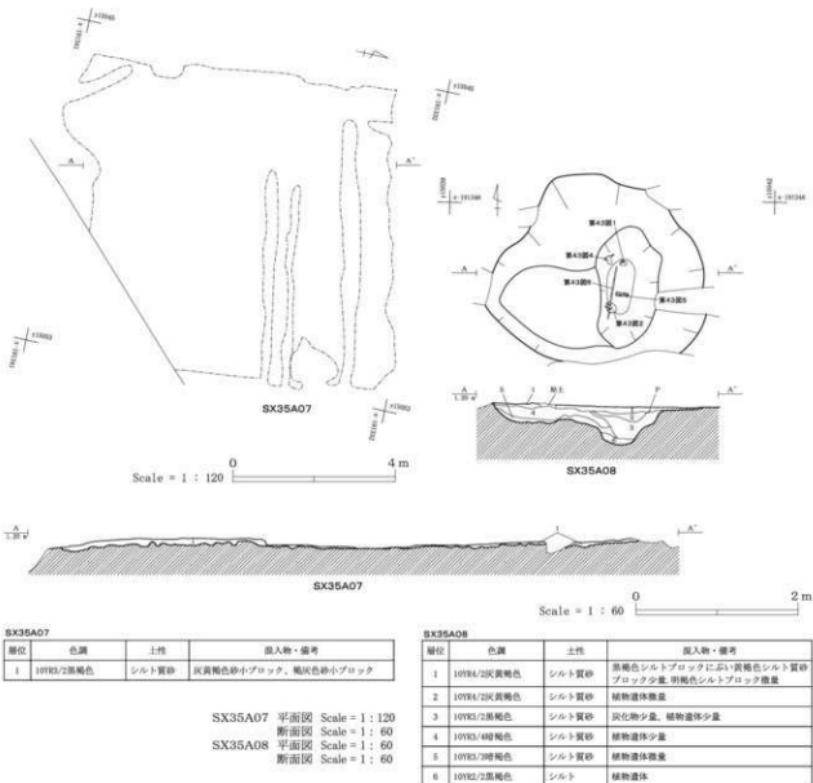


SX35A04			
層位	色調	土性	盛入物・備考
1 10YR3/2暗褐色	シルト	黒褐色シルトブロック少量	
2 10YR1.7/1褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロック少量、炭化物多量	
3 10YR3/2暗褐色	シルト質砂	灰黄褐色砂少量、埴土ブロック少量	
4 10YR2/2暗褐色	シルト質砂	灰黄褐色砂少小ブロック少量	
5 10YR1/2暗褐色	シルト質砂	灰黄褐色砂少小ブロック微量	

SX35A06			
層位	色調	土性	盛入物・備考
1a 10YR3/2暗褐色	シルト	黒褐色シルトブロック少量	
1b 10YR4/3にじむ暗褐色	シルト質砂	灰黄褐色砂ブロック	
2 3L1/2褐色	シルト	黒褐色シルトブロック少量、炭化物多量	
3 10YR3/2暗褐色	シルト	灰化物ブロック少量、灰黄褐色砂ブロック少量	
4 10YR3/2暗褐色	シルト質砂	黒褐色砂質シルトブロック少量	

SX35A05			
層位	色調	土性	盛入物・備考
1 10YR3/2暗褐色	シルト	黒褐色シルトブロック少量	
2 10YR1.5/2褐色	シルト	黒褐色シルトブロック少量、暗褐色シルトブロック少量、炭化物多量	
3 10YR2/2暗褐色	砂質シルト	灰黄褐色砂ブロック、炭化物少量	
4 10YR2/2暗褐色	砂質シルト	灰黄褐色砂ブロック少量、埴土ブロック少量	
5 10YR2/2暗褐色	砂質シルト	灰黄褐色砂ブロック少量、埴土ブロック微量	

第41図 Ⅲ層上面SX性格不明遺構平面図・断面図(1)



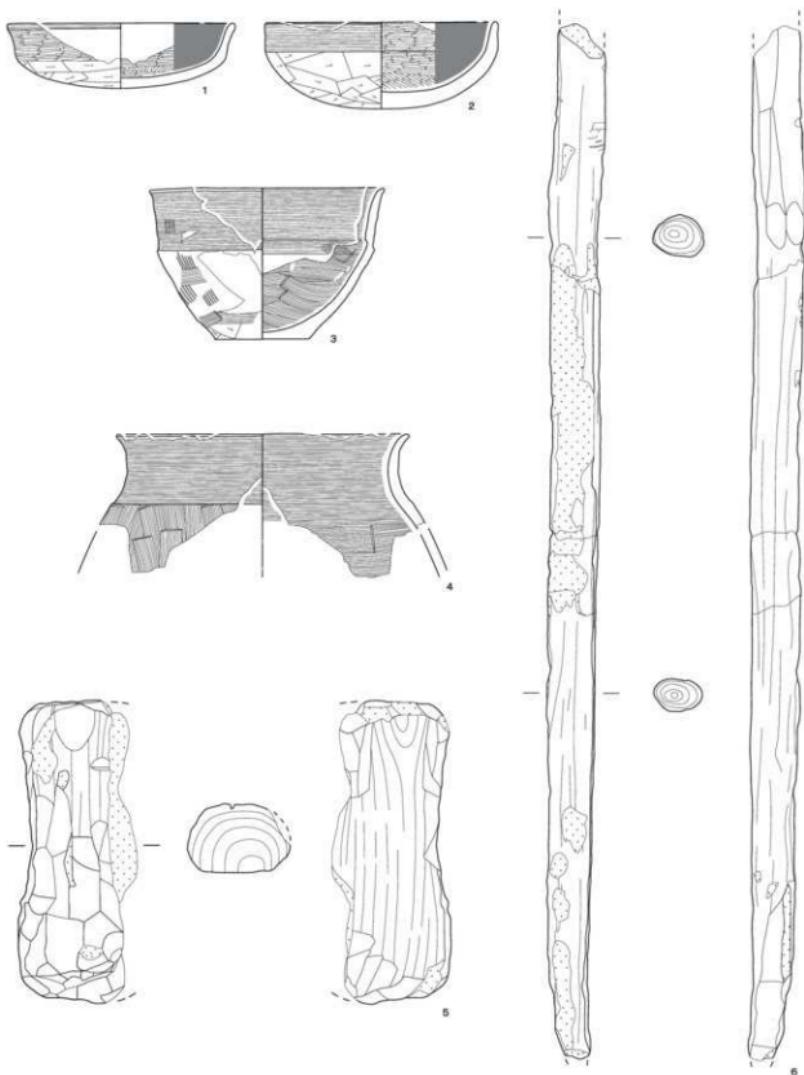
第42図 III層上面SX性格不明遺構平面図・断面図(2)

SK35A39土坑 (第37図、第8表、写真図版7) 0F-039b Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SI 35A08より古い。遺物は出土していない。

SK35A40土坑 (第37・38図、第8表、写真図版8・17) 0G-039c Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SX35A19より古い。調査区中央に位置する不整梢円形の土坑である。遺物は、底面から非クロコ土師器鉢(第38図3)が横倒しで出土しているほか、埋土2層から非クロコ土師器壺(第38図4)が出土している。第38図3の鉢は、体部は逆鐘形である。体部最大径は、頸部に位置する。口縁部は、外反して緩やかに開く。頸部に段はない。調整は、内外面とも口縁部はヨコナデ、体部はヘラナデが施される。第38図4の鉢は、体部は逆鐘形である。体部最大径は、頸部に位置する。口縁部は外傾して緩やかに開き、端部は強く外反する。頸部に段はない。調整は、外面ではヘラナデの後、ナデが施される。

SK35A41土坑 (第39・40図、第8表、写真図版18) 0G-039c Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SX35A19より古い。遺物は、埋土1層から土製紡錘車(第40図1)が出土している。その他、埋土から非クロコ土師器片が出土している。第40図1の土製紡錘車は、上面・下面及び側面ともに、ヘラミガキが緻密に施されている。

SK35A42土坑 (第39図、第8表) 0F-039b 0F-038a Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SX35A



※木製品の[]は、欠損を示す

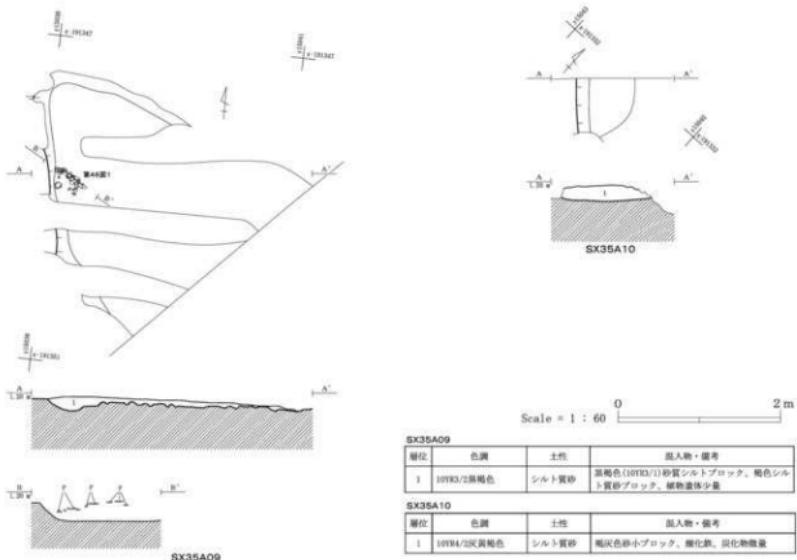
0 Scale 1 : 3 10cm

第43図 Ⅲ層上面SX性格不明遺構出土遺物 (1) SX35A08

No	登録番号	遺構名・基本層	層位	種別	器種・名称	部位	高さ	口径	底径	厚さ	備考	図版番号
1	C-18	SX35A08	理3	表1 土器部	灰	口縁部 ～底部	4.0	(13.7)	—	—	外面:ヘラケヅリ(体下～底)→ヘラミガキ(口～体上) 内面:ヘラミガキ(口～底)・黒色処理	18-2
2	C-20	SX35A08	理3	表1 土器部	灰	口縁部 ～底部	5.4	(14.0)	—	—	外面:ヘラケヅリ(体～底)→コナゲ(口)	18-3
3	C-19	SX35A08	理4	表1 土器部	灰	口縁部 ～底部	9.3	14.3	5.8	—	外面:ヘラケヅリ(底)→ヘラケヅリ(口～体)→ヘラナゲ(体)→コナゲ(口) 内面:ヘラミガキ(口～底)・黒色処理	18-4
4	C-17	SX35A08	理3	表1 土器部	灰	口縁部 ～底部	8.8	(17.9)	—	—	外面:ヘラナゲ(体)→コナゲ(口) 内面:ヘラナゲ(体)→コナゲ(口)	18-5
5	L-02	SX35A08	理6	木製品	木綿	—	18.6	(6.3)	4.6	—	樹種:クスギ 木取り:半削り材	18-7
6	L-01	SX35A08	理6	木製品	柄	—	残存 63.7	3.2	2.5	—	樹種:サクランボ 木取り:芯持ち材	18-8

第44図 III層上面SX性格不明遺構出土遺物 (2)

単位は cm・g ()の数値は復元値



第45図 III層上面SX性格不明遺構平面図・断面図 (3)

No	登録番号	遺構名・基本層	層位	種別	器種・名称	部位	高さ	口径	底径	厚さ	成形・調整	図版番号
1	C-64	SX35A09	理1	表1 土器部	瓶	体部 ～底部	残存 8.4	—	(9.3)	—	外面:ヘラケヅリ→ヘラミガキ(体下～底) 内面:ヘラミガキ→ヘラケヅリ(底下)→ヘラミガキ(底)	18-8
2	C-39	SX35A10	理2	表1 土器部	灰	口縁部 ～底部	4.4	(15.6)	—	—	外面:ヘラケヅリ(体～底)→コナゲ(口) 内面:ヘラミガキ(口～底)・黒色処理	18-9

第46図 III層上面SX性格不明遺構出土遺物 (3)

単位は cm・g ()の数値は復元値

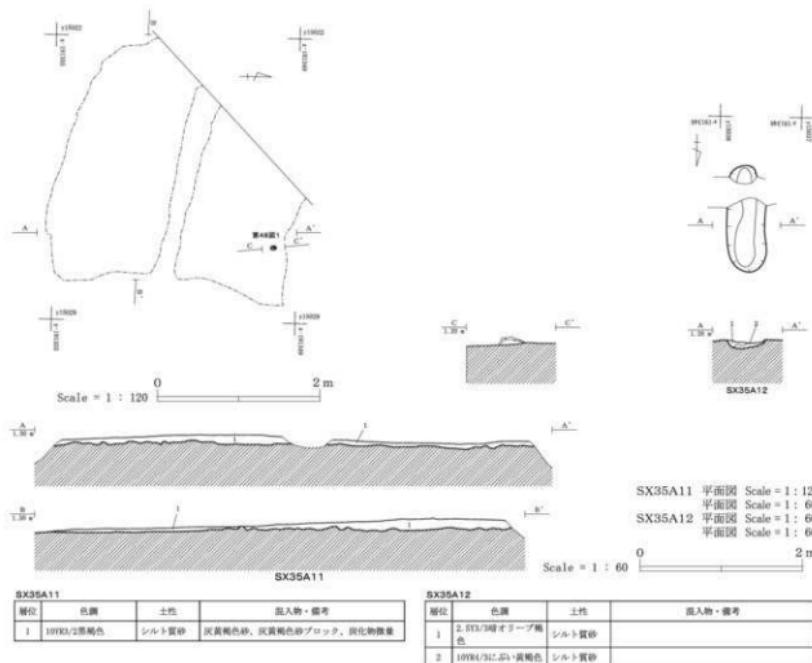
19より古く、SX35A20より新しい。遺物は、埋土から非ロクロ土師器片が出土している。

SK35A43土坑 (第39図、第8表) OF-039b Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SX35A19より古い。遺物は、埋土から非ロクロ土師器片などが出土している。

SK35A45土坑 (第39図、第8表) OH-037ab Gridに位置する。III層上面遺構との新旧関係はない。遺物は出土していない。

(5) SX性格不明遺構 III層上面の性格不明遺構は、28基検出した。

SX35A04性格不明遺構 (第41図、第9表、写真図版8) OF-039b Gridに位置する。本遺構は重複関係から、小溝状遺構群35次A群より古く、SI35A08より新しい。調査区中央に位置する不整方形の遺構である。SX35



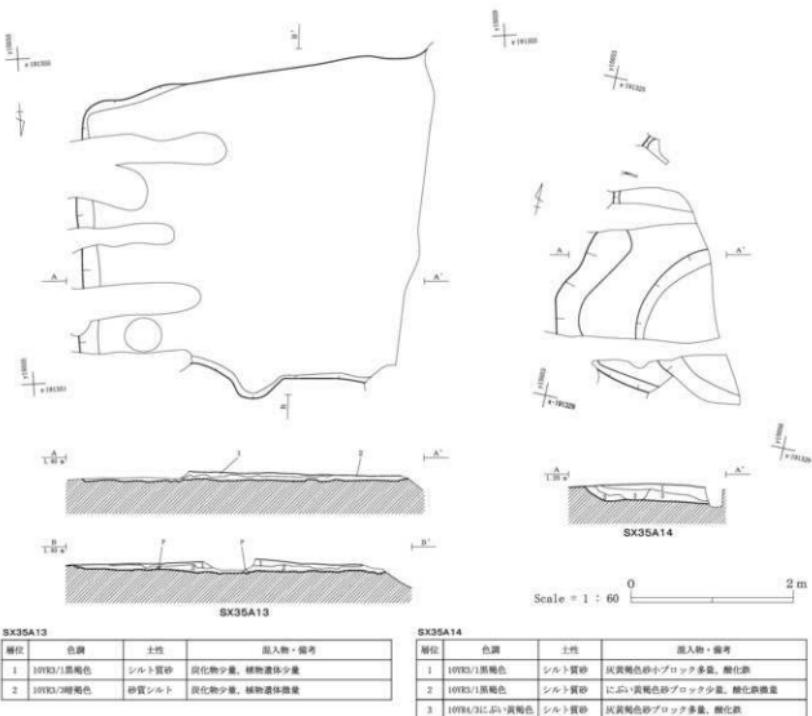
第47図 III層上面SX性格不明遺構平面図・断面図(4)



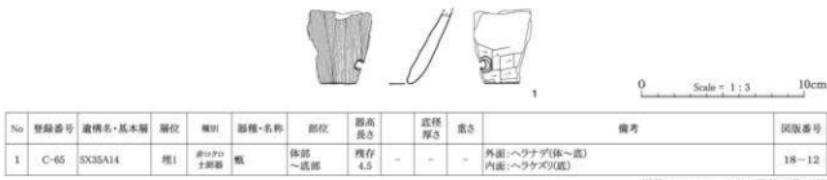
No.	登録番号	遺構名・基本層	層位	種別	器種・名称	部位	器高 長さ	口径 幅	底径 厚さ	裏丸	備考	図版番号
1	C-32	SX35A11	理1	非ロクロ 土師器	环	口縁部 ～体部	3.9	(13.2)	-	-	外面：ヘラケズ(口)～ヘラミガキ(体)→ヨコナゾ(1) 内面：ヘナゾ(口)→ヨコナゾ(口)～内外茎黑色仕上げ処理	18-10
2	C-31	SX35A11	理1	非ロクロ 土師器	環	体部 ～底部	6.7	-	6.2	-	外面：ヘラケズ(口)～ヘラミガキ(体)→ヨコナゾ(1) 内面：ヘナゾ(口)～ヘラミガキ(体)→ヨコナゾ(1) 底外：ヘラケズ	18-11

第48図 III層上面SX性格不明遺構出土遺物(4)

単位はcm・g ()の数値は復元値



第49図 III層上面SX性格不明遺構平面図・断面図(5)

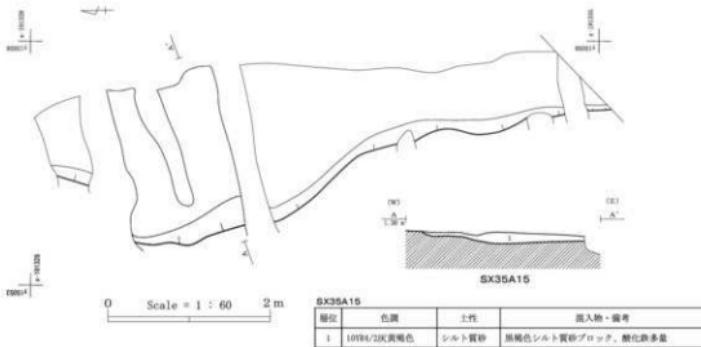


第50図 III層上面SX性格不明遺構出土遺物(5)

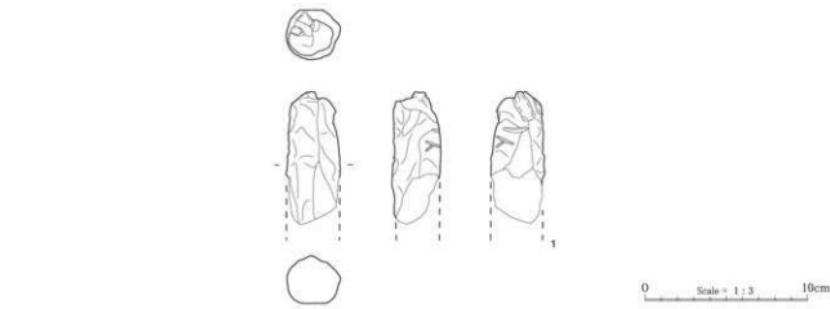
単位は cm・g ()の数値は復元値

A04、SX35A05、SX35A06は埋土・規模が類似し、東西に平行して並ぶことから、同一の性格を持つ遺構と考えられる。SX35A04は、3基のうち、西側の遺構である。規模は、南北 1.60m、東西 1.00m 以上で、平面形は3基の中で最も整っている。深さは 0.16m で、底面は起伏している。埋土は5層認められる。2層は、炭化物を多量に含んでおり、本遺構による何らかの燃焼行為があったと考えられる。4層、5層は東西壁面に沿つて認められ、垂直に近い立ち上がりを示すことから、壁面への貼り土の可能性がある。遺物は、埋土から非ロクロ土師器片が出土している。なお、本遺構の埋土は水洗選別を行ない、種子の抽出作業を試みたが、炭化木片のみ出土している。

SX35A05性格不明遺構 (第41図、第9表、写真図版8) 0F-038a Gridに位置する。本遺構は重複関係か



第51図 III層上面SX性格不明遺構平面図・断面図(6)



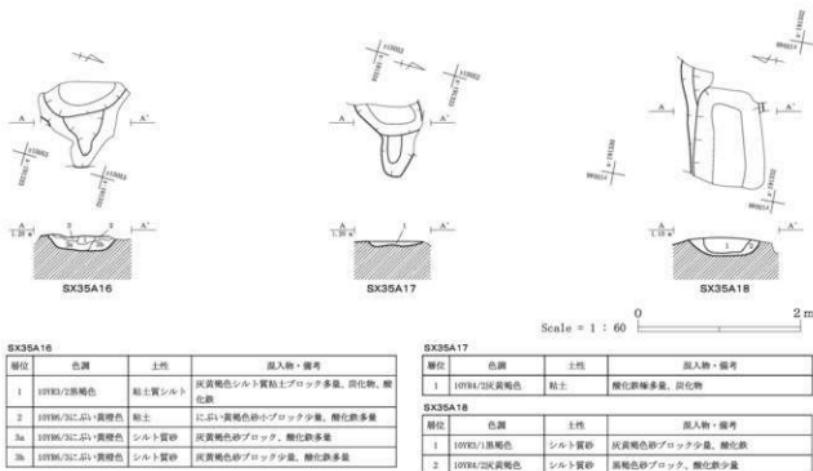
第52図 III層上面SX性格不明遺構出土遺物(6)

単位はcm・g ()の数値は復元値

ら、小溝状遺構群35次A群より古く、SI35A08、SX35A20より新しい。調査区中央に位置する不整方形の遺構である。SX35A04、SX35A06が平行して並ぶ3基のうち、中央の遺構である。SX35A05の規模は、南北1.91m、東西0.88m以上で、平面形は3基の中ではやや南北に長い。深さは0.20mで、底面は起伏しており、やや南側が深い。埋土は5層認められる。2層は、炭化物を多量に含んでおり、本遺構による何らかの燃焼行為があったと考えられる。4層、5層は西壁に沿って認められ、垂直に近い立ち上がりを示すことから、壁面への貼り土の可能性がある。遺物は、埋土から非クロコ土師器片が出土している。

SX35A06性格不明遺構（第41図、第9表、写真図版8） 0F-038a Gridに位置する。本遺構は重複関係から、小溝状遺構群35次A群より古く、SX35A20、P35A28より新しい。調査区中央に位置する不整方形の遺構である。SX35A06の規模は、南北1.50m、東西1.20m以上で、平面形は東西に広がっており、3基の中でも最も不整形である。深さは0.23mで、底面は起伏しており、南側は一段浅くなる。埋土は大別4層、細別5層認められる。2層は、炭化物を多量に含んでおり、本遺構による何らかの燃焼行為があったと考えられる。4層は西壁に沿って認められ、垂直に近い立ち上がりを示すことから、壁面への貼り土の可能性がある。遺物は、埋土から非クロコ土師器片が出土している。

SX35A07性格不明遺構（第42図、第9表） OH-037cd 0G-037abd Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SK35A19、小溝状遺構群35次A群より古く、SI35A10、SK35A29より新しい。小溝状遺構群35次A



第53図 III層上面SX性格不明遺構平面図・断面図(7)

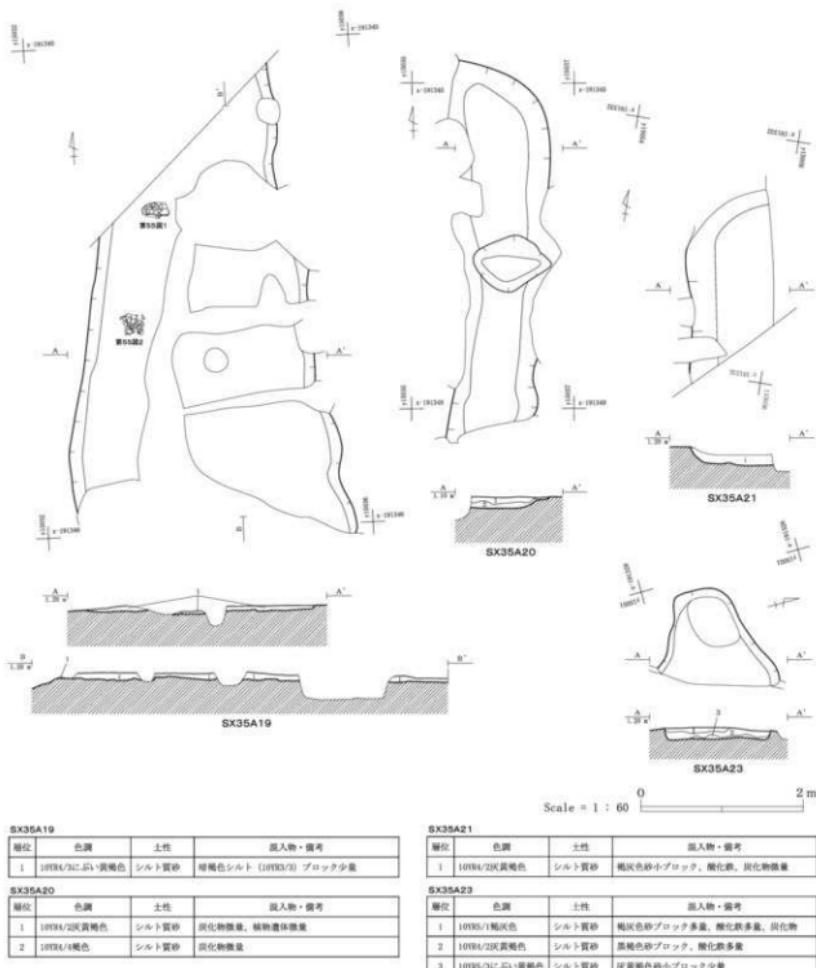
群耕作土の下面に位置する遺構である。底面は起伏しており、埋土はブロック状で人為的な攪拌が認められる。小溝状遺構群に先行する畑耕作土の可能性も考えられる。遺物は、埋土から非ロクロ土師器片、須恵器片、砥石などが出土している。

SX35A08性格不明遺構 (第42・43・44図、第9表、写真図版8・18) 0F-038ab Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SX35A09より古く、SK35A34より新しい。調査区中央に位置する土坑状の遺構である。東側が深く落ち込んでいる。埋土は6層認められる。埋土の状況から、2層と3層は、掘り直された可能性がある。遺物は、埋土4層から非ロクロ土師器の鉢 (第43図3)、埋土3層から壺 (第43図1・2)、甕 (第43図4)、埋土6層から木鍤 (第43図5)、柄 (第43図6) が出土している。第43図1の壺は、口縁部は外反して開き、体部との境に丸みのある稜を有する。調整は、口縁部内外面はヘラミガキが施され、内面は黒色処理される。体部外面は、ヘラケズリがなされる。第43図2の壺は、口縁部は直立し、体部との境に丸みのある稜を有する。調整は、外反では口縁部はヨコナデ、内面はヘラミガキの後、黒色処理される。体部外面は、ヘラケズリがなされる。第43図3の鉢は、体部は逆鐘形である。口縁部は外傾して開き、頸部に稜を有する。調整は、体部外面上半ではハケメ、底部付近ではヘラケズリの後、ヘラナデが施される。第43図4の甕は、体部は卵形である。口縁部は、外反して開き、頸部に段を有する。調整は、体部内外面ともヘラナデが施される。第43図6の柄は、縊縛痕はみられない。

SX35A09性格不明遺構 (第45・46図、第9表、写真図版18) 0F-038abd Gridに位置する。本遺構は重複関係から、小溝状遺構群35次A群より古く、SX35A08より新しい。遺物は、埋土1層から非ロクロ土師器の瓶 (第46図1) が出土している。第46図1の瓶は、体部は長胴で無底式である。調整は、外反ではハケメが施される。底部付近は、内外面ともにヘラケズリがなされ、外反では部分的にヘラミガキが施される。

SX35A10性格不明遺構 (第45・46図、第9表、写真図版18) OH-038c Gridに位置する。III層上面遺構との新旧関係はない。遺物は、埋土2層から非ロクロ土師器の壺 (第46図2) が出土している。第46図2の壺は、口縁部は外傾して開き、体部との境に内外面とも稜を有する。調整は、外反では口縁部はヨコナデ、内面ではヘラミガキが施された後、黒色処理される。体部外面は、ヘラケズリがなされる。

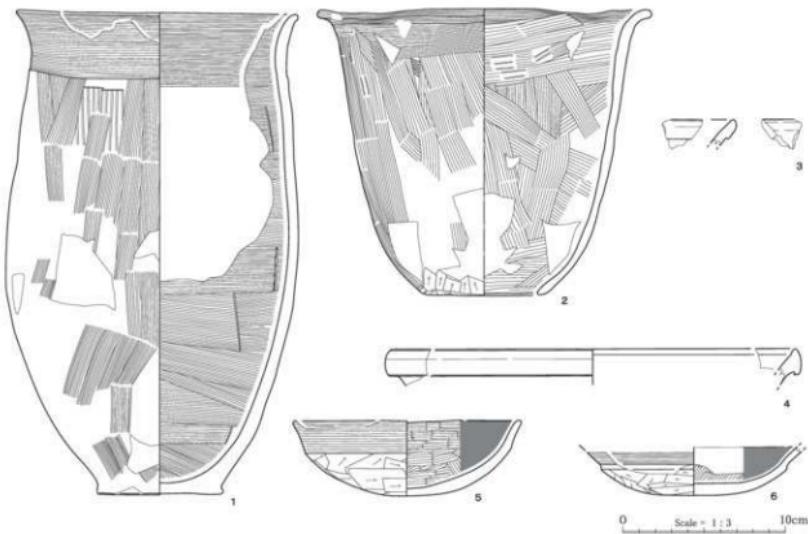
SX35A11性格不明遺構 (第47・48図、第9表、写真図版18) 0F-040bc 0F-039ad 0E-039a Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SD2523より古く、SI35A03、SI35A04、SX35A26より新しい。遺物は、埋



第54図 III層上面SX性格不明遺構平面図・断面図 (8)

土1層から非クロコ土師器の坏（第48図1）、甕（第48図2）が出土している。第48図1の坏は、口縁部は直立て開き、体部との境に稜を有する。調整は、口縁部は内外面ともヨコナデ、体部内面はヘラナデが施される。体部外表面は、下部ではヘラケズリがなされた後、ヘラミガキが施される。内外面が黒色仕上げ処理（仙台市教育委員会 1994）されている。第48図2の甕は、長胴の体部である。調整は、外面ではハケメの後ヘラナデが施される。

SX35A12性格不明遺構（第47図、第9表） 0G-038d 0F-038a Gridに位置する。本遺構は重複関係から、小溝状遺構群35次A群より古い。平面形は、長楕円形の遺構である。遺物は出土していない。



第55図 Ⅲ層上面SX性格不明遺構出土遺物 (7)

単位はcm・g ()の数値は復元値

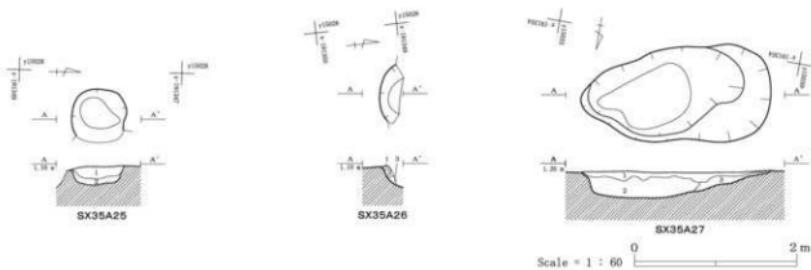
No.	登録番号	遺構名・基本期	層位	属別	器種・名称	部位	器高	口径 幅	底径 厚さ	重さ	備考	図版番号
1	C-25	SX35A19	埋1	非クロ 土師器	甕	口縁部 ～底部	29.8	17.0	7.4	-	外面:ハケ(体上)～ヘラナデ(体)～ヨコナデ(口) 内面:ヘラナデ(口～底)～ヨコナデ(口)底部:木炭痕	18-14
2	C-34	SX35A19	理1	非クロ 土師器	甕	口縁部 ～底部	17.6	20.0	(6.6)	-	外面:ハケ(体上)～ヨコナデ(口～体)～ヘラナデ(底～底) 内面:ハケ(体上)～ヨコナデ(口)～ヘラナデ(口～底)	18-15
3	E-05	SX35A19	理1	直筒器	甕	口縁部	残存 1.8	-	-	-	外面:ヨコナデ(口) 内面:ヨコナデ(口) 瓶型の可能性あり	18-16
4	E-04	SX35A19	理1	直筒器	甕	口縁部	残存 2.2	(24.8)	-	-	外面:ヨコナデ(口) 内面:ヨコナデ(口)	18-17
5	C-06	SX35A20	理1	非クロ 土師器	甕	口縁部 ～底部	4.7	13.9	-	-	外面:ヨカケズ(体～底)～ヨコナデ(口) 内面:ヘラケズ(口～底)～黒色処理	18-18
6	C-07	SX35A21	理1	非クロ 土師器	甕	口縁下部 ～底部	残存 2.9	-	-	-	外面:ヘラケズ(体～底)～ヨコナデ(口下) 内面:ヘラミガキ(口下～底)～黒色処理	18-19

SX35A13性格不明遺構 (第49図、第9表) 0F-039cd Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SI35A01、SD2523より古く、SK35A37、SK35A38、SX35A27、P35A35より新しい。平面形は方形で、堅穴状の遺構である。底面はやや起伏している。遺物は、埋土から非クロ土師器片、須恵器片、礫などが出土している。

SX35A14性格不明遺構 (第49・50図、第9表、写真図版18) OH-037b OH-036a Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SX35A15、小溝状遺構群35次A群より古く、SD35A13、SX35A30、P35A34、P35A37、P35A38、P35A44より新しい。遺物は、埋土1層から非クロ土師器櫃 (第50図1) が出土している。第50図1の櫃は、無底式である。調整は、外面はヘラナデ、内面はヘラケズが施される。底部から1.2 cm上方に、外から内へ直径5 cmの孔が焼成前に穿孔される。

SX35A15性格不明遺構 (第51・52図、第9表、写真図版18) OH-037bc OH-036ad Gridに位置する。本遺構は重複関係から、小溝状遺構群35次A群より古く、SD35A13、SD35A14、SX35A14、SX35A21、SX35A30より新しい。遺物は、埋土より非クロ土師器片、土製支脚 (第52図1) が出土している。第52図1の土製支脚は、棒状で内面は中実である。外面をオサエメで成形している。下半は欠損している。

SX35A16性格不明遺構 (第53図、第9表、写真図版9) OH-037c Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SI35A10より古い。不整形の土坑状の遺構である。遺物は、埋土から非クロ土師器片が出土している。



SX35A25			
層位	色調	土性	混入物・備考
1	10YR4/3 黒褐色	シルト質砂	炭化物微量、植物遺体微量
2	10YR4/3cに近い黄褐色	シルト質砂	

SX35A26			
層位	色調	土性	混入物・備考
1	10YR4/3cに近い黄褐色	砂	黒褐色シルトブロック、植物遺体微量
2	10YR4/3 黒褐色	シルト	植物遺体微量
3	10YR2/2 黑褐色	シルト	

第56図 III層上面SX性格不明遺構平面図・断面図(9)



No	登録番号	遺物名・基本層	層位	種別	器種・名称	部位	高さ	口径	底径	重さ	備考	国版番号
1	P-03	SX35A27	堆1	土製品	支脚	-	残存 6.5	3.5	-	88.7	外側:ヘラナデー・オサエヌ 上部:カギー工具のオサエヌ	19-1

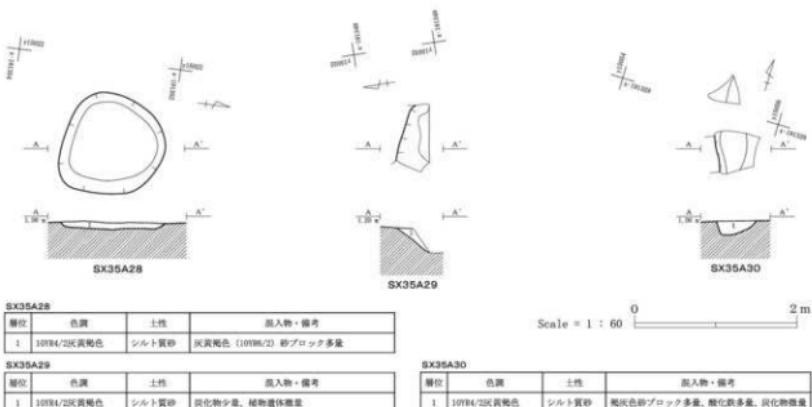
第57図 III層上面SX性格不明遺構出土遺物(8)

単位はcm・g ()の数値は復元値

SX35A17性格不明遺構 (第53図、第9表、写真図版9) OH-037c Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SI35A10より古い。不整形の土坑状の遺構である。遺物は出土していない。

SX35A18性格不明遺構 (第53図、第9表) OH-037d Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SI35A10より古い。東西に長い土坑状の遺構である。遺物は出土していない。

SX35A19性格不明遺構 (第54・55図、第9表、写真図版9・18) OG-039c OG-038d OF-039b OF-038a Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SI35A08、SK35A27、SX35A05、SX35A06、SK35A35、P35A20、P35A26より古く、SK35A40、SK35A41、SK35A42、SK35A43、SX35A20、SX35A32、P35A39、P35A40より新しい。南北に長い遺構で、底面はほぼ平坦である。遺物は、埋土1層から非クロ土師器の甕(第55図1)と瓶(第55図2)、須恵器壺(第55図3)、須恵器壺(第55図4)が出土している。第55図1の甕は、体部は長胴である。体部最大径は中位や下方に位置する。口縁部は外反して開き、頸部に段を有する。調整は、体部外面では、ハケメの後ヘラナデが施される。第55図2の瓶は、体部は逆鐘形で無底式である。口縁部は、外反して開く。調整は、体部内外面ともハケメの後ヘラナデが施される。外面下半は、



第58図 III層上面SX性格不明遺構平面図・断面図 (10)

ヘラケズりがなされる。第55図3と4はいずれも口縁部である。第55図3は瓶類の可能性がある。

SX35A20性格不明遺構 (第54・55図、第9表、写真図版18) 0G-038d 0F-038a Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SK35A42、SX35A05、SX35A06、SX35A19より古い。南北に長い溝状の遺構である。遺物は、埋土1層から非クロコ土師器の坏 (第55図5) が出土している。第55図5の坏は、口縁部は外反して開き、体部との境に緩やかな稜を有する。調整は、外面では口縁部はヨコナデ、内面ではヘラミガキが施された後、黒色処理される。体部外面は、ヘラケズりがなされる。

SX35A21性格不明遺構 (第54・55図、第9表、写真図版18) OH-037c OH-036d OG-036a Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SD35A13、SX35A15より古い。他遺構に削平され平面形は不明である。遺物は、埋土1層から非クロコ土師器の坏 (第55図6) が出土している。第55図6の坏は、体部との境に稜を有する。調整は、外面では口縁部はヨコナデ、内面ではヘラミガキが施された後、黒色処理される。体部外面は、ヘラケズりがなされる。

SX35A23性格不明遺構 (第54図、第9表) OH-037b Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SD35A13より新しい。土坑状の遺構で、底面は平坦である。遺物は、埋土から非クロコ土師器片が出土している。

SX35A25性格不明遺構 (第56図、第9表) OF-039a Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SD2523より古い。円形の土坑状の遺構である。遺物は出土していない。

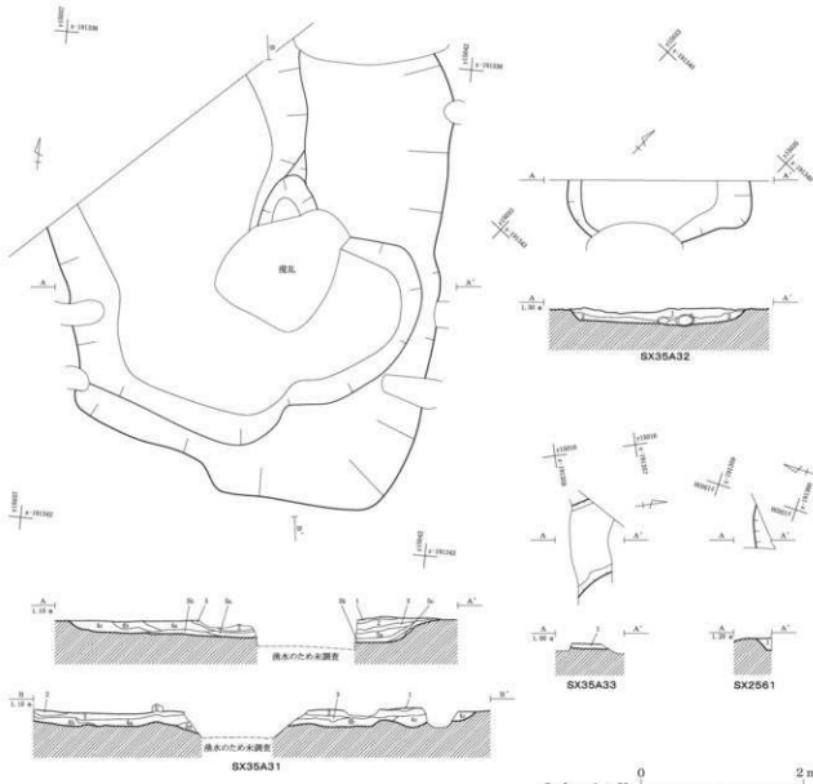
SX35A26性格不明遺構 (第56図、第9表) OF-039a Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SX35A11より古い。遺物は出土していない。

SX35A27性格不明遺構 (第56・57図、第9表、写真図版19) OF-039c Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SX35A13より古い。遺物は、埋土1層から土製支脚 (第57図1) が出土している。その他、埋土から非クロコ土師器片、礫などが出土している。第57図1の土製支脚は、棒状で内面は中実である。調整は、体部にオサエメ及びヘラナデを、上部にミヘラガキを施している。

SX35A28性格不明遺構 (第58図、第9表) OF-040c Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SI35A03より古い。円形の土坑状の遺構である。遺物は出土していない。

SX35A29性格不明遺構 (第58図、第9表) OF-039b Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SD2523より古い。土坑状の遺構である。遺物は出土していない。

SX35A30性格不明遺構 (第58図、第9表) OH-037b Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SX35A14、SX35A15より古い。土坑状の遺構である。遺物は出土していない。



Scale = 1 : 60

SX35A31

層位	色調	土性	面人物・備考
1	10TR2/2灰褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂、炭化物
2	10YR3/3灰褐色	シルト質砂	淡褐色砂質シルト微量、炭化物微量
3	10TR2/2灰褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂多量、暗褐色砂ブロック、炭化物微量
4a	10TR4/2灰黃褐色	シルト質砂	暗褐色シルト質砂ブロック、にぶい黄褐色砂ブロック、炭化物微量
5b	10TR6/2にぶい黄褐色	シルト質砂	暗褐色シルト質砂ブロック、にぶい黄褐色砂多量
4c	10TR6/2にぶい黄褐色	シルト質砂	暗褐色シルト質砂ブロック、にぶい黄褐色砂ブロック、炭化物微量
5a	10TR4/2灰黃褐色	シルト質砂	にぶい黄褐色砂ブロック少量、炭化物微量
5b	10TR6/3にぶい黄褐色	シルト質砂	灰黃褐色砂ブロック
5c	10TR6/2にぶい黄褐色	シルト質砂	灰黃褐色砂多量

SX35A32

層位	色調	土性	面人物・備考
1	2.5Y4/2灰褐色	シルト質砂	にぶい黄褐色砂、炭化物微量
2	10YR4/2灰黃褐色	シルト質砂	にぶい黄褐色砂多量

SX35A33

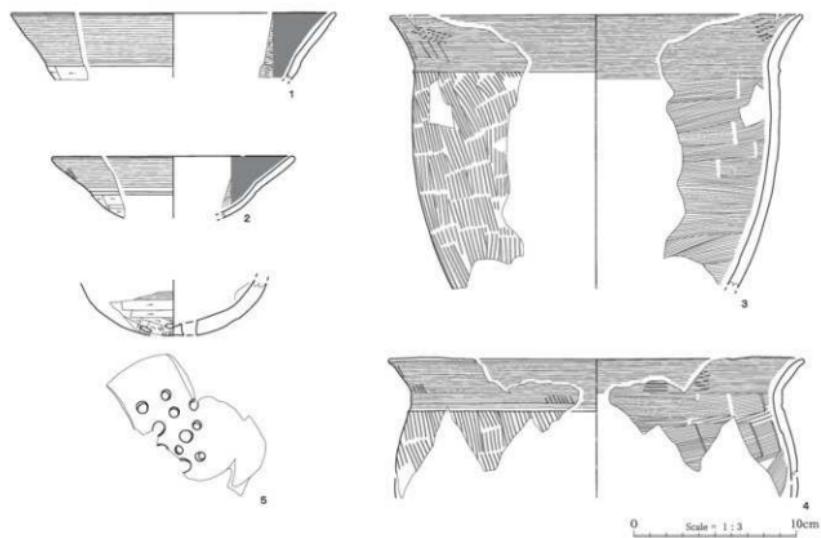
層位	色調	土性	面人物・備考
1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質砂	にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂ブロック中量、暗褐色砂質シルトブロック微量

SX 2561

層位	色調	土性	面人物・備考
1	10YR5/2灰黃褐色	シルト質砂	10YR6/2灰黃褐色砂多量

第59図 Ⅲ層上面SX性格不明遺構平面図・断面図 (11)

SX35A31性格不明遺構 (第59・60図、第9表、写真図版9・19) 0G-038abcd Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SK35A26、P35A31より古く、SD35A15より新しい。平面形は、不整形である。遺物は、埋土1層から壇（第60図5）、埋土3層から非ロクロ土器壺（第60図1・2）、埋土4層から非ロクロ土器壺（第60図3・4）が出土している。その他、埋土から礫が出土している。第60図1の壺は、口縁部は外傾して開き、



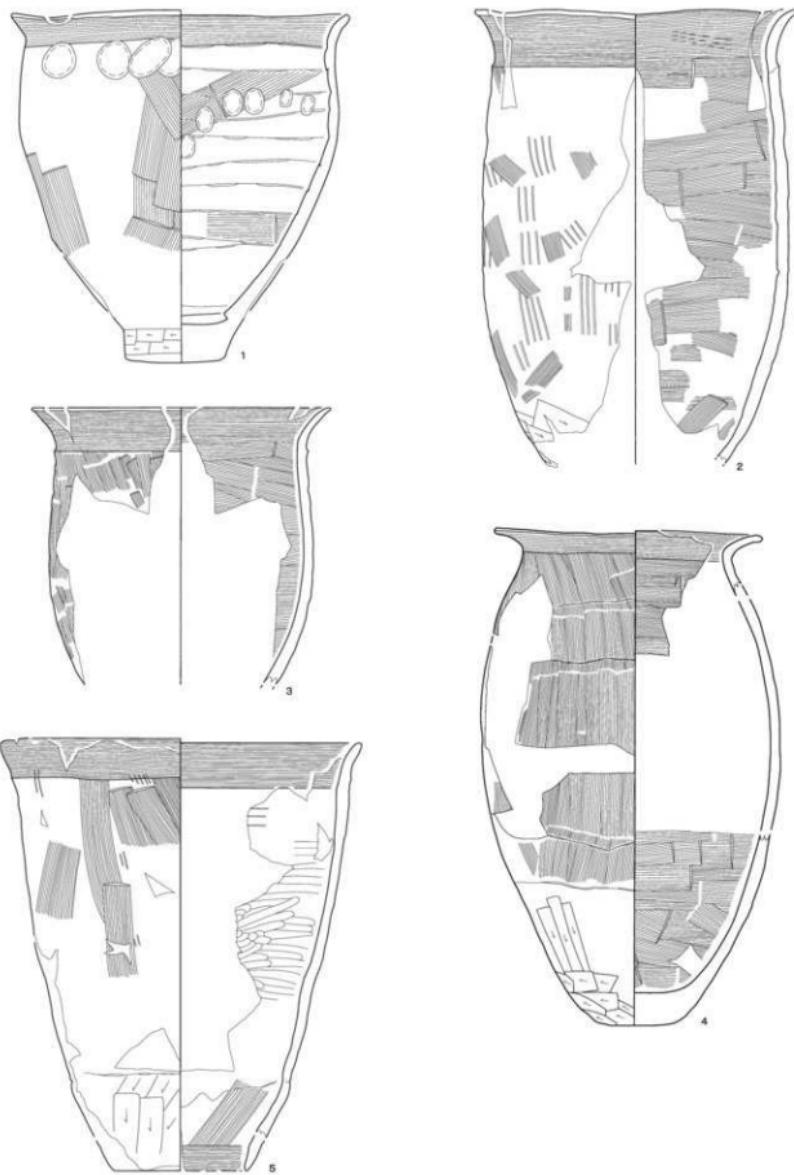
No.	登録番号	遺構名・基本形	層位	種別	部類・名称	部位	最高 残存 高さ	口径 幅	底径 厚さ	直さ	成形・調整	図版番号
1	C-38	SX35A31	埋3	非ロクロ 土師器	壺	口縁部 ～体部	残存 4.1	(19.8)	-	-	外面：ヘラケズ(口)→ヨコナデ(1) 内面：ヘラミガキ(口～体)→黒色処理	19-2
2	C-42	SX35A31	埋3	非ロクロ 土師器	壺	口縁部 ～体部	残存 3.8	(14.6)	-	-	外面：カズリ(底)→ハケメ(1)→ヨコナデ(1) 内面：ヘラミガキ(口～体)→黒色処理	19-3
3	C-35	SX35A31	埋4	非ロクロ 土師器	甕	口縁部 ～体部	残存 16.8	(25.2)	-	-	外面：ハケメ(口～体)→ヨコナデ(1) 内面：ハケメ(1)→ヘラナデ(底)→ヨコナデ(1)	19-4
4	C-40	SX35A31	埋4	非ロクロ 土師器	甕	口縁部 ～体部	残存 8.7	(25.6)	-	-	外面：ハケメ(口～体)→ヨコナデ(1) 内面：ハケメ(口～体)→ヘラナデ(体)→ヨコナデ(1)	19-5
5	C-37	SX35A31	埋1	非ロクロ 土師器	甕(多孔式)	体部 ～底部	残存 3.4	-	-	-	外面：ハケメ(口)→ヘラケズ(口下～底)→ヘラナデ(体) 内面：ハケメ(底)→ヘラナデ(底)	19-6

第60図 Ⅲ層上面SX性格不明遺構出土遺物 (9)

単位はcm・g ()の数値は復元値

体部との境に稜を有する。調整は、外面では口縁部はヨコナデ、内面ではヘラミガキが施された後、黒色処理される。体部外表面は、ヘラケズりがなされる。第60図2の壺は、口縁部は外傾して開き、体部との境に稜を有する。調整は、外面では、口縁部はハケメの後ヨコナデ、内面ではヘラミガキが施された後、黒色処理される。体部外表面は、ヘラケズりがなされる。第60図3の甕は、体部は逆鐘形である。体部最大径は上位に位置する。口縁部は外反して開き、頸部に段を有する。調整は、体部外表面ではハケメが施される。第60図4の甕は、体部は卵形である。口縁部は外傾して開き、頸部に段を有する。調整は、体部外表面ではハケメが施される。第60図5の甕は、多孔式で12孔が残存する。いずれも外から内へ焼成前に穿孔される。調整は、外面はハケメの後、ヘラケズりが施される。

SX35A32性格不明遺構 (第59・61・62図、第9表、写真図版9・19) OG-039c OG-038d Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SX35A1より古い。土坑状の遺構で、北西は調査区外に続く。底面は平坦である。遺物は、底面から非ロクロ土師器壺 (第61図1・2・3・4) と、非ロクロ土師器甕 (第61図5) が出土している。その他、埋土から粘土質の凝灰岩礫が出土している。第61図1の甕は、体部は逆鐘形である。体部最大径は、上位に位置する。口縁部は外反して開き、頸部に段はない。調整は、体部内外面ともヘラナデが施され、上半にオサエメがみられる。外面下半は、ヘラケズりがなされる。第61図2の甕は、体部は長胴である。体部最大径は、中位や下方に位置する。口縁部は、外反して開き、頸部に段を有する。調整は、体部外表面ではハケメの後、ヘラナデが施される。体部外表面下半は、ヘラケズりがなされる。第61図3の甕は、体部は長胴である。体部最大径は、中位に位置する。口縁部は外反して開き、頸部に段を有する。調整は、体部内外面とも



第61図 III層上面SX性格不明遺構出土遺物 (10) SX35A32

No	登録番号	遺構名・基本層	層位	概要	器種・名称	部位	高さ	口径	底径	厚さ	重さ	成形・調整	図版番号
1	C-24	SX35A32	底面	非クロ 土師器	甕	口縁部 ～底部	21.7	20.6	6.0	-	外面:ヘラナデ(体)→ヨコナデ(口)→オサエ(体上)→ヘラケズ(底) 内面:輪模み→ヘラナデ(体)→オサエ(体上)→ヨコナデ(口) 武外:木製底	19-7	
2	C-26	SX35A32	底面	非クロ 土師器	甕	口縁部 ～体部	残存 28.1	(19.5)	-	-	外面:ハケメ(体)→ヘラナデ(体)→ヘラズ(体下)→ヨコナデ(口) 内面:輪模み→ヘラナデ(体)→ヨコナデ(口)→ヨコナデ(口)	19-10	
3	C-33	SX35A32	底面	非クロ 土師器	甕	口縁部 ～体部	残存 17.0	(18.2)	-	-	外面:ヘナデ(体)→ヨコナデ(1) 内面:輪模み→ヘラナデ(1)→ヨコナデ(1)	19-8	
4	C-59	SX35A32	底面	非クロ 土師器	甕	口縁部 ～底部	30.6	16.1	3.1	-	外面:ヘナデ(体)→ヨコナデ(1) 内面:輪模み→ヘラナデ(1)→ヨコナデ(1)	19-11	
5	C-27	SX35A32	底面	非クロ 土師器	甕	口縁部 ～底部	残存 26.5	22.0	8.2	-	外面:ハケメ(体)→ヘラナデ(体)→ヨコナデ(口)→ヘラケズ(体下) 内面:ハケメ(体)→ヘラナデ(体)→ヨコナデ(1)→ヨコナデ(1) 輪模み→ヘラナデ(体下)→ヨコナデ(1)	19-9	

第62図 III層上面SX性格不明遺構出土遺物 (11)

単位はcm。()の数値は復元値

ヘラナデが施される。第61図4の甕は、体部は卵形である。体部最大径は、中位に位置する。口縁部は、外反して開き、頸部に段はない。調整は、体部内外面ともヘラナデが施される。体部外面下半は、ヘラケズりがなされる。第65図5の甕は、体部は漏斗状である。体部最大径は、頸部に位置する。口縁部は、外傾して開き、頸部に段はない。調整は、体部外面では、ハケメの後ヘラナデが施される。内面では、ハケメの後、上半はヘラミガキ、下半はヘラナデが施される。外面下部は、ヘラケズりがなされる。

SX35A33性格不明遺構 (第59図、第9表) 0E-040a Gridに位置する。III層上面遺構との新旧関係はない。遺物は出土していない。

SX2561性格不明遺構 (第59図、第9表) 0E-039a Gridに位置する。III層上面遺構との新旧関係はない。遺物は出土していない。

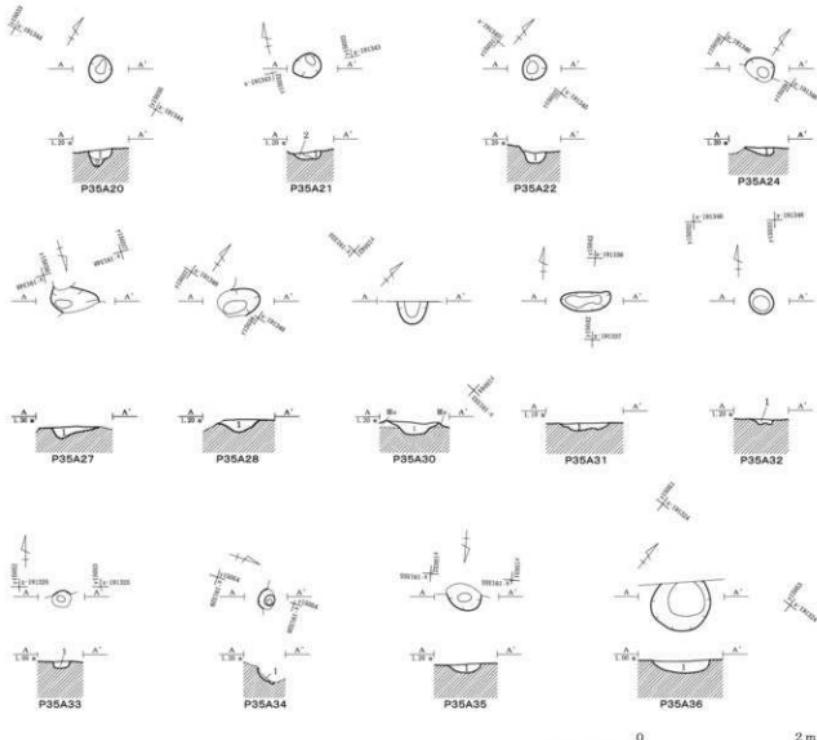
(6) ピット (第63・64図、第10表)

III層上面のピットは計25基検出した。ピットの平面形はいずれも不整円形から不整形で、平面規模は0.29～0.62m、深さは0.11～0.22mと小規模である。埋土は単層のものが多く、土色は黒褐色・灰黄褐色を中心とし、土性はシルト質砂のものが多い。柱材や柱痕跡を持つものはない。ピットは調査区中央の0G-039cGrid付近と調査区北西の0H-037bGrid周辺に集中している。遺物が出土したピットは、P35A27・P35A36・P35A39・P35A42・P35A43・P35A47の6基で、いずれも埋土から非クロ土師器片が出土している。

(7) 小溝状遺構群 III層上面の小溝状遺構群は、小溝状構造30条で構成されている。

小溝状遺構群35次A群 (第65・66・67図、第11表、写真図版9・10・19) 0I-037c OH-038c OH-037bcd OH-036ad OG-039c OG-038abcd OG-037abd OF-039bc OF-038abd Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SI35A01、SI35A08、SI35A10、SD35A12、SK35A11、SK35A12、SK35A13、SK35A19、SK35A20、SK35A26、SX35A04、SX35A05、SX35A06、SX35A07、SX35A09、SX35A14、SX35A15、SX35A19、P35A24、P35A31、P35A33、P35A45より新しい。III層上面遺構の中では最も新しい。小溝状遺構群35次A群は、調査区全域に位置し、東西方向に直線的に平行して走る30条の小溝状遺構からなる。調査区北東部で一部耕作土を確認した。東側は、第25次調査東区へ続く。

35次A群の範囲は、東西23m、南北31.5mで、小溝範囲の面積は計測可能な範囲で294.6 m²以上である。個別の小溝の全長は調査区外へ続いたため不明だが、計測しうる限りの最大全長は17.3m以上である。走行方向はN-73° E-N-88° Eである。小溝の上端幅は0.18～0.55mである。溝中心間の距離は0.70～2.05mで、平均は1.03mである。遺構確認面からの深さは0.02～0.33mである。底面はほぼ平坦で、工具痕は一部に認められる。埋土は大別2層、細別3層認められた。1層は上部の耕作土、2層は小溝埋土である。小溝埋土は、黒褐色シルトもしくはシルト質砂である。小溝単位での埋土の差異は認められない。西側は、35次A群から2.4～2.7m離れて小溝群に直交して走るSD2523に区画される。遺物は、埋土から非クロ土師器の坏 (第67図1・2)と、鉢 (第67図3)が出土している。いずれも、遺構の時期を示す資料ではない。第67図1の坏は、口縁部では外傾して開き、体部との境に緩やかな棱を有する。調整は、外面では口縁部はハケメの後ヨコナデ、内面ではヘラミガキが施された後、黒色処理される。体部外面は、ヘラケズりがなされる。第67図2の坏は、体部との境に稜を有する。調整は、外面では口縁部はヨコナデ、内面はヘラミガキが施された後、黒色処理される。体部外面は、ヘラケズりがなされる。第67図3の鉢は、口縁部が直立し、体部との境に丸みのある稜を有する。



P35A20

層位	色調	土性	混入物・備考
1	7.5YR2/3黒褐色	粘土	炭化物少量
2	10YR3/1	シルト	

P35A21

層位	色調	土性	混入物・備考
1	10YR2/1黒色	粘土質シルト	
2	10YR3/2黒褐色	砂質シルト	

P35A22

層位	色調	土性	混入物・備考
1	10YR3/2黒褐色	砂質シルト	炭化物少量

P35A24

層位	色調	土性	混入物・備考
1	10YR3/2黒褐色	砂質シルト	黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルトブロック少量

P35A27

層位	色調	土性	混入物・備考
1	10YR3/2黒褐色	シルト質砂	植物遺体微量

P35A28

層位	色調	土性	混入物・備考
1	10YR4/2灰黒褐色	シルト質砂	に赤い黒褐色砂小ブロック少量、炭化物少量

P35A30

層位	色調	土性	混入物・備考
1	10YR4/2灰黒褐色	シルト質砂	褐灰色砂小ブロック多量、炭化物

P35A31

層位	色調	土性	混入物・備考
I	10YR2/1黒褐色	シルト質砂	に赤い黒褐色砂小ブロック少量

P35A32

層位	色調	土性	混入物・備考
I	10YR2/1黒褐色	シルト質砂	黒褐色砂小ブロック微量

P35A33

層位	色調	土性	混入物・備考
I	10YR2/2灰黒褐色	シルト質砂	黒褐色砂小ブロック微量

P35A34

層位	色調	土性	混入物・備考
I	10YR4/1褐色灰	シルト質砂	灰黒褐色砂小ブロック多量、炭化物

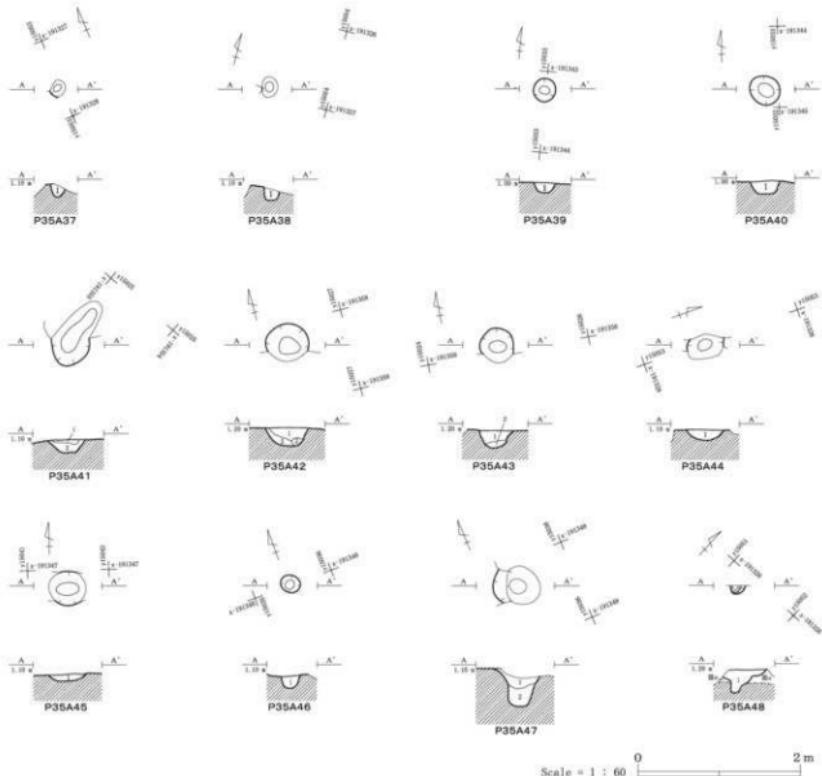
P35A35

層位	色調	土性	混入物・備考
I	10YR3/2黒褐色	砂質シルト	植物遺体微量

P35A36

層位	色調	土性	混入物・備考
I	10YR3/1黒褐色	シルト質砂	灰黒褐色砂小ブロック多量

第63図 III層上面ピット平面図・断面図(1)



P35A37			
層位	色調	土性	混入物・備考
1	10YR4/2SC黃褐色	シルト質砂	褐色色砂小ブロック多量、顕化度

P35A38			
層位	色調	土性	混入物・備考
1	10YR4/2SC黃褐色	シルト質砂	褐色色砂小ブロック多量、顕化度

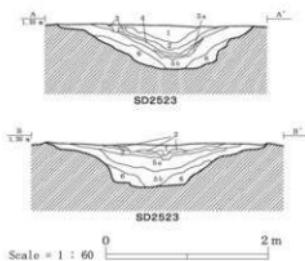
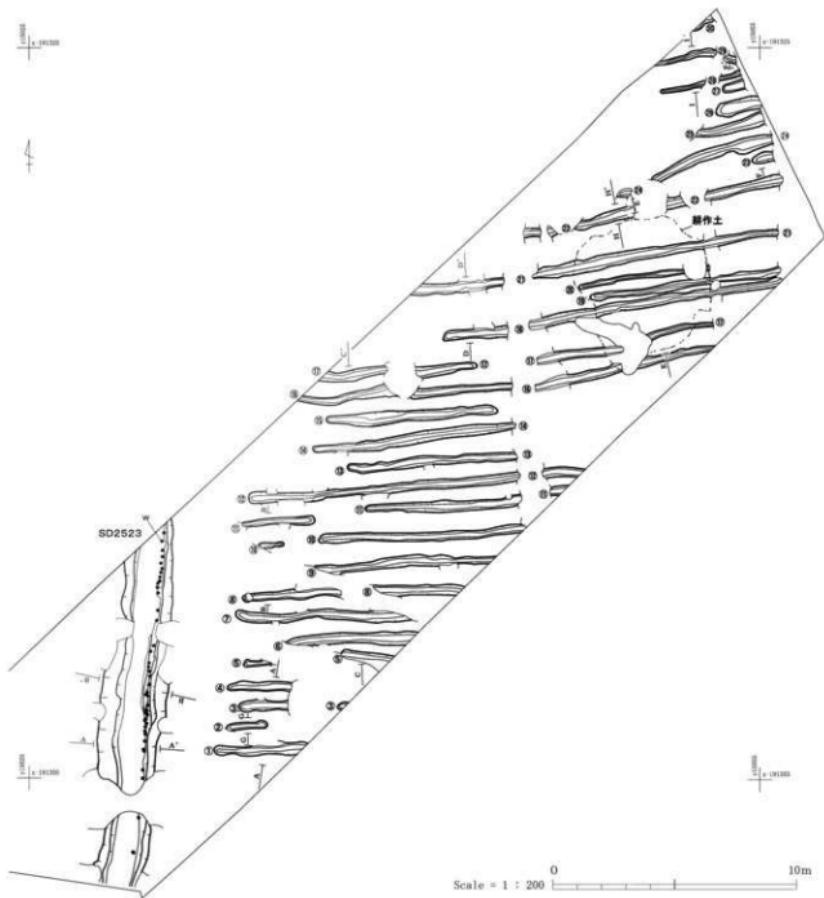
P35A39			
層位	色調	土性	混入物・備考
1	10YR4/2SC黃褐色	シルト質砂	

P35A40			
層位	色調	土性	混入物・備考
1	10YR4/2SC黃褐色	シルト質砂	泥化物微量

P35A41			
層位	色調	土性	混入物・備考
1	10YR4/1褐色灰色	シルト質砂	褐色色砂シルト少量
2	10YR3/2黑色	砂質シルト	下部に多い黒褐色砂小ブロック、顕化鉄微量

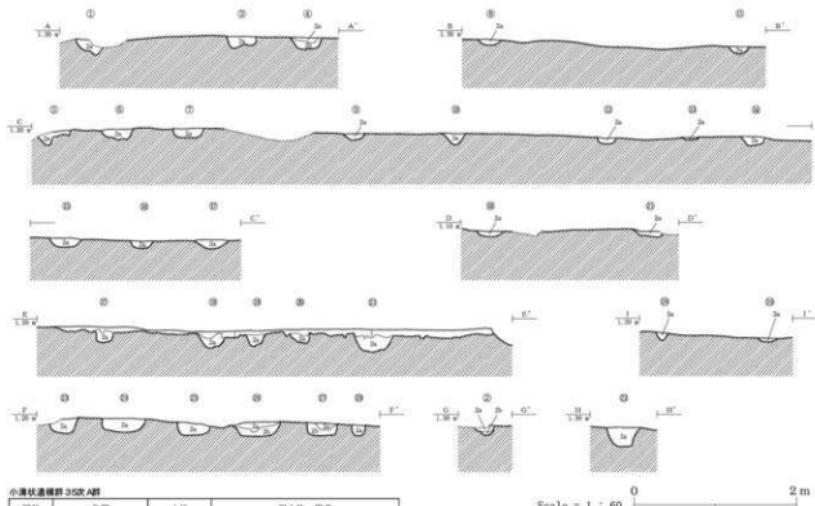
P35A42			
層位	色調	土性	混入物・備考
1	10YR4/1褐色灰色	シルト質砂	泥化物微量
2	10YR4/2SC黃褐色	シルト質砂	
3	10YR6/3C灰・黃褐色	シルト質砂	灰黃褐色少少量

第64図 Ⅲ層上面ピット平面図・断面図(2)



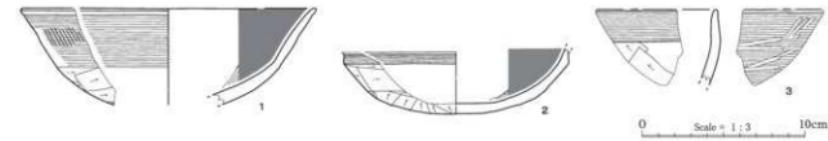
層位	色調	土性	鉛人物・備考
1	10YR3/3暗褐色	砂質シルト	酸化鉄微量、植物遺体微量
2	10YR5/1黑色	粘土	西側上面にぶつ黄褐色砂多量
3	10YR7/2C灰褐色	シルト	灰白色火成灰、上部灰黃褐色シルト質砂少量
4	10YR2/1黒色	粘土質シルト	中央灰黃褐色砂多量
5a	10YR4/2C灰褐色	シルト質砂	にぶつ黄褐色砂多量
5b	10YR4/2B灰褐色	シルト質砂	上部にぶつ黄褐色砂多量、下部植物遺体砂多量
6	10YR4/2B灰褐色	シルト質砂	上部にぶつ黄褐色砂ブロック、下部にぶつ黄褐色砂と互層

第65図 SD2523 小溝状遺構群35次A群平面図・断面図



小溝状遺構群35次A群		
層位	色調	土性
1	10YR4/3に近い黄褐色	シルト質砂
2a	10YR2/2黒褐色	シルト質砂
2b	10YR2/2黒褐色	シルト質砂

第66図 小溝状遺構群35次A群断面図



No.	登録番号	遺構名・基本層	層位	種別	器種・名称	部位	器高 底径 長さ	口徑 幅	底径 厚さ	直さ	備考	図版番号
1	C-52	小溝状遺構群 35次A群⑤	埋2	赤土鉢器	环	口縁部 ～体部	残存 5.9	(17.8)	—	—	外側：ヘラケズリ(体)～ヘケキ(口)～ヨコナデ(口) 内側：ヘラケズリ(口～体)～ヨコナデ(口)下 黑色處理	19-14
2	C-54	小溝状遺構群 35次A群⑤	埋2	赤土鉢器	环	口縁下部 ～底部	残存 3.9	—	—	—	外側：ヘラケズリ(体～底)～ヨコナデ(口) 内側：ヘラケズリ(口～底)～ヘラミガキ(口～底)	19-15
3	C-60	小溝状遺構群 35次A群⑤	埋2	赤土鉢器	鉢	口縁部 ～体部	残存 4.7	—	—	—	外側：ヘラケズリ(体)～ヨコナデ(口) 内側：ヘラナデ(口～体)～ヘラミガキ(口～底)	19-13

第67図 小溝状遺構群35次A群出土遺物

単位はcm・g ()の数値は復元値

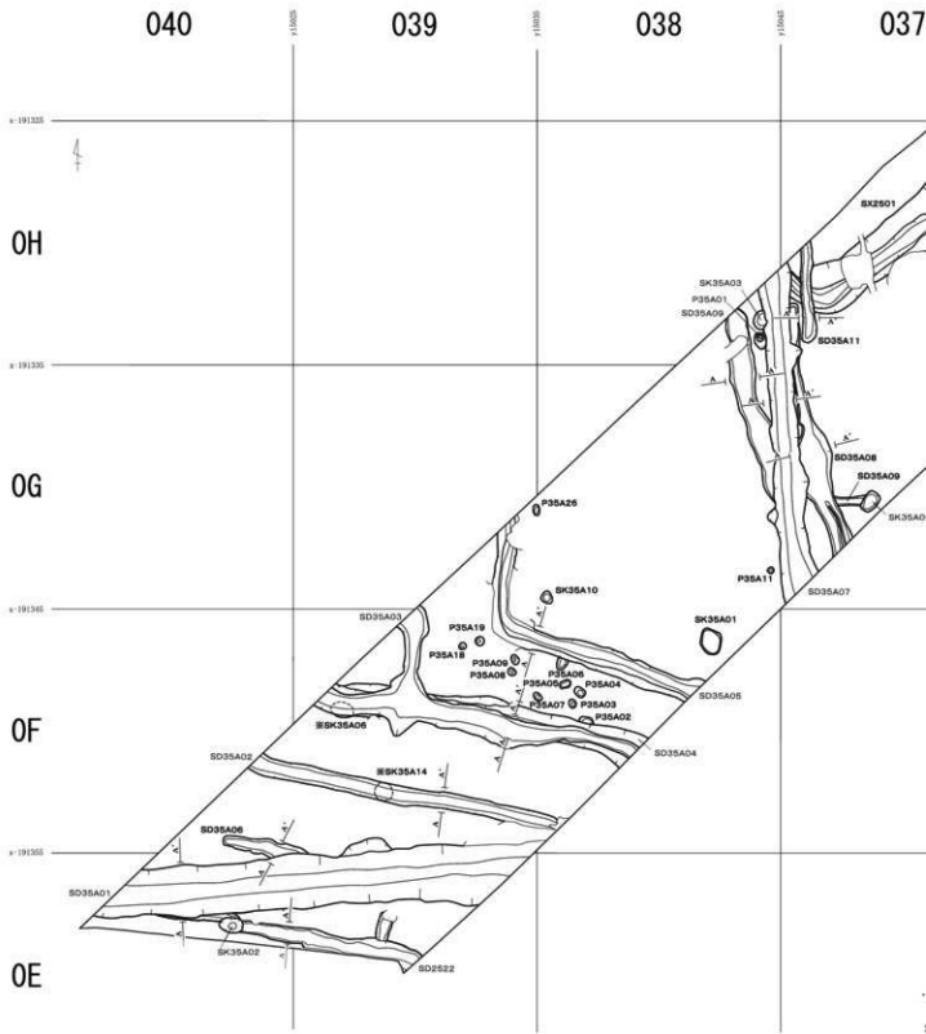
調整は、外面では口縁部はヨコナデ、内面ではヘラナデの後、一部にヘラミガキが施される。体部外面は、ヘラケズリがなされる。

2. II層上面遺構

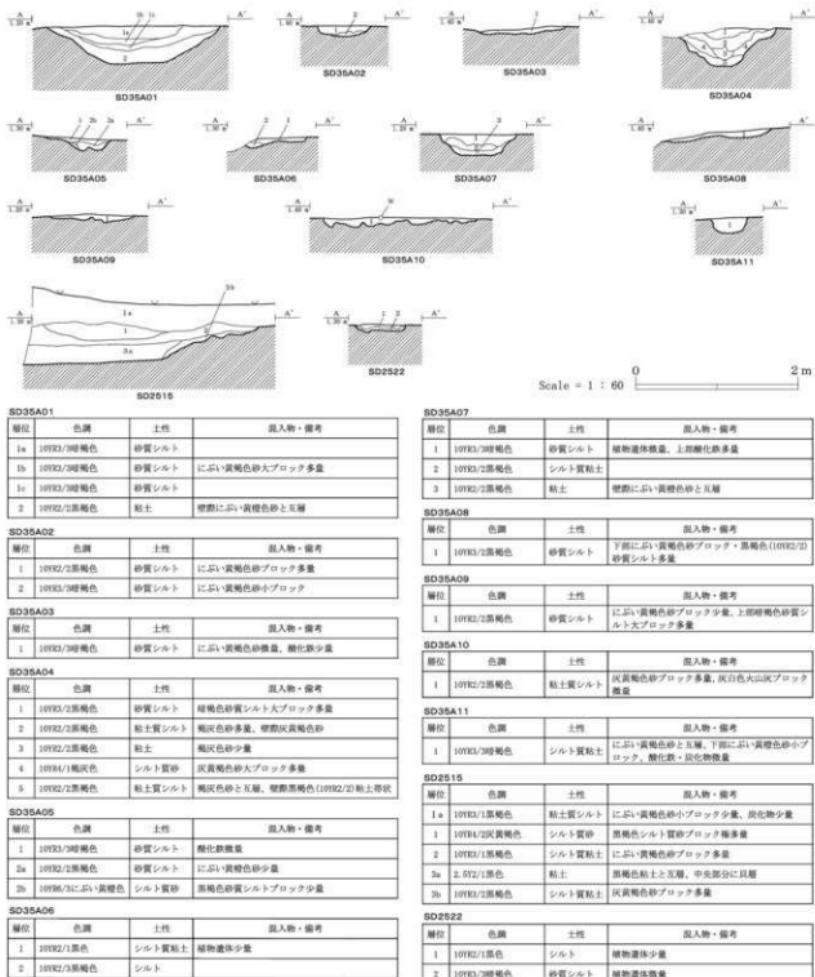
II層上面の遺構は溝跡13条、土坑7基、性格不明遺構1基、ピット13基の、合計34基を検出した。

(1) SD溝跡 II層上面の溝跡は、13条検出した。

SD35A01溝跡（第68・69・70図、第6表、写真図版5・19・20） 0F-039ed 0F-038d 0E-040ab 0E-039ab Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SD35A06、SD2522より新しい。調査区南端を東西方向に走る溝で、両端は調査区外に続く。遺物は、埋土から非ロクロ土師器、陶磁器、砥石が出土しており、そのうち6点を図あるいは写真で示した。第70図1の高窓は、短脚で裾部は屈折して開く。坏部は外傾して開き、体部との境に稜を有する。調整は、坏部では、口縁部はヨコナデ、内面ではヘラミガキが施された後、黒色処理される。脚部は、



第68図 沼向遺跡第35次調査A区 II層上面遺構全体図

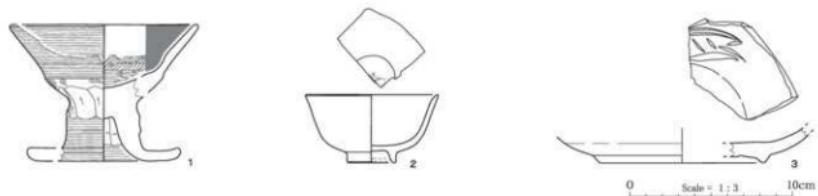


第69図 II層上面SD溝断面図

柱外部ではヘラナデが施された後、ヘラケズリがなされる。内面ではヘラケズリがなされる。裾部は、内外面ともヨコナデが施される。第70図2は、端反形の磁器小鉢である。染付で内底と外側部に文様が描かれる。第70図3は、青磁中皿である。内底に筋彫りで葉文が掘り込まれる。

SD35A02溝跡（第68・69図、第6表） 0F-040c 0F-039cd 0F-038d Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SK35A14より新しい。調査区南部で西北西方向に走る溝である。両端は調査区外へ続く。SD35A03、SD35A06、SD2522と等間隔で並んで走る。遺物は、埋土から非クロ士師器片、礫が出土している。

SD35A03溝跡（第68・69図、第6表） 0G-039c 0F-039abcd 0F-038ad Gridに位置する。本遺構は重複

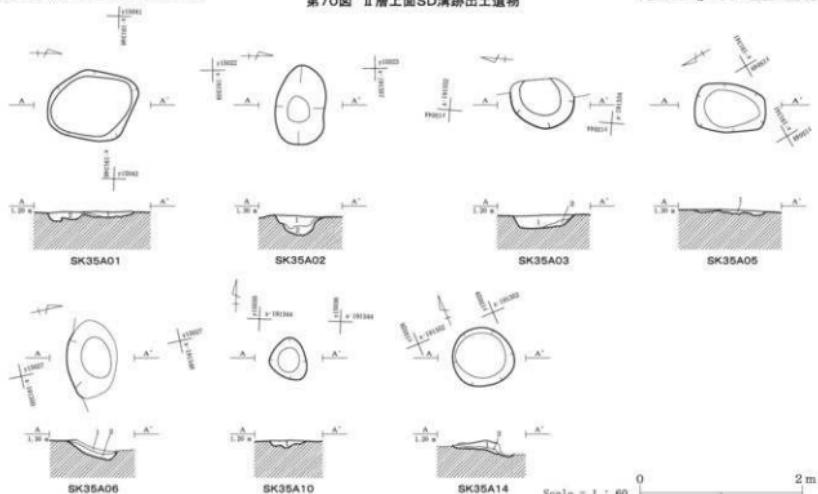


No.	登録番号	遺構名・基本層	層位	種別	器種・名称	部位	高さ	口径	底径	底盤	直方	備考	図版番号
1	C-48	SD35A01	埋土	口縁部	口縁部～底部	8.4	(11.4)	(8.0)	-	-	-	外面：ヘラナギ枝下地～ヘラナギ枝(柱上)～ココナツ(柱上)	19-16
2	J-01	SD35A01	埋土	縁部	小網	口縁部～底部	4.2	(8.2)	(3.1)	-	-	ログ外：染付の文様(体) 内面：染付の文様(底)	20-1
3	J-02	SD35A01	埋土	縁部	中皿	底部	2.2	-	(10.1)	-	-	ログ内：鶴の文(底) 底外：蛇の目状輪絞り～縫粘～チャコア底 肥前(波佐見窯) 17世紀後半	20-4
-	J-04	SD35A01	埋1	縁部	大腹(白磁)	体部～底部	残存 13.0	-	(9.0)	-	-	ロクロ 口真合	20-3
-	J-05	SD35A01	埋1	縁部	小網(環形)	口縁部～体部	残存 3.9	(11.0)	-	-	-	ロクロ 外面：人工真領の文様 内面：美濃(波佐見窯) 19世紀前半	20-2
-	K-05	SD35A01	埋1	石質品	砾石	-	残存 6.4	4.1	1.6	90.0	使用面:3面	-	20-5

※ J-04, J-05, K-05は、写真のみ掲載している。

第70図 II 層上面SD溝跡出土遺物

単位は cm · g ()の数値は復元値



層位	色調	土性	混入物・備考
1	10H3/2黒褐色	砂質シルト	にぶい 黒褐色の、棕褐色め言シルトブロック少量 酸化鉄微量
2	10H4/1褐色	砂質シルト	にぶい 黑褐色の

層位	色調	土性	混入物・備考
1	10H3/1黒褐色	シルト	植物遺体
2	10H4/2黒褐色	砂質シルト	植物遺体

層位	色調	土性	混入物・備考
1	10H3/2黒褐色	砂質シルト	にぶい 黑褐色砂微量、酸化鉄微量
2	10H5/3にぶい 黑褐色	シルト質砂	黒褐色砂質シルトブロック

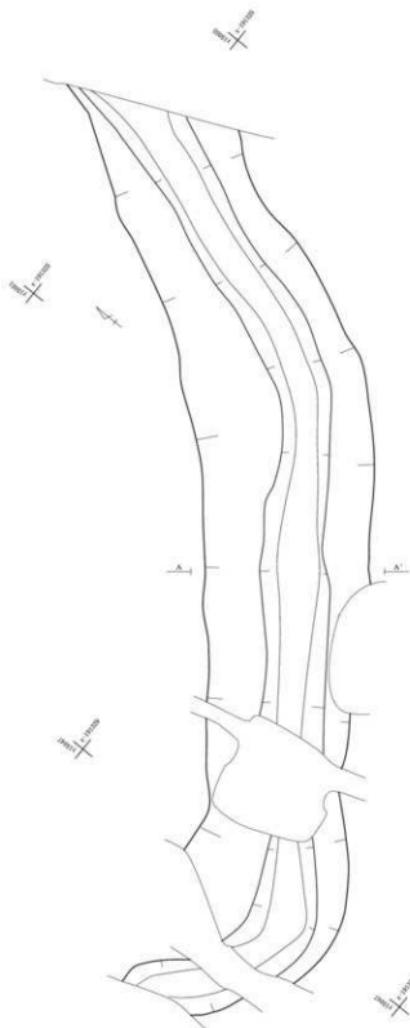
層位	色調	土性	混入物・備考
1	10H2/2黒褐色	砂質シルト	黒褐色砂、炭化物微量

層位	色調	土性	混入物・備考
1	10H2/2黒褐色	シルト質砂	黒褐色砂質シルトブロック多量、黒褐色粘土質シルトブロック少量
2	10H2/1褐色	粘土質シルト	-

層位	色調	土性	混入物・備考
1	10H2/1灰褐色	シルト質砂	黒褐色砂質シルトブロック多量、黒褐色粘土質シルトブロック少量

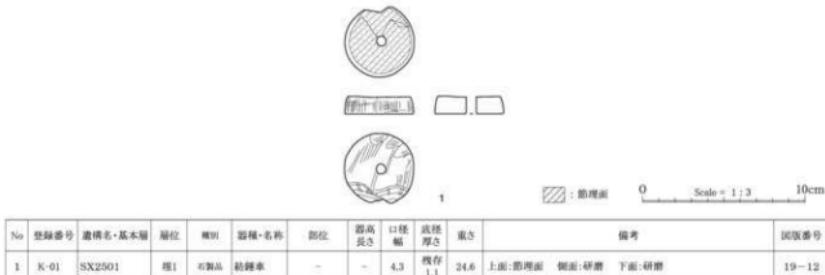
層位	色調	土性	混入物・備考
1	10H2/1黑色	粘土	にぶい 黑褐色の、灰白火山灰ブロック少量
2	10H2/3にぶい 黑褐色	シルト質砂	黒褐色砂

第71図 II 層上面SK土坑平面図・断面図



SX2501			添入物・備考
層位	色調	土性	
I	10103/2 黒褐色	粘土質シルト	上部黒褐色(10103/1)砂質シルト多量。下部に 高い黄褐色砂ブロック

第72図 II 層上面SX性格不明構造平面図・断面図



第73図 II層上面SX性格不明遺構出土遺物

単位はcm・g ()の数値は復元値

関係から、SD35A04、SK35A06より新しい。北西部は擾乱に削平される。調査区南部で西北西方向に走る溝である。西側で分岐し、西北西と北に分かれる。両端は調査区外へ続く。遺物は、埋土から非ロクロ土師器片が出土している。

SD35A04溝跡（第68・69図、第6表） 0F-039abc 0F-038ad Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SD35A03、SK35A06より古く、P35A02より新しい。東西方向に走る溝で、上部をSD35A03に削平される。両端は調査区外へ続く。遺物は、埋土から非ロクロ土師器片が出土している。

SD35A05溝跡（第68・69図、第6表） 0G-039c 0F-039b 0F-038ab Gridに位置する。本遺構は重複関係から、P35A06より新しい。調査区南部で西北西方向に走る溝である。西側で屈曲し北に曲がる。両端は調査区外へ続く。走行方向は、屈曲部を含めSD35A03と同一である。遺物は、埋土から非ロクロ土師器片が出土している。

SD35A06溝跡（第68・69図、第6表） 0F-040c 0F-039d 0E-040b 0E-039a Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SD35A01より古い。東西方向に走る溝で、東側はSD35A01に削平される。遺物は、埋土から非ロクロ土師器片が出土している。

SD35A07溝跡（第68・69図、第6表、写真図版6） 0H-038c 0H-037d 0G-038bc 0G-037ad Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SD35A08、SD35A09、SK35A03、SX2501、P35A01より新しい。南北方向に走る溝である。両端は調査区外へ続く。基本層 I b層上面より掘りこまれている。遺物は、埋土から非ロクロ土師器片などが出土している。

SD35A08溝跡（第68・69図、第6表、写真図版6） 0H-037d 0G-037ad Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SD35A07より古く、SD35A09より新しい。南北方向に走る溝で、西側はSD35A07に削平される。南側は調査区外に続く。遺物は、埋土から非ロクロ土師器、判読不能の古錢（鉄錢）が出土している。

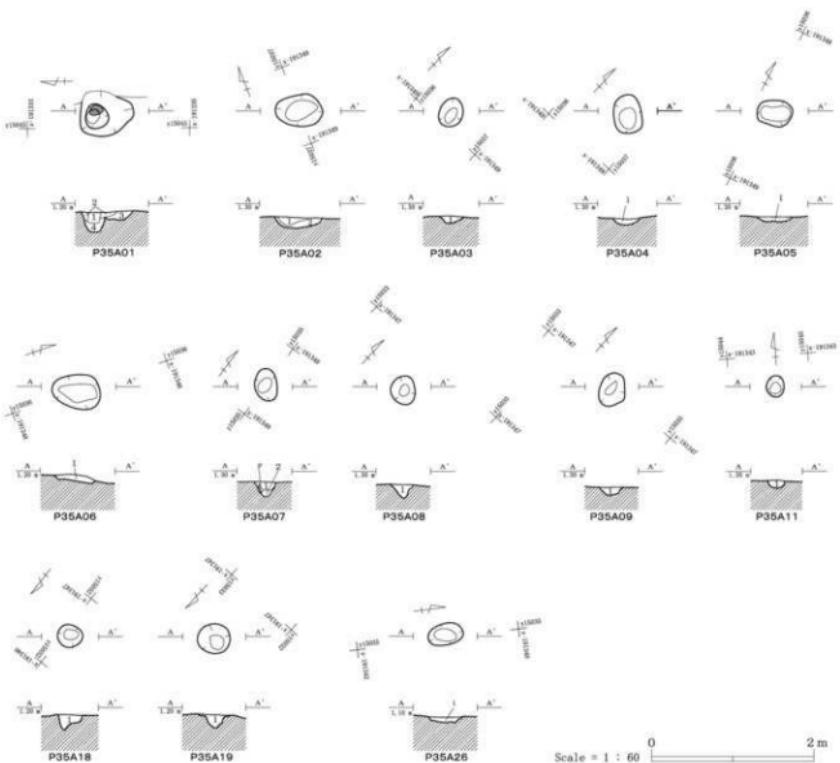
SD35A09溝跡（第68・69図、第6表、写真図版6） 0H-038c 0G-038bc 0G-037d Gridに位置する。本遺構との重複関係から、SD35A07、SD35A08、SK35A05より古い。南北方向に走る溝で、南端は東へ屈曲する。基本層 I b層下面より掘りこまれている。埋土は、基本層 I b層に類似する。底面は、工具痕が顕著に認められる。遺物は、埋土から非ロクロ土師器片が出土している。

SD35A10溝跡（第68・69図、第6表） 0H-037bc 0H-036d 0G-037b 0G-036a Gridに位置する。II層上面遺構との新旧関係はない。南北方向に走る溝で、北端は北東へ屈曲し、南側は調査区外へ続く。西側の一段低くなる部分で工具痕が認められる。遺物は、埋土から非ロクロ土師器片が出土している。

SD35A11溝跡（第68・69図、第6表） 0H-037ad Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SX2501より新しい。南北方向に走る溝で、北側は調査区外へ続く。遺物は出土していない。

SD2515溝跡（第68・69図、第6表） 0H-036ad Gridに位置する。II層上面遺構との新旧関係はない。第25次調査東区から続く南北方向に走る溝である。遺物は、埋土から非ロクロ土師器片、礫が出土している。

SD2522溝跡（第68・69図、第6表） 0E-040ab 0E-039ab Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SD



P35A01

層位	色調	土性	混入物・備考
1	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	
2	10YR2/3黒褐色	砂質シルト	に高い黒褐色砂ブロック、酸化鉄鉱
3	10YR5/2に高い黒褐色	シルト質砂	灰黒褐色砂多量、黑褐色質シルトブロック
4	10YR5/2に高い黒褐色	シルト質砂	黑褐色粘土質シルト少量

P35A02

層位	色調	土性	混入物・備考
1	10YR3/2黒褐色	シルト	黄褐色シルト質物ブロック少量、植物遺体微量
2	10YR4/2に高い黒褐色	シルト	淡褐色シルトブロック少量、植物遺体微量

P35A03

層位	色調	土性	混入物・備考
1	10YR3/2黒褐色	シルト	植物遺体微量

P35A04

層位	色調	土性	混入物・備考
1	10YR3/2黒褐色	シルト	炭化物微量

P35A05

層位	色調	土性	混入物・備考
1	10YR3/2黒褐色	シルト	植物遺体微量

P35A05

層位	色調	土性	混入物・備考
1	10YR3/2黒褐色	シルト	炭化物微量

P35A07

層位	色調	土性	混入物・備考
1	10YR2/2黒褐色	シルト	植物遺体微量
2	10YR2/1黒褐色	粘土質シルト	植物遺体微量

P35A08

層位	色調	土性	混入物・備考
1	10YR2/2黒褐色	シルト	

P35A09

層位	色調	土性	混入物・備考
1	10YR3/2黒褐色	シルト	に高い黄褐色砂ブロック少量、炭化物微量

P35A11

層位	色調	土性	混入物・備考
1	10YR2/3に高い黒褐色	砂質シルト	に高い黄褐色 (10YR3/2) 粘土小ブロック少量、炭化物微量

P35A18

層位	色調	土性	混入物・備考
1	10YR2/3黒褐色	シルト	

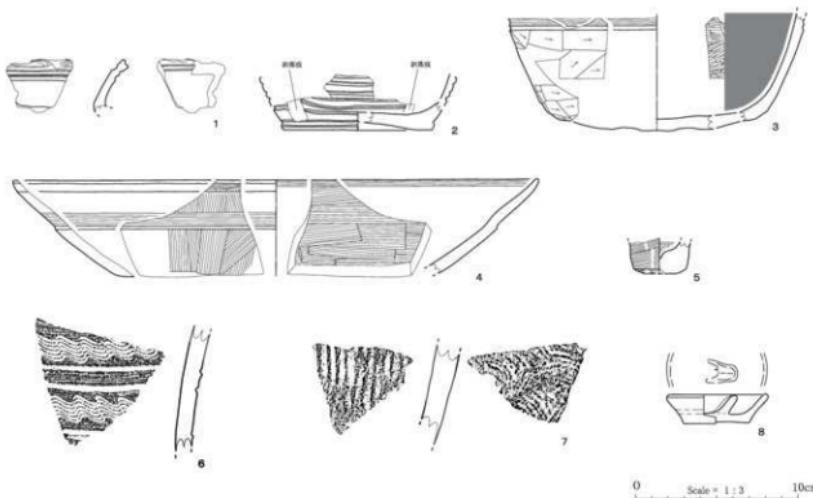
P35A19

層位	色調	土性	混入物・備考
1	10YR2/3黒褐色	シルト	炭化物微量

P35A26

層位	色調	土性	混入物・備考
1	10YR2/1黒褐色	粘土質シルト	灰黄色シルトブロック少量

第74図 II層上面ピット平面図・断面図



No	登録番号	遺構名・基本層	層位	種別	器種・名称	部位	器高 長さ	口径 幅	底径 厚さ	重さ	備考	図版番号
1	A-01	I 層	-	縄文土器	深鉢	口縁部	残存 3.3	-	-	-	波状口縁・口唇(北側(1)) 外面:ヘラミガキ(1)→沈殿(1) 内面:ヘラミガキ(1)→沈殿(1)	20-6
2	B-01	I 層	-	縄文土器	鉢	体部 ～底部	残存 3.4	(9.1)	-	-	外面:ヘタツテ(底)→タケヅイ(底)→粘土貼付(8)→平行沈殿(8)→粘土剥落 内面:ヘタツテ(底)→タケヅイ(底)→粘土貼付(8)→平行沈殿(8)→粘土剥落	20-7
3	C-53	I 層	-	波ロクロ 土師器	坪	体部 ～底部	残存 7.2	-	(12.2)	-	外面:ヘタツテ(体～底)→コナギ(体上) 内面:ヘタツテ(体～底)→黒色処理	20-9
4	C-69	I 層	-	波ロクロ 土師器	坪	口縁部 ～体部	残存 5.9	(32.3)	-	-	外面:ヘタツテ(体)→コナギ(口下)→ヨコナゲ(口上) 内面:ヘタツテ(1～体)→ヨコナゲ(口上)	20-8
5	C-63	I 層	-	波ロクロ 土師器	ミニチュア	体部 ～底部	残存 2.2	-	(1.9)	-	外面:ヘタツテ 内面:ヘタツテ 底外:ヘタツテ	20-11
6	E-06	I 層	-	黑色陶	甕	口縁下部	残存 7.7	-	-	-	外面:ヨコナゲ(1)→カキ(口)→2条沈殿(1)→波状支(7条) 内面:ヨコナゲ	20-12
7	E-07	I 層	-	黒色陶	甕	体部	残存 6.1	-	-	-	外面:ヨコナゲ(体)→平行タキ(体) 内面:ヨコナゲ(体)→同心円文(体)	20-13
8	G-01	I 層	-	土師質 土器	束環	口縁部 ～体部	1.8	6.0	4.0	-	底外:回転ヘア凹 舌:粘土貼付	20-10
-	J-03	I 層	-	縄器	小豆	口縁部 ～底部	2.2	(9.6)	(5.0)	-	ロクロ 村窯台 外面:口縁・輪花形に型打ち成形 内面:折れ 枝根 花文(シソヤ板) 肥前窯 17世紀末～18世紀初頭	20-16
-	J-06	I 層	-	縄器	小豆	体部	残存 4.5	-	-	-	ロクロ 作削出し窯台 内面:花文と獣頭学文(人工鳥頭型埴 物) 鹿児島県 19世紀第三四半期	20-14
-	J-08	I 層	-	縄器	橢形利	体部 ～底部	残存 14.0	-	(6.0)	-	ロクロ 外面:松文(人工鳥頭) 漸戸美濃窯 19世紀第四半期	20-20
-	J-09	I 層	-	縄器	小瓶 (端反形)	口縁部 ～底部	3.9	8.2	3.1	-	ロクロ 村窯台 外面:染付(口瓶)の文字 漸戸美濃窯 19世紀中葉	20-17
-	J-10	I 層	-	縄器	器口	口縁部 ～体部	残存 5.0	(9.4)	-	-	ロクロ 外面:白(型紙焼) 細線彫文の中に虎頭文 肥前窯 1770-1790年代	20-18
-	J-11	I 層	-	縄器	中綱(平形)	口縁部 ～底部	5.0	(11.6)	4.2	-	ロクロ 外面:輪花形(唐草文輪花型写) 漸戸美濃窯 19世紀末	20-19
-	J-12	I 層	-	縄器	深皿	口縁部 ～底部	4.0	15.0	9.0	57.7	ロクロ 外面:型回塑型窯台 内面:藤文(1)・花文(1) 底外:呪説不明の唐草文(輪花型写) 肥前窯 18世紀第四半期	20-15
-	K-04	I 層	-	石製品	砥石	-	残存 6.9	(5.5)	(9.5)	-	-	20-21

* J-03, J-06, J-08～J-12, K-04は、写真のみ掲載している。

第75図 その他の出土遺物

単位は cm・g ()の数値は復元値

35A01、SK35A02より古い。第25次調査西区から続く東西方向に走る溝である。底面は起伏しており、一部工具痕が認められる。遺物は、埋土から非ロクロ土師器片が出土している。

(2) SK土坑 II層上面の土坑は、7基検出した。

SK35A01土坑（第71図、第7表） 0F-038b Gridに位置する。II層上面遺構との新旧関係はない。遺物は、埋土から非ロクロ土師器片が出土している。

SK35A02土坑（第71図、第7表） 0E-040b Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SD2522より新しい。

遺物は、埋土から非ロクロ土師器片が出土している。

SK35A03土坑（第71図、第7表） 0H-038c Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SD35A07より古い。遺物は出土していない。

SK35A05土坑（第71図、第7表） 0G-037d Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SD35A09より新しい。遺物は、埋土から非ロクロ土師器片が出土している。

SK35A06土坑（第71図、第7表） 0F-039a Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SD35A03より古く、SD35A04より新しい。遺物は、埋土から非ロクロ土師器片が出土している。

SK35A10土坑（第71図、第7表） 0G-038d Gridに位置する。II層上面遺構との新旧関係はない。遺物は出土していない。

SK35A14土坑（第71図、第7表） 0F-039d Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SD35A02より古い。遺物は、埋土から非ロクロ土師器片が出土している。

(3) **SX性格不明遺構** II層上面の性格不明遺構は、1基検出した。

SX2501性格不明遺構（第72・73図、第9表、写真図版19） 0l-037c 0H-037abcd Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SD35A07、SD35A11より古い。第25次調査東区から続き、北東から南西方向に走る構造の遺構である。南西部で西方向に屈曲し、調査区外へ続く。埋土は、基本層I b層に類似する。底面は、工具痕が顕著に認められる。遺物は、埋土中から石製紡錘車（第73図1）が出土している。他に、非ロクロ土師器片、須恵器、砥石が出土している。第73図1の紡錘車は、節理面から剥離している。

(4) **ピット**（第74図、第10表）

II層上面のピットは計13基検出した。ピットの平面形は不整円形・不整楕円形・不整形で、平面規模は0.26～0.66m、深さは0.08～0.18mと小規模である。埋土は単層のものが多く、土色は黒褐色を中心とし、土性は砂質シルト～シルトを主体とする。P35A01のみ柱痕跡が認められる。ピットは調査区中央の0F-038a Grid付近に集中している。遺物が出土したピットは、P35A02・P35A06・P35A07・P35A19の4基で、埋土から非ロクロ土師器片が出土している。

3. その他の出土遺物（第75図、写真図版20）

基本層及び遺構に伴わない遺物として、縄文土器・弥生土器・非ロクロ土師器・須恵器・陶器・磁器・石製品などがあり、16点を図あるいは写真で示した。第75図1は縄文土器の深鉢の口縁部破片である。低い波状口縁をなし頂部を除いて口唇には沈線がみられる。口唇直下には外面に2条、内面に1条沈線が施されている。時期にはやや幅はあるが、縄文の晚期後葉～末葉に位置づけられる。第75図2は弥生土器の鉢あるいは浅鉢である。口縁部を欠損している。文様帶の上下幅が広く、体部下端まで平行沈線が施されている。沈線幅は比較的広く、外面はミガキ調整がなされている。体下部に2箇所、粘土の貼付が剥落した痕跡が確認される。沈線はこの粘土の貼付後に施されている。時期は弥生前期（青木畑並行期）に位置づけられる。第75図3は、口縁部が直線的に強く立ち上がり、頸部に段を有する非ロクロ土師器壺である。外面はヘラケズリの後、頸部以上にヨコナデを施している。内面は全面ヘラミガキである。第75図4は、非ロクロ土師器の壺で、SI35A08出土の第16図1と同一個体と考えられる破片資料である。第75図5は外面及び底部にヘラナデを、内面にナデを施している非ロクロ土師器のミニチュア土器である。第75図6は、2条の沈線と7条からなる波状線が施された須恵器甕の口縁下部である。第75図7は外面に平行タキメ、内面に同心円文がみられる須恵器甕体部である。第75図8は土師質土器の秉燭である。底部外面は、回転ヘラ切りとみられる。舌は粘土を貼り付けている。

第3節まとめ

1. 検出遺構

第35次調査A区では、総数128基の遺構を検出した。内訳は、III層上面遺構の竪穴住居跡4軒、竪穴遺構2基、区画施設1条、溝跡5条、土坑28基、性格不明遺構28基、ピット25基、小溝状遺構群1群、II層上面遺構では、溝跡13条、土坑7基、性格不明遺構1基、ピット13基である。III層上面で検出された遺構群のうち、最も新し

い時期の遺構群は、第65図に図示した小溝状遺構群35次A群及び、区画施設と考えられる溝跡SD2523であり、先行する調査から、奈良・平安時代初頭に属することが判明している（斎野 2008）。

2. 出土遺物

第35次調査A区から出土した遺物は9683点であり、時期幅は、縄文時代晩期後葉から近世まで及ぶ。しかし、約9割の8826点を土師器が占め、そのほとんどは、これまで報告してきたように、非クロロ土師器であり、Ⅲ層上面遺構の堅穴住居跡などに伴っている。それらの土師器の特徴は以下のとおりである。

器種は壺、高壺、鉢、瓶、甕が認められ、主体を占める壺、甕についてみると、壺は口縁部と体部の境界が有段、あるいは有稜で、底部は丸底で、内面黒色処理されているものが多く、一部、関東系土器と、須恵器模倣形態あるいは関東系土器の模倣形態を含んでいる。

甕は逆鐘形、卵形、長胴形などがあり、口縁部と胴部の境界に段を持たないもの：「無段」と、段を持つもの：「有段」があり、体部の最終調整にはヘラナデとハケメが認められる。これらの特徴から、遺構出土土器は、栗遺跡出土土器（仙台市教育委員会 1982）と共にところが多く、古墳時代後期の住社式から栗園式にかけての時期幅を持つことが考えられる。両型式については氏家和典・志間泰治による型式設定（氏家 1957、志間 1958）のうち、栗遺跡の調査で、I期：住社式～栗園式の移行期、II期：栗園式古段階、III期：栗園式新段階とする3期区分がなされている（仙台市教育委員会 1982）。このうち、I期は、後に南小泉第22次調査II期遺構群とほぼ同時期で、住社式新段階として関東系土器を含む土器組成が示され、その年代を、共伴した湖西産須恵器をもとに6世紀末葉と推定している（仙台市教育委員会 1994）。また、栗園式については、清水遺跡の第IV群土器に相当し、7世紀前半の年代が与えられている（宮城県教育委員会 1981）。

これらのこととともに、第35次調査A区の遺構の重複関係をふまえ、土師器の時期別変遷と主な遺構を示したのが第76図である。

I期は住社式の新段階で、器種は壺、鉢、瓶、甕が確認される。壺は口縁部が外反するもの（1・2・3）と、直立するもの（4・5）がある。1は有段で口縁部は内面側にふくらみをもっており、黒色処理はなされていない。2～4は有稜で、2と4は口縁部外面がヨコナデのちミガキ調整がなされている。4は須恵器壺身模倣形態で、胎土には砂粒を多く含んでいる。5は須恵器壺蓋模倣の関東系土器で、砂粒を含まない細粒の胎土で作られていている。なお、5の時期は、検出した遺構はII～III期に属するが、I期と考えられる。鉢は口縁部と体部の境界が有稜で、直線的に外傾するもの（6）と、無段で外反するもの（7・8）がある。体部の外面最終調整は、ヘラナデである。瓶は無底式が1点確認される（9）。器形は漏斗状を呈する。甕は複数の器形が認められ、逆鐘形を呈するもの（10）、卵形で体部がふくらみをもつもの（11～13）、長胴形で体部があまりふくらまないもの（14～16）がある。また、口縁部と体部の境界は無段が多く、体部の最終調整はヘラナデが多い。

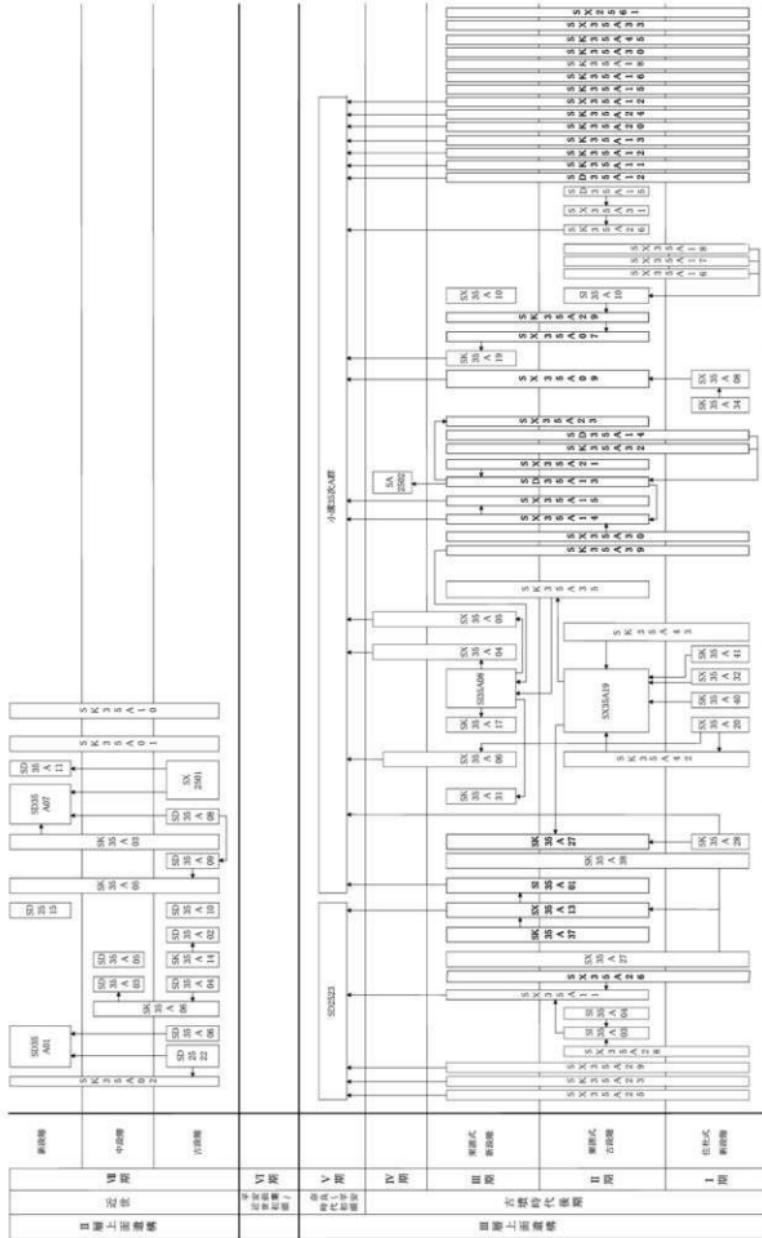
II期は栗園式の古段階で、器種は壺と瓶、ミニチュア土器、甕が確認される。壺は口縁部が外反するもの（17）、直線的に外傾するもの（18～20）、直立するもの（21・22）がある。すべて口縁部外面がヨコナデ調整、内面は黒色処理が施されている。21・22は須恵器壺身あるいは関東系土器模倣形態で、胎土には砂粒を多く含んでいる。瓶は無底式（23・24）と多孔式（25）がある。無底式の器形は口縁の開きがないもの（23）と外反するもの（24）がある。甕は複数の器形が認められ、逆鐘形を呈するもの（27～30）、卵形で体部がふくらむもの（31～34）、長胴形で体部があまりふくらまないもの（35・36）がある。漏斗状を呈する37～39は甕の可能性がある。

III期は栗園式の新段階で、器種は壺と甕が確認される。壺は口縁部が直線的に外傾するもの（40・41）、内湾気味に外傾するもの（42）がある。40～42は口縁部外面がヨコナデ調整、41・42は内面黒色処理がなされている。40は高壺の可能性もある。甕は複数の器形が認められ、逆鐘形を呈するもの（43）、卵形で体部がふくらむもの（44）がある。漏斗状を呈する45は甕の可能性がある。

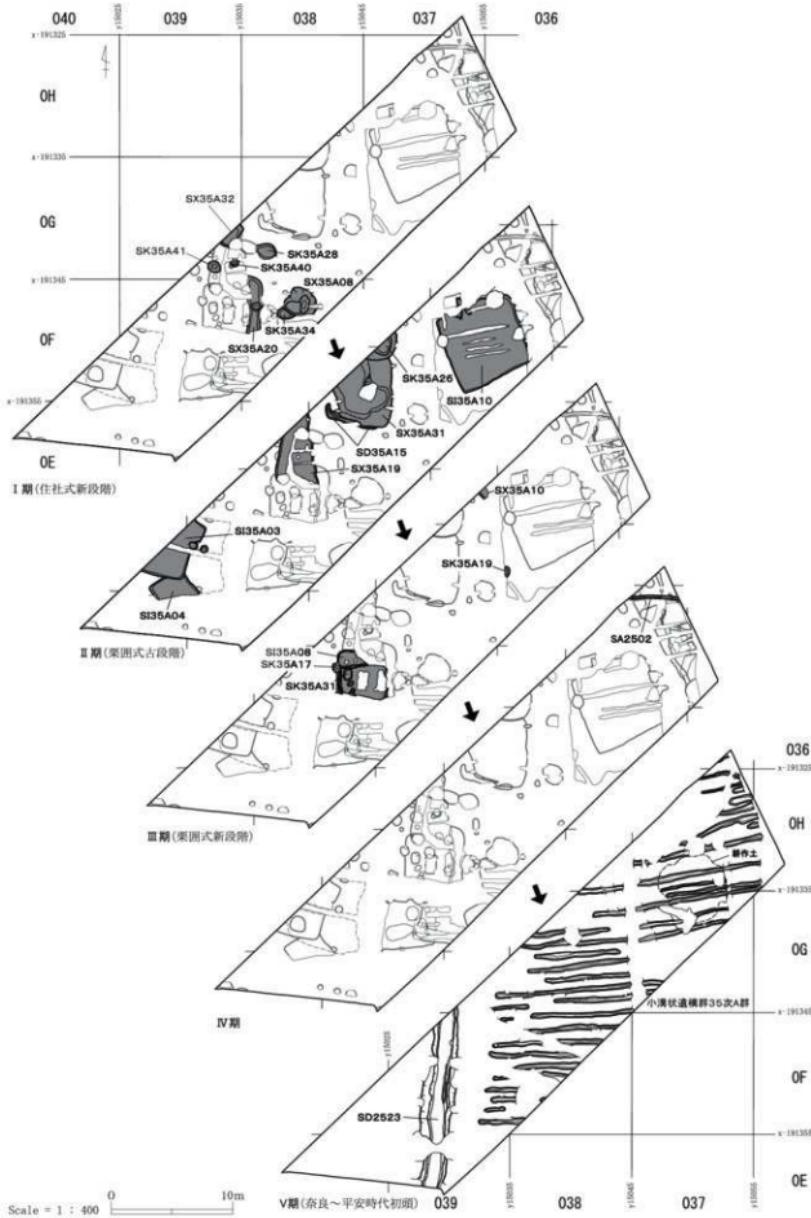
このように第35次調査A区から出土した土器は、I期からIII期までの変遷が確認される。出土数の比較的多い壺と甕についてみると、全体の器形が復元されたものは少ないが、以下のような変化がある。壺はI期では外反口縁が多く、口縁外面にミガキ調整もみられるが、II期になると直線的に外傾する口縁が多くなり、口縁外面はヨコナデ調整、内面は黒色処理されている。III期には直線的に外傾する口縁と内湾気味に外傾する口縁がみ

坏・鉢・他		甕	遺構名
I期 (住居式新段階)	1. 第33図1: SK35A28 壁1	5. 第43図1: SK35A40 壁3	SK35A28
	2. 第43図1: SK35A40 壁3	6. 第43図3: SK35A40 壁4	SK35A34
	3. 第35図5: SK35A20 壁1	7. 第38図3: SK35A40 底面	SK35A40
	4. 第43図2: SK35A40 壁2	8. 第61図1: SK35A32 底面	SK35A40
	9. 第48図1: 他時期の遺構堆土	10. 第61図2: SK35A40 壁3	SK35A20
	11. 第43図4: SK35A40 壁3	12. 第33図2: SK35A28 壁1	SK35A32
	13. 第33図3: SK35A28 壁2	14. 第33図2: SK35A28 壁1	
	15. 第61図3: SK35A32 底面	16. 第61図2: SK35A32 底面	
	17. 第20図1: SK35A18 壁3	18. 第30図1: SK35A38 壁2	
	19. 第30図2: SK35A38 壁2	20. 第20図3: SK35A18 底面	
II期 (采集式古段階)	21. 第60図1: SK35A31 壁3	22. 第30図2: SK35A26 壁1	SD35A03
	23. 第12図2: SD35A03 壁2	24. 第55図2: SX35A19 壁1	SD35A04
	25. 第60図3: SX35A19 壁3	26. 第24図1: SD35A15 壁1	SK35A35
	27. 第24図2: SD35A04 壁2	28. 第60図4: SX35A31 壁4	SD35A10A
	29. 第60図5: SX35A31 壁4	30. 第12図1: SD35A03 壁3	SK35A37
	31. 第12図2: SD35A03 底面	32. 第12図4: SD35A03 壁1	SD35A09
	33. 第60図1: SX35A31 壁4	34. 第20図1: SD35A18 壁3	SD35A14
	35. 第60図4: SX35A18 壁3	36. 第55図1: SX35A19 壁1	SK35A26
	37. 第20図4: SD35A10A 底面	38. 第20図2: SD35A10A 壁1	SK35A21
	39. 第20図3: SD35A10A 壁2	40. 第16図1: SD35A19 壁1	SK35A31
III期 (采集式新段階)	41. 第16図2: SK35A19 壁2	42. 第16図3: SK35A19 壁1	
	43. 第29図1: SK35A19 壁2	44. 第18図5: SD35A08 壁1	SD35A08
	45. 第16図4: SD35A08 壁1		SK35A19
			SK35A10

第76図 古墳時代後期の土師器変遷図



第77図 沼向遺跡第35次調査A区出土遺構新旧關係模式図
(左) ← (右) 遺構の新旧関係



第78図 沼向遺跡第35次A区遺構変遷図

られる。壇は器形の種類に変化はないが、I期では口縁部と体部の境界は無段が多く、体部の最終調整はヘラナデであるが、II・III期では有段で体部の最終調整はハケメ調整を主体とする。こうしたI期からII期の変化は、從来指摘されてきた住社式新段階と栗団式の相違として認識され、I～III期は、年代的に6世紀末葉から7世紀前半に位置づけられる。

3. 遺構群の変遷

第35次調査A区で検出されたIII層上面遺構は、調査区内の出土遺物や遺構の重複関係から、その大半は前述のI期～III期に属すると考えられる。また、III層上面遺構では最も新しい時期に位置づけられる小溝状遺構群35次A群とSD2523は、すでに一部報告されている（斎野2008）奈良時代～平安時代初頭の畠域の広がりと、その区画溝の延長部分である。そして、それに後続するII層上面遺構の時期は、出土遺物から近世と考えられ、3時期に分けられる。これらのことから、第35次調査A区の遺構群は、以下のように時期区分される。

- I期 古墳時代後期：住社式新段階（6世紀末葉）
- II期 古墳時代後期：栗団式古段階（7世紀前半）
- III期 古墳時代後期：栗団式新段階（7世紀前半）
- IV期 古墳時代後期：（7世紀中葉～8世紀初頭）
- V期 奈良時代～平安時代初頭
- VI期 平安時代前葉～中世
- VII期 近世

遺構群の変遷は第77図に示したように、I期～V期がIII層上面遺構、VII期がII層上面遺構の時期であり、その間には遺構、遺物の検出されないVI期がある。

I期：調査区中央で土坑4基、性格不明遺構3基が検出されている。この時期には竪穴住居跡の検出はないが、居住域が形成されたと推定される。

II期：調査区全域から遺構が検出されている。竪穴住居跡2軒、竪穴遺構1基、溝跡1条、土坑1基、性格不明遺構2基などである。この時期には居住域の遺構数が増加している。

III期：調査区西部を中心として、竪穴住居跡1軒、土坑3基、性格不明遺構1基などが検出されている。この時期には居住域の遺構数が減少している。なおI期～III期までの時期幅を持つ遺構は数多くあり、そのなかでII期あるいはIII期の遺構として土坑3基、性格不明遺構3基なども検出されているが、詳しい時期は不明である。

IV期：調査区北端部で検出されたSA2502区画施設が相当する。検出長は短いが、隣接する第25次調査東区からの推定延長部分が検出されたことになる。この時期には今回の調査区はSA2502で区画された生産域として土地利用がなされており、先行する周辺の調査では居住に関わる遺構は検出されていない。

V期：調査区西端部で畠域の区画溝が検出されており、その東側に小溝状遺構群が広がっている。区画の大きさは東西約140m、南北約90mであり、畠跡に伴う遺構から、モモ、アンズ、スマモの種が出土しており、果樹の生育が確認されている（斎野2008）。

VI期：遺構の検出はない。

VII期：溝跡が多数検出されており、屋敷の区画溝と考えられる。

4.まとめ

第35次調査A区は、遺跡の西部に位置する。調査面積は460.3 m²である。遺物は縄文晩期、弥生前期に少数認められるが、遺構は古墳時代後期以降に認められ、出土遺物と遺構の重複関係からI期～VII期に時期区分される。土地利用としては、I～III期：居住域、IV・V期：生産域、VI期：（空白期）、VII期：居住域という変遷を示すことが知られた。

第2表 第35次調査A区遺物出土数量表(1)

遺物名 ・品木番	部位	調文	性生	土器部		陶器部	土玉	瓦	石器	石製品	磁石	漆	企銅製品	机	木製品	本材	その他	計	備考
				四口P71	四口P72														
S03SA01	埴土	0	0	71	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	71
S03SA02	埴土	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
S03SA03	埴土	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
S03SA04	埴土	0	0	140	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	9	131
S03SA05	床面	0	0	64	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	67
S03SA06	床面	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	17
S03SA07	埴土	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
S03SA08	埴土	0	0	157	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	3	165
S03SA09	床面	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
S03SA10	埴土	0	0	189	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	24	215
S03SA11	カケド	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
S03SA12	床面	0	0	49	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	17	68
S03SA13	埴土	0	0	124	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	68	194
S03SA14	床面	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
S03SA15	床面	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
S03SA16	埴土	0	0	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	34
S03SA17	埴土	0	0	423	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	423
S03SA18	計		545																
S03SA19	埴土	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
S03SA20	埴土	0	0	29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	29
S03SA21	埴土	0	0	62	0	0	19	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	62
S03SA22	瓦	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
S03SA23	埴土	0	0	155	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	156
S03SA24	埴土	0	0	60	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60
S03SA25	埴土	0	0	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	32
S03SA26	埴土	0	0	92	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	92
S03SA27	埴土	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
S03SA28	埴土	0	0	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28
S03SA29	埴土	0	0	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21
S03SA30	埴土	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	17
S03SA31	埴土	0	0	63	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	63
S03SA32	埴土	0	0	218	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	219
S03SA33	埴土	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
S03SA34	埴土	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
S03SA35	埴土	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15
S03SA36	埴土	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
S03SA37	埴土	0	0	37	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	37
S03SA38	埴土	0	0	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21
S03SA39	埴土	0	0	75	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	75
S03SA40	埴土	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17
S03SA41	埴土	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
S03SA42	埴土	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	8
S03SA43	埴土	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
S03SA44	埴土	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
S03SA45	埴土	0	0	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19
S03SA46	埴土	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
S03SA47	埴土	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
S03SA48	埴土	0	0	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	30
S03SA49	埴土	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
S03SA50	埴土	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
S03SA51	埴土	0	0	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25
S03SA52	埴土	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
S03SA53	埴土	0	0	36	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	36
S03SA54	埴土	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16
S03SA55	埴土	0	0	189	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	189
S03SA56	埴土	0	0	95	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	95
S03SA57	埴土	0	0	108	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	108
S03SA58	埴土	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
S03SA59	埴土	0	0	348	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	348
S03SA60	埴土	0	0	124	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	7	133
S03SA61	瓦	0	0	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	40
S03SA62	埴土	0	0	66	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	67
S03SA63	埴土	0	0	98	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	123
S03SA64	埴土	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
S03SA65	埴土	0	0	245	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	5	254
S03SA66	埴土	0	0	117	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	117
S03SA67	埴土	0	0	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	19
S03SA68	埴土	0	0	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21
S03SA69	埴土	0	0	79	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	79
S03SA70	埴土	0	0	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	23
S03SA71	埴土	0	0	107	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	107
S03SA72	埴土	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
S03SA73	埴土	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
S03SA74	埴土	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
S03SA75	埴土	0	0	115	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	116
S03SA76	埴土	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
S03SA77	埴土	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
S03SA78	埴土	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2

第3表 第35次調査A区遺物出土数量表(2)

遺構名・系木種	遺作	構文	生年	土器類		陶器類		土瓦		土製品		石器類		礫石		漆		金属製品		核		木製品		木材		その他		計	備考
				耳付口縁	耳付口縁	土瓦	瓦	土瓦	瓦	土製品	石器類	礫石	漆	金属製品	核	木製品	木材	その他	計										
P35A19	固土	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	16		
P35A27	固土	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2		
P35A36	固土	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3			
P35A39	固土	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1			
P35A42	固土	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4			
P35A43	固土	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2			
P35A47	固土	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1			
小構35A群	耕土	0	0	85	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	86			
上層	-	0	0	3241	0	2	104	0	0	0	0	8	4	3	0	0	0	1	12	3381									
合計		0	0	8626	0	17	128	0	4	0	0	9	10	40	2	0	4	12	627	9663									

第4表 第35次調査A区SI堅穴住居跡・堅穴遺構観察表

遺構番号	Grid	長辺(n)×短辺(n)×深さ(n)			カマド		時期
		長辺(n)	短辺(n)	深さ(n)	有り	無	
S35A01	0F-039e 0F-038d	6.29	以上×3.19	以上×0.13m		あり	Ⅱ～Ⅲ期
S35A02	矢番						
S35A03	0F-040bc 0F-039ad	5.50	×3.31	以上×0.08m		あり	Ⅱ期
S35A04	0F-040e 0F-039h 0E-040b 0E-039m	3.16	×2.87	以上×0.16m		なし	Ⅱ期
S35A05	矢番						
S35A06	矢番						
S35A07	矢番						
S35A08	0F-039b 0F-038a	4.29	×3.89	0.18m		なし	Ⅲ期
S35A09	矢番						
S35A10A	0H-037cd 0G-037ab	6.72	×6.72	0.09m		あり	Ⅲ期
S35A10B	0H-037cd 0G-037ab	6.06	×5.80	0.20m		なし	Ⅲ期
S2516	0E-040n	1.02	以上×0.14	以上×0.28m		なし	平安時代初期以前

第5表 第35次調査A区SA区面施設観察表

遺構番号	Grid	走行方向	全長(n)×上幅幅(n)×深さ(n)			平面形	時期
			全長(n)	上幅幅(n)	深さ(n)		
SA2502	0H-037b 0g-037ab	N-89°-E	3.96	以上×0.34	0.23m	直線	IV期

第6表 第35次調査A区SD溝跡観察表

遺構番号	Grid	走行方向	全长(n)×上幅幅(n)×深さ(n)			平面形-断面形	時期
			全长(n)	上幅幅(n)	深さ(n)		
S35A01	0F-039cd 0F-038a 0E-040ab 0E-039ub 0E-037- E	16.40	以上×2.0	6.0×0.4m		直線-開いた「U」字状	Ⅳ期新段
S35A02	0F-040c 0F-039cd 0F-038d	N-77°-E	12.70	以上×0.80	1.3m	直線-開いた「U」字状	Ⅳ期古段
S35A03	0G-039bc 0F-039abcd 0E-039ad	N-80°-E	13.10	以上×1.35	0.8m	直線-分岐-開いた「U」字状	Ⅳ期新段
S35A04	0F-039abe 0F-038ad	N-80°-E	13.60	以上×1.50	0.8m	直線-開いた「U」字状	Ⅳ期古段
S35A05	0G-039c 0F-039a 0E-038ab	S-71°-E	12.50	以上×1.0	0.5m	直線-開いた「U」字状	Ⅳ期新段
S35A06	0F-039e 0F-039a 0E-038ab 0E-039ab	N-76°-E	3.57	以上×0.70	1.8m	直線-開いた「U」字状	Ⅳ期古段
S35A07	0F-039c 0F-039d 0E-040b 0E-039m	N-6°-E	12.90	以上×1.50	0.6m	直線-開いた「U」字状	Ⅳ期新段
S35A08	0H-037d 0E-039d 0E-039ad	N-17°-E	10.10	以上×1.35	0.6m	直線-開いた「U」字状	Ⅳ期古段
S35A09	0H-038bc 0E-038a 0E-037ad	N-15°-E	11.30	以上×1.0	0.6m	直線-開いた「U」字状	Ⅳ期古段
S35A10	0H-037bc 0H-036d 0G-037ab 0G-036ca	N-18°-E	9.10	以上×2.0	6.0×1.1m	屈曲-開いた「U」字状	Ⅳ期新段
S35A11	0H-037ad	N-1°-E	4.00	以上×0.58	1.9m	直線-開いた「U」字状	Ⅳ期新段
S35A12	0I-037c 0H-037b	N-11°-E	1.70	以上×0.37	0.6m	直線-開いた「U」字状	I～Ⅲ期
S35A13	0H-037bc 0H-036d	N-30°-E	6.70	以上×1.13	2.2m	直線-開いた「U」字状	Ⅳ期
S35A14	0H-037c 0H-036ad	N-12°-E	2.80	以上×0.6	0.72×0.32m	直線-開いた「U」字状	I～Ⅲ期
S35A15	0H-038ad	N-74°-E	4.90	以上×0.65	0.17m	直線-開いた「U」字状	Ⅳ期
S2515	0H-036ad	N-10°-E	2.24	以上×1.03	0.51m	直線-開いた「U」字状	Ⅳ期新段
S2522	0E-040ab 0E-039ub	N-79°-E	10.50	以上×0.65	0.88×0.6m	直線-分岐-開いた「U」字状	Ⅳ期古段
S2523	0G-039c 0F-039abc 0E-039a	N-5°-E	14.35	以上×2.70	0.5m	直線-開いた「U」字状	V期

第7表 第35次調査A区SK土坑観察表(1)

遺構番号	Grid	長軸方向	長軸(n)×短軸(n)×深さ(n)			平面形	底面	時期
			長軸(n)	短軸(n)	深さ(n)			
SK35A01	0F-038b	N-78°-E	1.16	×0.92	0.13m	不整圓方形-開いた「U」字状	心や起伏	Ⅳ期
SK35A02	0E-040b	N-86°-E	0.98	×0.59	0.26m	不整圓円形-埋り鉢状	平坦	Ⅳ期
SK35A03	0H-038c	N-4°-E	0.78	×0.61	0.15m	不整円形-開いた「U」字状	平坦	Ⅳ期
SK35A04	矢番							
SK35A05	0G-037d	N-36°-E	0.84	×0.60	0.06m	不整良方形-開いた「U」字状	心や起伏	Ⅳ期
SK35A06	0F-039a	N-75°-E	0.95	以上×0.62	以上×0.28以上	不整円形-開いた「U」字状	平坦	Ⅳ期古～中段階
SK35A07	矢番							
SK35A08	矢番							
SK35A09	矢番							
SK35A10	0G-038d	N-46°-E	0.50	×0.44	0.09m	不整圓-浅い埋り鉢状	起伏	Ⅳ期
SK35A11	0G-038b	N-67°-E	0.50	×0.32	0.23m	不整圓内形-埋り鉢状	起伏顕著	I～Ⅲ期
SK35A12	0G-038bc	N-27°-E	1.64	以上×1.50	0.62m	不整圓内形-開いた「U」字状	平坦	I～Ⅲ期
SK35A13	0H-038c	N-90°-E	0.55	以上×0.60	0.13m	不整圓-開いた「U」字状	起伏	Ⅳ期
SK35A14	0F-039d	N-51°-E	0.77	×0.72	0.20以上	不整圓内形-開いた「U」字状	心や起伏	Ⅳ期古段階
SK35A15	0F-039a	N-64°-E	0.63	以上×0.56	0.08m	不明-不明	心や起伏	I～Ⅲ期
SK35A16	0F-039b	N-45°-E	0.88	×0.38	0.26m	不明-開いた「U」字状	平坦	I～Ⅲ期

第8表 第35次調査A区SK土坑観察表(2)

遺構番号	Grid	長軸方向	長軸(m)×短軸(m)×深さ(m)	平面形・断面形	底面	時期
SK35A17 0F-0396	N-38°-E	0.77×0.67×0.17m	不整円形・丸い・振り斜状	やや起伏	Ⅲ期	
SK35A18 0G-0396	N-10°-E	0.87×0.80×0.28m	不整円形・丸い「U」字状	ほぼ平組	I～Ⅲ期	
SK35A19 0G-0373	N-4°-E	0.30以上×0.30以上×0.21m	不整圓形・開いた「U」字状	平坦	Ⅲ期	
SK35A20 0G-0396	N-11°-E	1.31以上×1.91以上×0.27m	不整円形・開いた「U」字状	平組	I～Ⅲ期	
SK35A21 欠番						
SK35A22 欠番						
SK35A23 0E-039a	N-77°-E	0.84以上×0.51以上×0.40m	不整圓形・振り斜状	平組	I～Ⅲ期	
SK35A24 0F-038d	N-44°-E	2.33以上×0.93以上×0.32m	不明・開いた「U」字状	ほぼ平組	I～Ⅲ期	
SK35A25 欠番						
SK35A26 0H-038e 0G-038ab	N-49°-E	1.57×0.62以上×0.26m	不明・浅い振り斜状	やや起伏	Ⅲ期	
SK35A27 0G-039c 0G-038d	N-28°-E	1.31以上×1.00×0.17m	不整圓形・開いた「U」字状	平組	II～Ⅲ期	
SK35A28 0G-038d	N-64°-E	1.70以上×1.45以上×0.20m	不整圓形・開いた「U」字状	平組	I期	
SK35A29 0H-037d 0G-037a	N-20°-E	1.12以上×0.82×0.92m	不整圓形・開いた「U」字状	平組	II～Ⅲ期	
SK35A30 0G-037b	N-88°-E	0.80以上×0.68以上×0.27m	不明・開いた「U」字状	平組	I～Ⅲ期	
SK35A31 0F-0396	N-0°-E	0.90以上×0.67×0.05m	丸く方形・丸い・振り斜状	ほぼ平組	Ⅲ期	
SK35A32 0H-037bc	N-21°-E	1.00×0.69×0.15m	不明・開いた「U」字状	平組	I～Ⅲ期	
SK35A33 欠番						
SK35A34 0F-038a	N-82°-E	1.37×0.93以上×0.20m	不整圓形・開いた「U」字状	平組	I期	
SK35A35 0F-0396	N-79°-E	1.10×0.80×0.33m	不整圓形・開いた「U」字状	ほぼ平組	II～Ⅲ期	
SK35A36 欠番						
SK35A37 0F-039c	N-8°-E	1.55以上×1.02×0.33m	不整圓形・開いた「U」字状	平組	II～Ⅲ期	
SK35A38 0F-039c	N-17°-E	0.91×1.50以上×0.12m	円形・開いた「U」字状	ほぼ平組	I～Ⅲ期	
SK35A39 0F-039b	N-22°-E	0.90以上×0.80×0.25m	不整圓形・開いた「U」字状	平組	I～Ⅲ期	
SK35A40 0G-039c	N-8°-E	0.65以上×0.65×0.24m	不明・振り斜状	平組	I期	
SK35A41 0G-039c	N-56°-E	1.10×0.80×0.13m	不整圓形・開いた「U」字状	平組	I期	
SK35A42 0F-0396 0F-038a	N-6°-E	0.82以上×0.75以上×0.28m	不整圓形・開いた「U」字状	平組	I～Ⅱ期	
SK35A43 0F-0396	N-53°-E	0.67×0.84以上×0.23m	不整圓形・開いた「U」字状	平組	I～Ⅱ期	
SK35A44 欠番						
SK35A45 0H-037ab	N-32°-E	0.75以上×0.65×0.18m	不整圓形・開いた「U」字状	平組	I～Ⅲ期	

第9表 第35次調査A区SX性格不明遺構観察表

遺構番号	Grid	長軸方向	長軸(m)×短軸(m)×深さ(m)	平面形・断面形	底面	時期
SK35A01 欠番						
SK35A02 欠番						
SK35A03 欠番						
SK35A04 0F-0396	N-0°-E	1.60×1.10×0.16m	不整形・開いた「U」字状	ほぼ平組	Ⅲ～Ⅳ期	
SK35A05 0F-038a	N-0°-E	1.91×1.30×20m	不整形・開いた「U」字状	ほぼ平組	Ⅲ～Ⅳ期	
SK35A06 0F-038a	N-0°-E	1.50×1.20×0.23m	長方形・開いた「U」字状	平組	Ⅲ～Ⅳ期	
SK35A07 0H-037cd 0G-037abd	N-4°-E	0.81以上×1.71以上×0.10m	方形・不明	平組	II～Ⅲ期	
SK35A08 0F-038ab	N-70°-E	2.60×1.30×0.50m	不整圓形・開いた「U」字状	ほぼ平組	I期	
SK35A09 0F-038abd	N-22°-E	3.32以上×1.30以上×0.18m	不整形・開いた「U」字状	起伏	II～Ⅲ期	
SK35A10 0G-038c	N-46°-E	0.75以上×0.70以上×0.19m	不明・開いた「U」字状	平組	Ⅲ期	
SK35A11 0F-0408c 0F-039ad	N-68°-E	2.30以上×1.30以上×0.14m	不整方形・不明	ほぼ平組	Ⅲ期	
SK35A12 0G-038d 0G-038e	N-7°-E	1.30×0.87×0.10m	不整長方形・開いた「U」字状	平組	I～Ⅲ期	
SK35A13 0F-038bed	N-88°-E	2.40以上×4.06以上×0.16m	不整方形・開いた「U」字状	ほぼ平組	I～Ⅲ期	
SK35A14 0H-037b 0H-036b	N-35°-E	3.45以上×2.07以上×0.23m	不整形・開いた「U」字状	平組	III期	
SK35A15 0H-037abcd	N-7°-E	0.74以上×1.96以上×0.15m	廣く形・開いた「U」字状	平組	Ⅲ期	
SK35A16 0H-037c	N-75°-E	1.06以上×1.10以上×0.18m	不整形・開いた「U」字状	平組	I～Ⅱ期	
SK35A17 0H-037c	N-74°-E	0.85以上×0.77×0.07m	不整形・開いた「U」字状	やや起伏	I～Ⅱ期	
SK35A18 0H-037d	N-75°-E	1.37以上×0.92×0.23m	不整方形・開いた「U」字状	平組	I～Ⅲ期	
SK35A19 0G-039b 0G-038d	N-9°-E	5.34以上×3.34×0.10m	不整形・開いた「U」字状	平組	Ⅲ期	
SK35A20 0G-038d 0G-038a	N-2°-E	4.40以上×1.26以上×0.15m	廣く形・開いた「U」字状	平組	I期	
SK35A21 0H-037c 0H-036c	N-0°-E	2.20以上×1.10以上×0.22m	不明・開いた「U」字状	平組	II～Ⅲ期	
SK35A22 欠番						
SK35A23 0H-037b	N-69°-E	1.60以上×1.24×0.16m	不整形・開いた「U」字状	平組	II～Ⅲ期	
SK35A24 欠番						
SK35A25 0F-039a	N-36°-E	0.72×0.70×0.24m	不整円形・開いた「U」字状	ほぼ平組	Ⅲ期	
SK35A26 0F-039c	N-80°-E	0.70以上×0.26以上×0.15m	不明・不明	ほぼ平組	Ⅲ期	
SK35A27 0F-039c	N-80°-E	2.33以上×1.10×0.32m	不整長方形・開いた「U」字状	平組	I～Ⅲ期	
SK35A28 0F-040c	N-40°-E	1.36×0.28×0.09m	不整円形・開いた「U」字状	平組	I～Ⅲ期	
SK35A29 0F-039d	N-64°-E	0.80以上×0.40以上×0.32m	不明・不明	やや起伏	I～Ⅲ期	
SK35A30 0H-037b	N-68°-E	0.55以上×0.50以上×0.17m	不明・開いた「U」字状	やや起伏	I～Ⅲ期	
SK35A31 0G-038bed	N-7°-E	5.60以上×1.24×0.33m	不整形・開いた「U」字状	ほぼ平組	Ⅲ期	
SK35A32 0G-039c 0H-038d	N-46°-E	2.26×0.75以上×0.26m	不明・開いた「U」字状	平組	I期	
SK35A33 0E-040a	N-2°-E	0.55以上×0.96×0.07m	不明・開いた「U」字状	平組	I～Ⅲ期	
SK3501 0I-037c 0H-037abcd	N-48°-E	1.10×0.21×0.15m	廣く形・開いた「U」字状	やや起伏	Ⅲ期古段階	
SK3561 0E-039a	N-69°-E	0.42×0.22×0.15m	不明・不明	平組	I～Ⅲ期	

第10表 第35次調査A区ピット観察表

遺構番号	Grid	長軸方向	長軸(a)×短軸(a)×深さ(a)	平面形・断面形	柱底	時期
P35A01	0F-038c	N-0°-	0.66X0.15以上X0.18m	不整形・開いた「U」字状	有	V期
P35A02	0F-038a	N-70°-W	0.58X0.38X0.14m	不整形円形・開いた「U」字状	無	V期古段階
P35A03	0F-038a	N-45°-W	0.35X0.29X0.09m	不整形円形・掘り跡状	無	V期
P35A04	0F-038a	N-44°-W	0.47X0.35X0.08m	不整圓形・開いた「U」字状	無	V期
P35A05	0F-038a	N-43°-E	0.43X0.32X0.06m	不整形円形・開いた「U」字状	無	V期
P35A06	0F-038a	N-28°-E	0.60X0.43X0.11m	不整形円形・開いた「U」字状	無	V期古～中段階
P35A07	0F-039c 0F-038a	N-52°-W	0.40X0.27X0.18m	不整形円形・「U」字状	無	V期
P35A08	0F-039a	N-56°-W	0.35X0.32X0.18m	不整圓形・掘り跡状	無	V期
P35A09	0F-039a	N-27°-W	0.42X0.32X0.10m	不整形・掘り跡状	無	V期
P35A10	欠番					
P35A11	0G-038c	N-0°-	0.26X0.22X0.10m	不整圓形・開いた「U」字状	無	V期
P35A12	欠番					
P35A13	欠番					
P35A14	欠番					
P35A15	欠番					
P35A16	欠番					
P35A17	欠番					
P35A18	0F-039b	N-51°-E	0.30X0.28X0.20m	不整圓形・「U」字状	無	V期
P35A19	0F-039b	N-47°-E	0.40X0.36X0.17m	不整圓形・掘り跡状	無	V期
P35A20	0G-039c	N-30°-W	0.34X0.28X0.22m	不整圓形・「U」字状	無	I～Ⅲ期
P35A21	0G-039c	N-70°-E	0.35X0.29X0.11m	不整圓形・開いた「U」字状	無	I～Ⅲ期
P35A22	0G-039c 0F-039b	N-5°-E	0.30X0.28X0.16m	不整圓形・開いた「U」字状	無	I～Ⅲ期
P35A23	欠番					
P35A24	0F-038a	N-77°-E	0.36X0.27以上X0.10m	不整圓形・開いた「U」字状	無	I～Ⅲ期
P35A25	欠番					
P35A26	0G-039c OG-038d	N-9°-W	0.43X0.26X0.07m	椭円形・開いた「U」字状	無	V期
P35A27	0F-038a	N-78°-E	0.57X0.31以上X0.15m	不整形・浅い掘り跡状	無	I～Ⅲ期
P35A28	0F-038a	N-43°-E	0.52以上X0.33以上X0.16m	不整圓形・掘り跡状	無	I～Ⅲ期
P35A29	欠番					
P35A30	0F-038c	N-11°-W	0.36X0.27以上X0.16m	不整・開いた「U」字状	無	I～Ⅲ期
P35A31	0F-038b	N-43°-E	0.62X0.23X0.09m	不整圓形・開いた「U」字状	無	I～Ⅲ期
P35A32	0F-039b	N-35°-E	0.32X0.28X0.07m	椭円形・開いた「U」字状	無	Ⅲ期
P35A33	0F-037b	N-18°-E	0.23以上X0.21以上X0.06m	不整圓形・開いた「U」字状	無	I～Ⅲ期
P35A34	0F-037b	N-62°-E	0.25以上X0.20以上X0.23	不整圓形・不明	無	I～Ⅲ期
P35A35	0F-039c	N-58°-W	0.42以上X0.31以上X0.10m	不整圓形・開いた「U」字状	無	I～Ⅲ期
P35A36	0I-037c OG-037b	N-42°-E	0.74X0.60以上X0.16m	不整形・開いた「U」字状	無	I～Ⅲ期
P35A37	0F-037b	N-43°-E	0.20以上X0.16以上X0.16m	不整形・掘り跡状	無	I～Ⅲ期
P35A38	0F-037b	N-4°-E	0.25以上X0.26以上X0.17m	不整圓形・「U」字状	無	I～Ⅲ期
P35A39	0F-039c	N-3°-E	0.29X0.27X0.12m	円形・開いた「U」字状	無	I～Ⅲ期
P35A40	0F-039c	N-54°-W	0.39X0.35X0.16m	不整圓形・開いた「U」字状	無	I～Ⅲ期
P35A41	0F-0394 OG-038a	N-41°-E	0.89X0.46X0.17m	不整形・開いた「U」字状	無	I～Ⅲ期
P35A42	0F-039a	N-79°-W	0.53X0.46以上X0.22m	不整圓形・開いた「U」字状	無	I～Ⅲ期
P35A43	0F-040b OG-039a	N-3°-W	0.43以上X0.41以上X0.22m	不整圓形・開いた「U」字状	無	I～Ⅲ期
P35A44	0F-037b	N-10°-E	0.45X0.29以上X0.13m	不明・浅い掘り跡状	無	I～Ⅲ期
P35A45	0F-038b	N-4°-W	0.45X0.42以上X0.09m	不整圓形・開いた「U」字状	無	I～Ⅲ期
P35A46	0F-038a	N-32°-W	0.24X0.21X0.18m	円形・「U」字状	無	I～Ⅲ期
P35A47	0F-038a	N-45°-W	0.59X0.46以上X0.48m	不整圓形・開いた「U」字状	無	I～Ⅲ期
P35A48	0F-037b	N-51°-E	0.18X0.11以上X0.29m	不整圓形・開いた「U」字状	無	I～Ⅲ期

第11表 第35次調査A区溝状遺構群観察表

遺構番号	Grid	東西(a)×南北(a)	廣	面積	底面	時期
35A1群	0I-037c OG-038c OG-037bnd OG-036ad OG-039c OG-038abcd OG-037abd OG-039bc OG-038abd	23.00X31.50	30条	294.6m ² 以上	ほぼ平坦	V期

第3章 第35次調査B区

第1節 調査概要

1. 調査の経過

B区は遺跡範囲の西部に位置し、北側と東側は第18次西調査区に隣接する。調査期間は7月30日～9月12日で、実働14日間である。調査面積は83.0 m²である。

確認した遺構は、Ⅲ層上面遺構の区画施設1条、土坑4基、性格不明遺構7基、ピット4基と、Ⅱ層上面遺構の溝跡3条、ピット2基の計21基である。

出土した遺物は、非クロコ土師器、クロコ土師器、須恵器、陶磁器、砥石、礫などで、計469点である。

調査区西側は、現代の水田跡に削平されており、遺構は確認されなかった。現地表面でも水田跡との段差が確認できる。遺構確認面の標高は調査区東側で1.2m、現代の水田に削平された調査区西側で0.8～0.9mである。

2. 基本層序

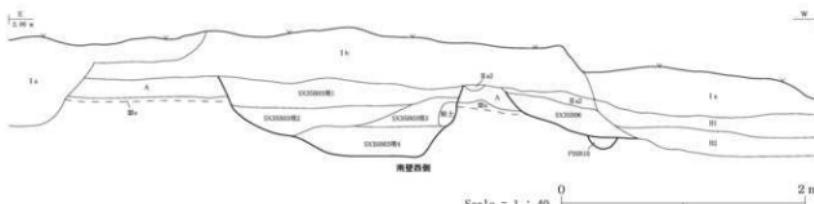
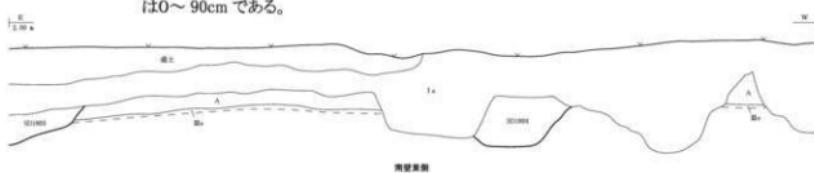
沿向遺跡第1～3次調査に準じた基本層、I a層、I b層、II a層、III e層を確認した。また、浜堤列基本層に対応しないものをA層、B₁層、B₂層とした。遺構はII層上面遺構、III層上面遺構ともA層上面で検出している。

I層 I a層・I b層の2層を確認した。

I a層 黒褐色砂質シルトからなる。炭化物、焼土粒を含む。現代の畑耕作土及び整地土である。本調査区のII層上面遺構はI a層下面より掘り込まれている。層厚は0～90cmである。



第79図 沿向遺跡第35次調査B区南壁土層断面位置図・等高線図
は0～90cmである。



第80図 沿向遺跡第35次調査B区南壁土層断面

I b層 暗褐色粘土質シルトからなる。I a層以前の畑耕作土及び整地土である。層厚は0~42cmである。

- II層 II a₁層を確認した。自然堆積層である。
II a₂層 いわゆる灰白色火山灰層である。層相変化で、にぶい黄橙色または褐灰色を呈す。層厚は0~9cmである。
A層 黒褐色砂質シルトからなる。灰黄褐色シルト質砂を少量含む。調査区南東のIIIe層上面で確認された層で、III層上面遺構はA層上面から掘り込まれる。層厚は0~16cmである。
B₁層 黒色粘土質シルトからなる。黒褐色砂を少量含む。調査区西側の現代の水田耕作土である。層厚は0~20cmである。
B₂層 黒色砂質シルトからなる。黒色粘土質シルトを少量含む。調査区西側の現代の水田耕作土である。層厚は0~18cmである。

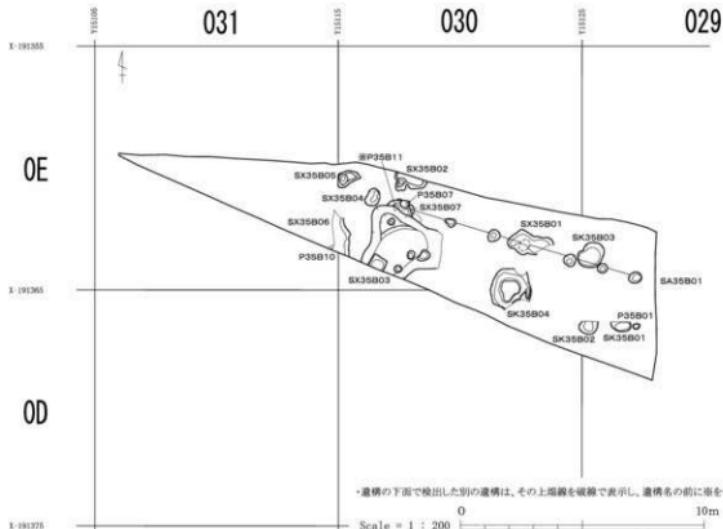
第2節 検出遺構と出土遺物

1. III層上面遺構

III層上面の遺構は区画施設1条、土坑4基、性格不明遺構7基、ピット4基の、合計16基を検出した。第81図は、III層上面で検出した遺構全てを掲載した全体図である。

(1) SA区画施設 III層上面の区画施設を、1条検出した。

SA35BO1区画施設（第82図、第13表、写真図版12） 0E-030cd・0E-029d Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SX35BO1、SX35BO7、P35BO7より古く、P35B11より新しい。東西方向に一列に並ぶ、ピット8基からなる遺構である。総長は10.17mである。主軸方位はN-73°-Wである。ピットの平面形は、円形ないし不整円形である。ピットの断面形は「コ」字状または「U」字状である。隣り合うピットの間隔は、0.47~2.01mでそろっていない。ピットの直径は0.41~0.55mで、P1のみ0.28mとやや小さい。遺構確認面からの深さは、



第81図 沼向遺跡第35次調査B区 III層上面遺構全体図

0.22～0.35mである。遺物は、非クロコ土師器片が出土している。

(2) SK土坑 III層上面の土坑は、4基検出した。

SK35B01土坑（第83図、第15表）OD-029a Gridに位置する。III層上面遺構との新旧関係はない。遺物は出土していない。

SK35B02土坑（第83図、第15表）OD-030b OD-029a Gridに位置する。III層上面遺構との新旧関係はない。遺物は出土していない。

SK35B03土坑（第83図、第15表、写真図版12）OE-030c OE-029d Gridに位置する。III層上面遺構との新旧関係はない。遺物は、埋土から非クロコ土師器片が出土している。

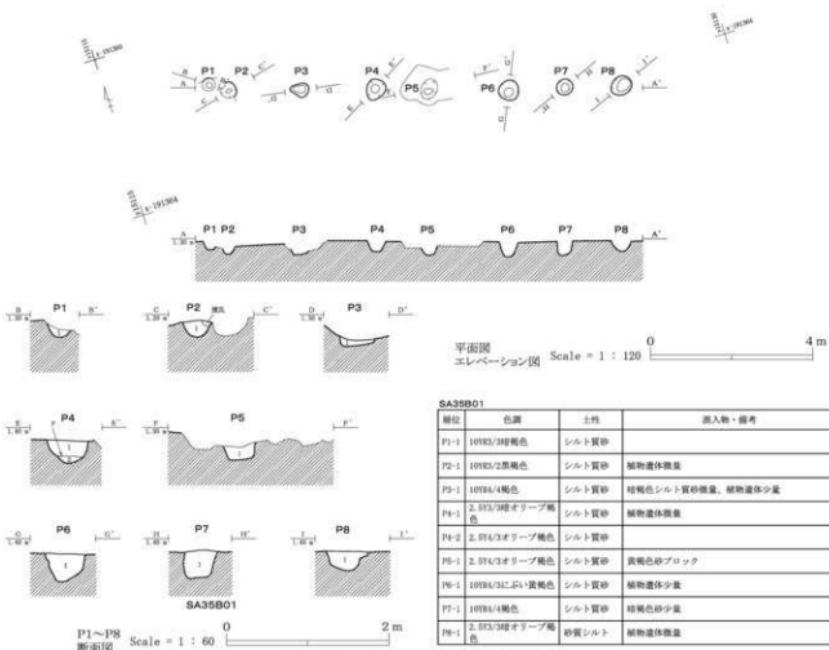
SK35B04土坑（第83図、第15表、写真図版12）OE-030c OD-030b Gridに位置する。III層上面遺構との新旧関係はない。平面形は浅い円形の土坑で、中央がやや高い。遺物は、埋土から非クロコ土師器片が出土している。

(3) SX性格不明遺構 III層上面の性格不明遺構は、7基検出した。

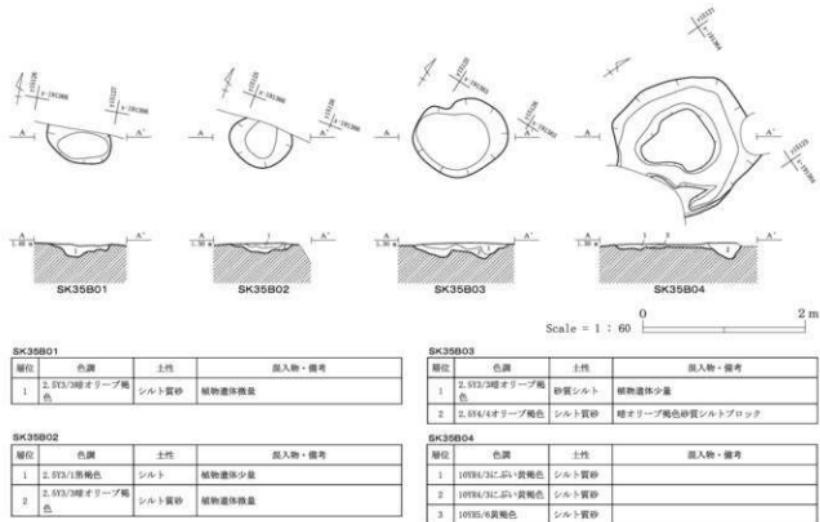
SX35B01性格不明遺構（第84図、第16表）OE-030c Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SA35B01より新しい。東西に長い不整形の遺構である。遺物は出土していない

SX35B02性格不明遺構（第84図、第16表）OE-030d Gridに位置する。III層上面遺構との新旧関係はない。不整形の遺構で、北側は調査区外へ続く。遺物は、埋土から非クロコ土師器片が出土している。

SX35B03性格不明遺構（第84・85図、第16表、写真図版12・20）OE-030d Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SX35B07、P35B11より新しい。平面形は不整形の遺構で、南側は調査区外へ続く。底面はすり鉢状に落ち込んでおり、底面からはピット5基を検出した。ピットはいずれも浅く、柱材や柱痕跡は認めら



第82図 III層上面SA区画施設平面図・断面図



第83図 Ⅲ層上面SK土坑平面図・断面図

れない。埋土は4層を確認した。埋土2層下面是比較的平坦で遺物がまとまって出土しており、使用された生活面の可能性がある。埋土3層は遺構南西部でのみ認められた明るい色調の埋土である。遺物は、埋土3層から非クロコ土師器の甕（第85図1）が出土し、埋土2層から非クロコ土師器の鉢（第85図2）と甕（第85図3）が出土している。他に、埋土3層西側壁の二箇所で、壁に貼りつくように棒状の粘土が出土している。第85図1の甕は、体部は卵形である。体部最大径は、下位に位置する。口縁部は、外反して開き、頸部に段は無い。調整は、体部外面では、ハケメの後ヘラナデが施される。第85図2の鉢は、体部は半球形である。口縁部は直立し、頸部に段を有する。調整は、体部外面では、ハケメが施される。第85図3の甕は、体部は逆鐘形である。体部最大径は上位に位置する。調整は、体部外面では、ハケメの後ヘラナデが施される。

SX35B04性格不明遺構（第84図、第16表） 0E-030d Gridに位置する。Ⅲ層上面遺構との新旧関係はない。土坑状の遺構である。遺物は、埋土から非クロコ土師器片が出土している。

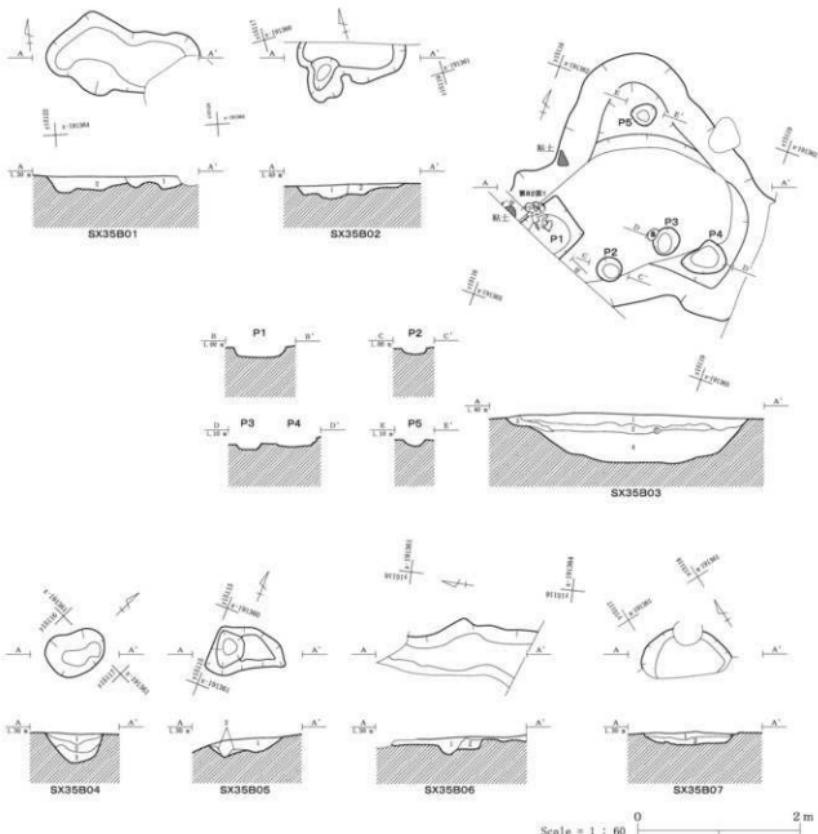
SX35B05性格不明遺構（第84図、第16表） 0E-030d Gridに位置する。Ⅲ層上面遺構との新旧関係はない。土坑状の遺構である。遺物は、埋土から非クロコ土師器片が出土している。

SX35B06性格不明遺構（第84図、第16表） 0E-031c 0E-030d Gridに位置する。本遺構は重複関係から、P35B10より新しい。南側は調査区外に続く。西側は現代の水田に削平され、平面形は不明である。遺物は、埋土から非クロコ土師器片が出土している。

SX35B07性格不明遺構（第84図、第16表） 0E-030d Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SX35B03、P35B07より古く、SA35B01、P35B11より新しい。土坑状の遺構である。遺物は、埋土から非クロコ土師器片が1点出土している。

(4) ピット（第86図、第17表）

Ⅲ層上面のピットは計4基検出した。ピットの平面形は不整形円形・不整梢円形で、平面規模は0.31～0.42m、深さは0.06～0.23mと小規模である。埋土は単層のものが多く、柱材や柱痕跡は認められない。土色・土性は様々である。遺物は、P35B10の埋土から非クロコ土師器片が出土している。



SX35B01

層位	色調	土性	鉆入物・備考
1	10YR4/3にぶら・黄褐色	砂質シルト	植物遺体少量
2	2.5Y3/3暗オリーブ褐色	シルト質砂	植物遺体少量

SX35B02

層位	色調	土性	鉆入物・備考
1	10Y4/4褐色	シルト	オリーブ褐色シルト、暗オリーブ褐色シルト、植物遺体
2	2.5Y4/6オリーブ褐色	砂質シルト	植物遺体

SX35B03

層位	色調	土性	鉆入物・備考
1	10YR2/2黒褐色	シルト	植物遺体少量
2	10YR3/2黒褐色	シルト	植物遺体微量
3	10YR6/3黄褐色	砂質シルト	植物遺体微量
4	2.5Y3/2黒褐色	シルト質砂	黒褐色(10YR3/1)シルト質砂微量、植物遺体微量

SX35B04

層位	色調	土性	鉆入物・備考
1	10YR4/2褐色	シルト質砂	植物遺体微量
2	2.5Y3/2暗褐色	シルト質砂	褐色シルト質砂ブロック少量
3	2.5Y3/3暗オリーブ褐色	シルト質砂	植物遺体微量

SX35B05

層位	色調	土性	鉆入物・備考
1	10YR3/3黒褐色	砂質シルト	植物遺体
2	10YR4/3にぶら・黄褐色	砂質シルト	

SX35B06

層位	色調	土性	鉆入物・備考
1	10YR3/3黒褐色	シルト	植物遺体少量
2	10YR4/3にぶら・黄褐色	シルト質砂	植物遺体微量

SX35B07

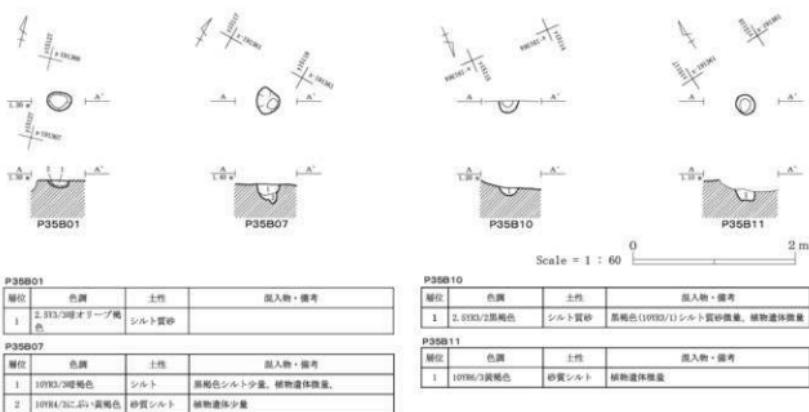
層位	色調	土性	鉆入物・備考
1	2.5Y3/2黒褐色	シルト質砂	植物遺体少量
2	10YR4/4暗褐色	シルト質砂	

第84図 III層上面SX性格不明構造平面図・断面図



第85図 III層上面SX性格不明構出土遺物

単位はcm・g ()の数値は復元値



第86図 III層上面ピット平面図・断面図

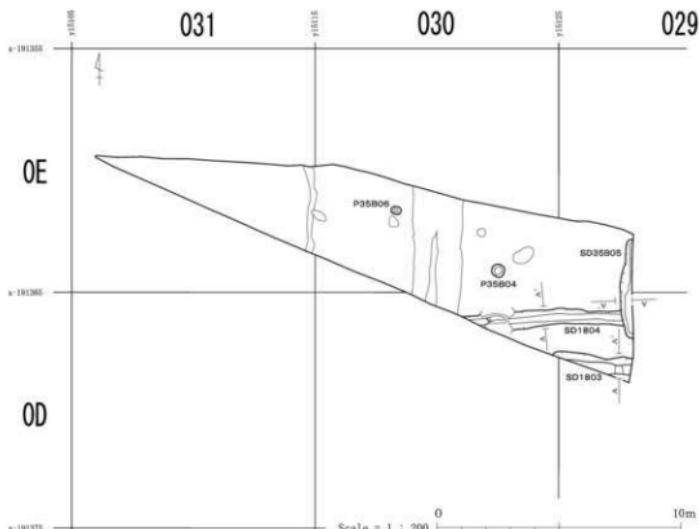
2. II層上面遺構

(1) SD溝跡 II層上面の溝跡は、3条検出した。

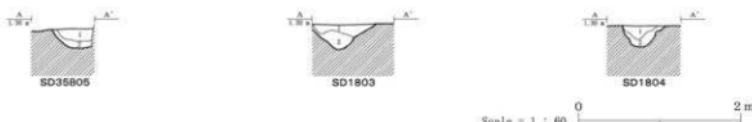
SD35B05溝跡 (第87・88図、第14表) 0E-029d 0D-029a Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SD1804より新しい。南北方向に走る溝で、東側は調査区外へ続く。遺物は、埋土から非クロロ土師器片が出土している。

SD1803溝跡 (第87・88・89図、第14表、写真図版20) 0D-030b 0D-029a Gridに位置する。II層上面遺構との新旧関係はない。SD1804と平行して東西に走る。東側は第18次西調査区から続き、西側は調査区外へ続く。遺物は、埋土中から非クロロ土師器片と須恵器坏 (第89図1) が出土している。第89図1の須恵器坏は、口唇部が内湾する。

SD1804溝跡 (第87・88図、第14表) 0D-030b 0D-029a Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SD35B05より古い。SD1803と平行して東西に走る。東側は第18次西調査区から続き、西側は調査区外へ続く。



第87図 沼向遺跡第35次調査B区 II層上面遺構全体図



層位	色調	土性	出土物・備考
1	10YR2/3黒褐色	シルト	植物遺体少量
2	10YR2/2黒褐色	シルト	植物遺体微量

層位	色調	土性	出土物・備考
1	10YR3/3暗褐色	砂質シルト	植物遺体少量
2	2.03L/6オリーブ褐色	シルト質砂	暗褐色砂シルト上互層

層位	色調	土性	出土物・備考
1	10YR2/3黒褐色	シルト	植物遺体
2	10YR2/2黒褐色	シルト	オリーブ褐色シルトブロック。植物遺体少量

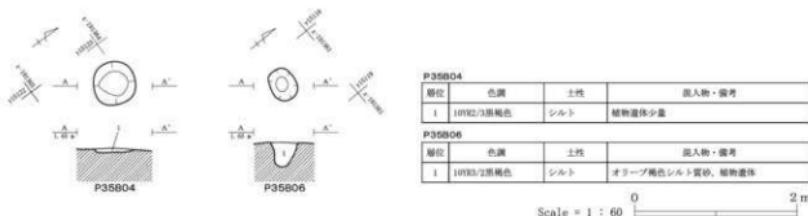
第88図 II層上面SD溝跡断面図



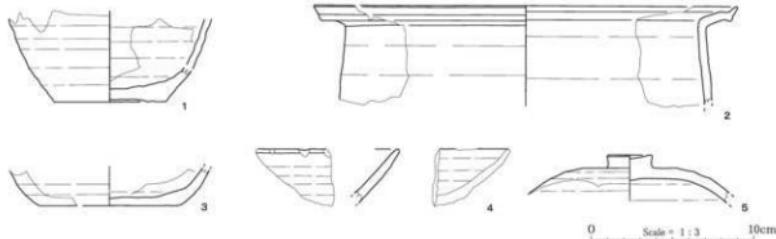
No	登録番号	遺構名・基本層	層位	種別	器種・名称	部位	高さ	口径 幅	底径 厚さ	重さ	備考	図版番号
1	E-08	SD1803	理1	須恵器	坪	口縁部～体部	残存 3.5	(31.9)	-	-	外面:ロクロナダ(口～体)→自然釉 内面:ロクロナダ(口～体)→自然釉	20-25

第89図 II層上面SD溝跡出土遺物

単位はcm・g ()の数値は復元値



第90図 II層上面ピット平面図・断面図



第91図 B区その他の出土遺物

単位はcm・g ()の数値は復元値

遺物は、埋土から非ロクロ土師器片、須恵器片が出土している。

(2) ピット (第90図、第17表)

II層上面のピットは計2基検出した。ピットの平面形は不整円形で、平面規模は0.43～0.56m、深さは0.03～0.30mと小規模である。埋土はいずれも単層で、柱材や柱痕跡は認められない。土色は黒褐色で、土性はシルトである。遺物はP35B06の埋土から非ロクロ土師器片が出土している。

3. その他の出土遺物（第91図、写真図版20）

I 層からロクロ土師器壺（第91図1・2）、須恵器壺（第91図3・4）、須恵器蓋（第91図5）が出土している。第91図1の壺は、ロクロ成形で、底部は回転糸切りである。第91図2の壺は、口縁部は外面が面をなし、内面が「く」字状にくびれる。第91図3の壺は、底部は回転糸切りの後、手持ちヘラケズリがなされる。第91図4の壺は、口縁部は内反して開く。第91図5は、つまみを持つ蓋である。調整は、内外面ともにロクロナデで、外面上部は回転ヘラケズリである。

第3節まとめ

1. 検出遺構

第35次調査B区では、総数21基の遺構を検出した。内訳は、III層上面遺構の区画施設1条、土坑4基、性格不明遺構7基、ピット4基と、II層上面遺構の溝跡3条、ピット2基である。なお、この調査区は、先行する調査から、奈良～平安時代初頭の畑区画溝の内側に位置すると考えられ（斎野2008）、畑に関わる遺構の検出が予想されたが、小溝状遺構群などの遺構は認められなかった。

2. 出土遺物

第35次調査B区では、総数469点の遺物が出土した。内訳は、非ロクロ土師器が399点、ロクロ土師器が2点、須恵器が9点、陶磁器が2点、砥石が1点などである。それらはA区の調査成果から、古墳時代後期から近世までの時期幅をもつ。そのなかで、SX35B03性格不明遺構から出土した土師器3点（壺2点、鉢1点）は、口縁部と体部の境界に弱い段が形成され、体部はハケメ調整を主として、一部ヘラナデ調整がみられ、長胴の壺の最大径が下部にある。これらは、その特徴から栗団式土器と位置づけられる。A区の時期区分ではII～III期に相当し、この遺構の時期を示している。

3. 遺構群の変遷

III層上面遺構では、古墳時代後期、栗団式期のSX35B03性格不明遺構がSA35B01区画施設より新しいことが確認される。他の遺構の詳しい時期は不明である。

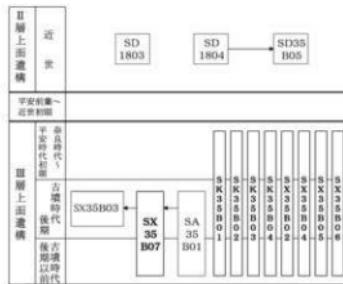
II層上面遺構は、A区の調査成果から、時期は近世と推定されるが、各遺構の詳しい時期は不明である。

4.まとめ

第35次調査B区は遺跡の西部に位置する。調査面積は83.0 m²である。

遺構・遺物は古墳時代後期以降近世まで認められる。III層上面遺構ではSX35B03性格不明遺構が古墳時代後期栗団式期に位置づけられ、SA35B01区画施設がそれに先行する。

近世のII層上面遺構の詳しい時期は不明である。



(新) ← (古) 遺構の新旧関係
第92図 沼向遺跡第35次調査B区検出遺構新旧関係模式図

第12表 第35次調查目区遺物出土數量表

遺構名・基盤	層位	範囲	上層部										その他	計	備考			
			面積	面積	面積	面積	土壌	土瓦	瓦	石	石器	磁石	金属	陶器	木	木品		
SK301005	堆土	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
SK310033	堆土	0	0	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	第36回調査出中内土上敷
SK310049	堆土	0	0	10	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	第36回調査出中内土上敷
SK330043	堆土	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
SK330044	堆土	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	
SK330042	堆土	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
SK330041	堆土	0	0	131	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	149	
SK330040	堆土	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	16
SK330039	堆土	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	16
SK330044	堆土	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
SK330040	堆土	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
SK330038	堆土	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	
SK330037	堆土	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
P250049	堆土	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
P250046	堆土	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
P250049	堆土	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
P250010	堆土	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
上層	合計	0	0	191	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	191	
	合計	0	0	799	2	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	801	

第13表 第35次調查B区SA区画施設観察表

遺構番号	Grid	走行方向	全長(α)×上端幅(α)×深さ(α)	平面形	時期
SA35B01	0E-030cd 0E-029d	N-73°-W	10.17×0.41×0.55×0.22~0.35m	直線	古墳時代後期以前

第14表 第35次調査B区SD溝跡観察表

遺傳番号	Grid	走行方向	全長(α)×上端幅(α)×深さ(α)	平面形・断面形	時期
S035801	矢番				
S035802	矢番				
S035803	矢番				
S035804	矢番				
S035805	0E-0294 0E-029a	N-1°-E	4.04×0.50以上×0.24m	直線・傾いたU字状	近抜
SD1803	0D-0306 0D-029a	N-65°-W	3.203m上×1.063m上×0.30m	直線・傾いたU字状	近世
SD1804	0D-0305 0D-029a	N-59°-E	6.472m上×0.73×0.26m	直線・傾いたU字状	近世

第15表 第35次調査B区SK土坑観察表

盡端構造	Grid	長軸方向	長軸 (a) × 短軸 (b) × 厚さ (d)	半形-斷面形	底面	時期
SKS35001	0D-029n	N-8° +	0.62 × 0.405 × 0.14m	不整端円-側いた「U」字状	やや起伏	平安時代初期以前
SKS35002	0D-030n-0D-029n	N-9° -	0.76 × 0.553 × 0.13m	不整端円-側いた「U」字状	やや起伏	平安時代初期以前
SKS35003	0E-030c-0E-029d	N-3° -	1.15 × 0.93 × 0.16m	不整端円-側いた「U」字状	起伏	平安時代初期以前
SKS35004	0E-030c-0E-030b	N-1° -	1.683×1.15 × 0.65 × 0.20m	不整端円-側いた「U」字状	起伏	平安時代初期以前

第16表 第35次調查B區SX性格不明遺構觀察表

靈通番号	Grid	長幅方向	長幅(a)×幅幅(b)×深さ(m)	平面形-断面形	底面	時期
SX535001	OE-030c	N~7°-W	1.962.0 × 0.95 × 0.20a	不整長幅形-開いた「U」字状	起伏	平安時代初期以前
SX535002	OE-030d	N~7°-W	1.33 × 0.765.0 × 0.17a	不明-開いた「U」字状	起伏	平安時代初期以前
SX535003	OE-030d	N~8°-W	3.005.0 × 2.65 × 0.18a	不整形-開いた「U」字状	平坦	古墳時代後葉
SX535004	OE-030d	N~26°-E	0.74 × 0.54 × 0.36a	不整圓内形-開いた「U」字状	平坦	平安時代初期以前
SX535005	OE-030d	N~8°-W	0.93 × 0.57 × 0.22a	不整圓内形-開いた「U」字状	平坦	平安時代初期以前
SX535006	OE-031c OE-030d	N~2°-W	1.621.0 × 0.765.0 × 0.20a	積層-開いた「U」字状	起伏	平安時代初期以前
SX535007	OE-030d	N~25°-E	1.10 × 0.605.0 × 0.18a	不整圓内形-開いた「U」字状	平坦	古墳時代後葉以前

第17表 第35次調査日区ピット監察表

遺構番号	Grid	長軸方向	長軸 (a) × 幅輪 (a) × 厚さ (a)	平面形-断面形	柱頭	時期
P3S5001	0D-029a	N-81°-E	0.31×0.20×0.06m	不整円形-開いた「U」字状	無	平安時代初期以前
P3S5002	久番					
P3S5003	久番					
P3S5004	OE-030c	N-26°-W	0.56×0.53×0.06m	不整円形-開いた「U」字状	無	近世
P3S5005	久番					
P3S5006	OE-030d	N-34°-E	0.43×0.41×0.30m	不整円形-開いた「U」字状	無	近世
P3S5007	OE-030d	N-68°-E	0.42×0.36×0.23m	不整円形-開いた「U」字状	無	平安時代初期以前
P3S5008	久番					
P3S5009	久番					
P3S5010	OE-031c	N-69°-W	0.42×0.22×0.09m	不明-開いた「U」字状	無	平安時代初期以前
P3S5011	OE-031c	N-15°-W	0.30×0.21×0.14m	不整円形-開いた「U」字状	無	平安時代初期以前
P3S5012	久番					
P3S5013	久番					

第4章 第35次調査C区

第1節 調査概要

1. 調査の経過

C区は遺跡範囲の東部に位置し、調査区北側は第7次調査区、西側は第12次調査区、東側は第20次調査区に接する。調査期間は7月30日～9月17日で、実働23日間である。調査面積は166.7 m²である。確認した遺構はIII層上面遺構の方形周溝墓1基、土坑1基と、II層上面遺構の溝跡8条、土坑1基、性格不明遺構1基の計12基である。出土した遺物は非ロクロ土師器、須恵器、陶磁器で、計9点を数える。遺構確認面の標高は0.9～1.0mである。

2. 基本層序

沿向遺跡第1～3次調査に準じた基本層、Ia層、Ib層、IIa層、IIb層、IIIa層、IIIe層を確認した。

I層 Ia層・Ib層の2層を確認した。

Ia層 黒褐色砂質シルトからなる。現代の表土層で、炭化物、焼土粒を含む。層厚は20～60cmである。

Ib層 暗褐色粘土質シルトからなる。Ia層以前の畑耕作土及び整地土である。層厚は0～28cmである。

II層 IIa層・IIb層の2層を確認した。自然堆積層である。

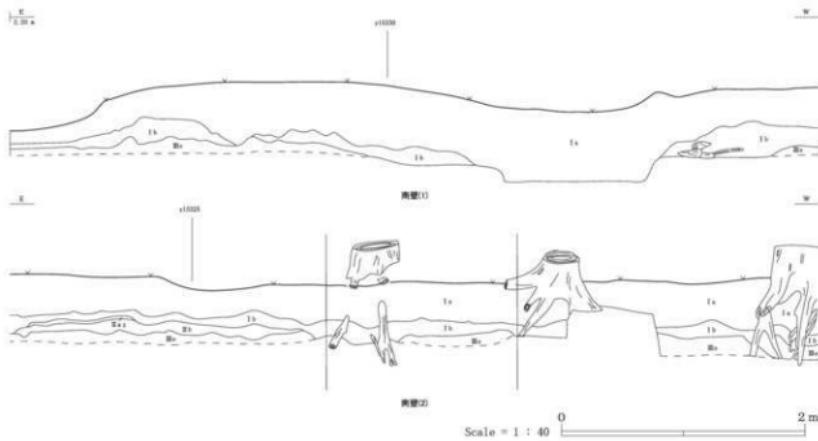
IIa層 いわゆる灰白色火山灰層である。層相変化でぶい黄橙色または褐灰色を呈す。層厚は0～6cmである。

IIb層 黒褐色シルト質砂からなる。調査区南西部で平面的に確認された。層厚は0～12cmである。

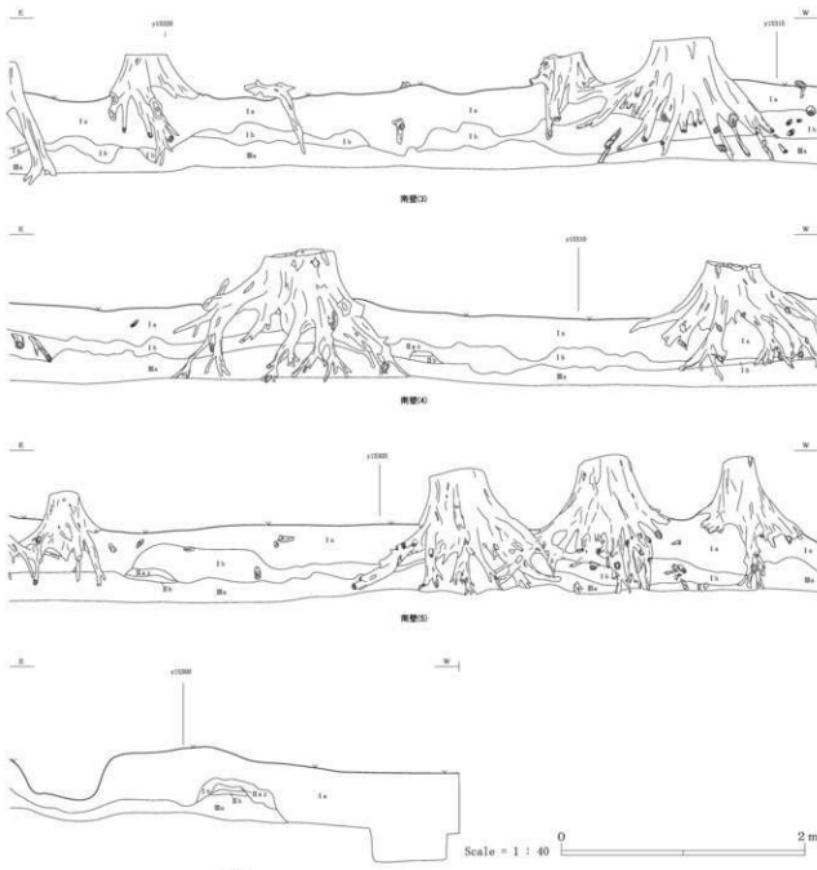
III層 IIIa層・IIIe層の2層を確認した。自然堆積層である。

IIIa層 暗褐色シルト質砂からなる。にぶい黄褐色砂を多量に含む。層厚は0～28cmである。

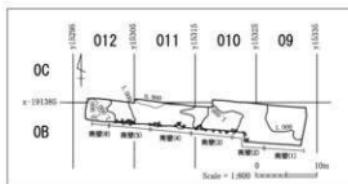
IIIe層 にぶい黄褐色～にぶい黄橙色シルト質砂からなる。IIIe層上面で遺構検出を行なっている。層厚は0～14cm以上である。



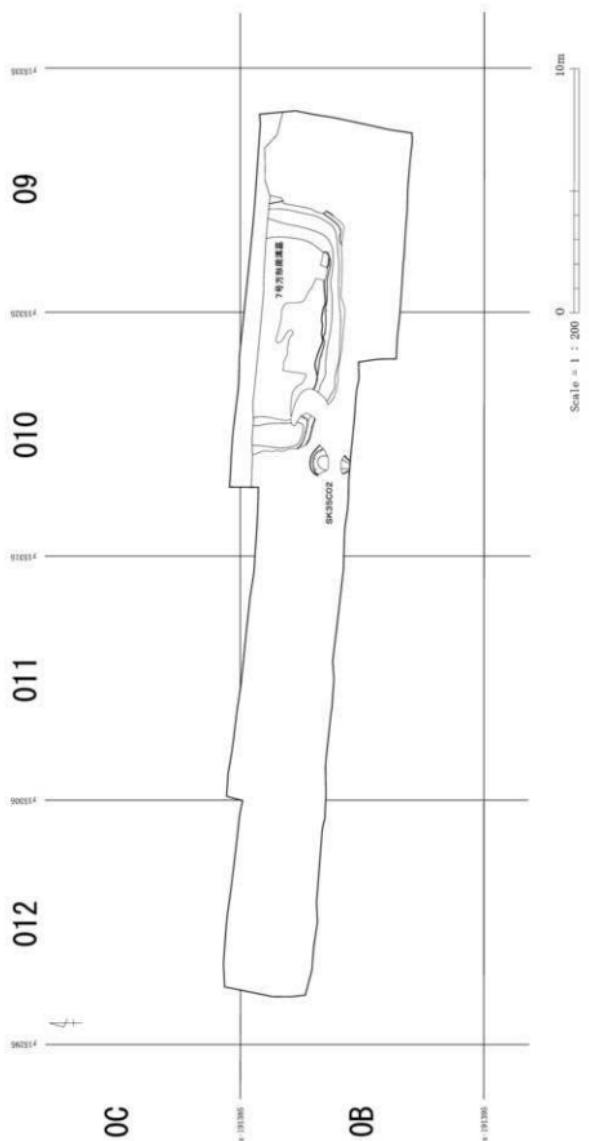
第93図 第35次調査C区南壁土層断面(1)



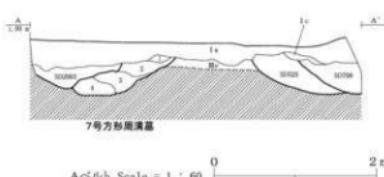
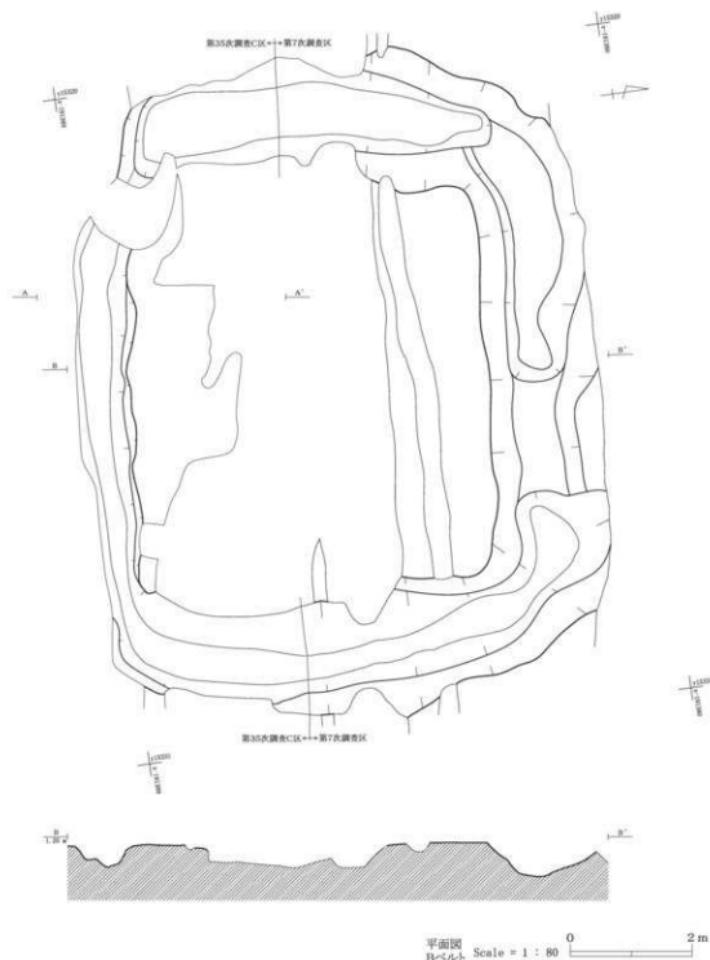
第94図 第35次調査C区南壁土層断面(2)



第95図 沼向遺跡第35次調査C区南壁土層断面位置図・等高線図



第96圖 沿向道路第35次調查C區 III層上面地圖全體圖



7号方形周溝墓		土性	記入物・備考
層位	色調		
1	10PR1/4褐色	シルト質砂	にぶい黄褐色砂小ブロック多量、酸化鉄多量
2	10PR1/25黄褐色	シルト質砂	にぶい黄褐色砂小ブロック多量、酸化鉄
3	10PR1/25黄褐色	シルト質砂	にぶい黄褐色砂小ブロック少量、酸化鉄
4	10PR1/3暗褐色	シルト質砂	灰黄褐色シルト質砂小ブロック微量

第97図 7号方形周溝墓平面図・断面図

第2節 検出遺構と出土遺物

1. III層上面遺構

III層上面の遺構は方形周溝墓1基、土坑1基を検出した。

(1) 7号方形周溝墓 III層上面の方形周溝墓は、1基検出した。

7号方形周溝墓（第97図、第19表、写真図版14）OB-010ab OB-09a Gridに位置する。III層上面遺構との新旧関係はない。周溝の南辺と、東辺と西辺の南半部を確認した。周溝の大半は、II層上面遺構に削平される。東辺と西辺の北半部は、第7次調査区へ続く。7号方形周溝墓は、第7次調査で北側を調査している。本報告では、第7次調査区と第35次調査C区で調査した部分を合成した図面を作成した。

7号方形周溝墓は、墳丘の残存の有無を確認するため、第7次調査の成果をもとに、表土を残した状態でAベルトを設定し、断面観察を行なった。Aベルトの断面観察では、周溝内側はI a層による削平がIIIe層に達しており、積土は確認されなかった。また、平面調査でも、周溝内側は東西方向に走る近世の溝跡により大きく削平され、積土および埋葬施設は確認していない。平面調査、断面観察では、後世の削平により積土の有無は確認できなかった。本来、周溝の内側に積土がされていたのか、もども積土が無かつたかは不明である。

第35次調査C区で確認した、7号方形周溝墓の上端規模は、周溝外側で東西10.10m、南北4.07m以上である。周溝内側では東西7.91m、南北3.18m以上である。主軸方位はN-85°-Wである。溝幅は0.63～1.52mで平均は1.08mである。断面形は「U」字状である。深さは、0.36～0.49mである。壁の立ち上がり角は外側で49度、内側は31度である。底面標高は0.33～0.59mで、西辺は東辺と南辺に比べて若干高くなる。埋土は4層認められる。埋土は、第7次調査の埋土2～5層に対応し、いずれも自然堆積である。遺物は出土していない。

第7次調査とあわせた状態では、上端規模は周溝外側で東西10.94m、南北8.48m以上である。周溝内側では東西7.91m、南北5.92mである。主軸方位はN-85°-Wである。溝幅は0.63～2.75mで平均は1.55mである。断面形は「U」字状である。深さは、0.36～0.58mである。壁の立ち上がり角は外側で26～49度、内側は26～45度である。底面標高は0.33～0.59mである。周溝は、北辺が幅広で、南辺が狭くなり、北辺にテラス状の高まりを有する。

(2) SK土坑 III層上面の土坑は、1基検出した。

SK35CO2土坑（第98図、第21表）OB-010ab Gridに位置する。平面形は、不整円形である。南側は調査区外へ続く。遺物は出土していない。

2. II層上面遺構

II層上面の遺構は溝跡8条、土坑1基、性格不明遺構1基を検出した。

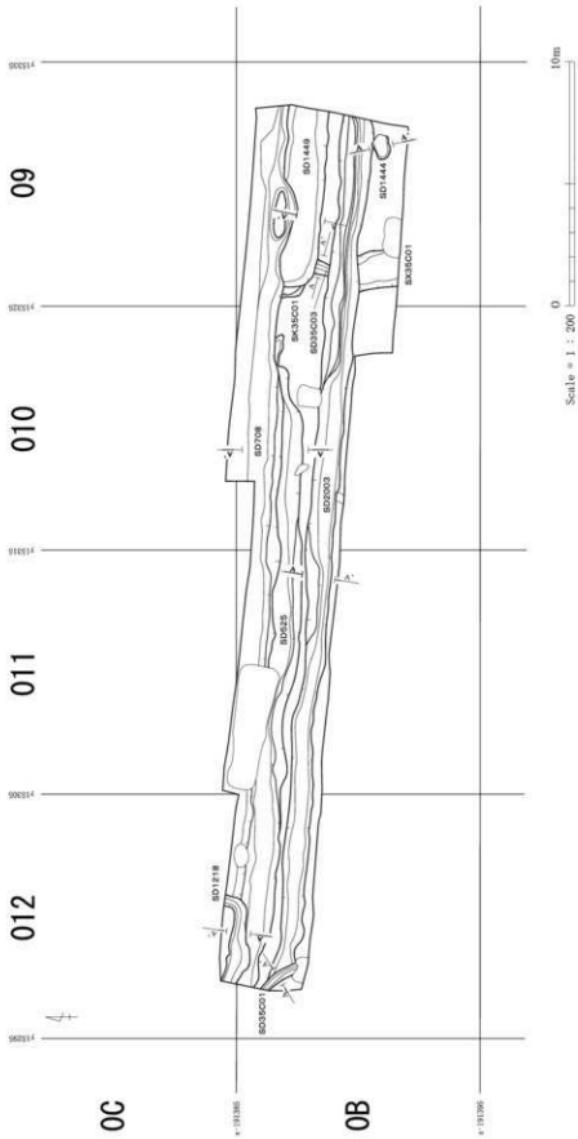
(1) SD溝跡 II層上面の溝跡は、8条検出した。

SD35CO1溝跡（第99・100図、第20表）OB-012a Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SD2003より新しい。北西方向に走る溝である。遺物は出土していない。

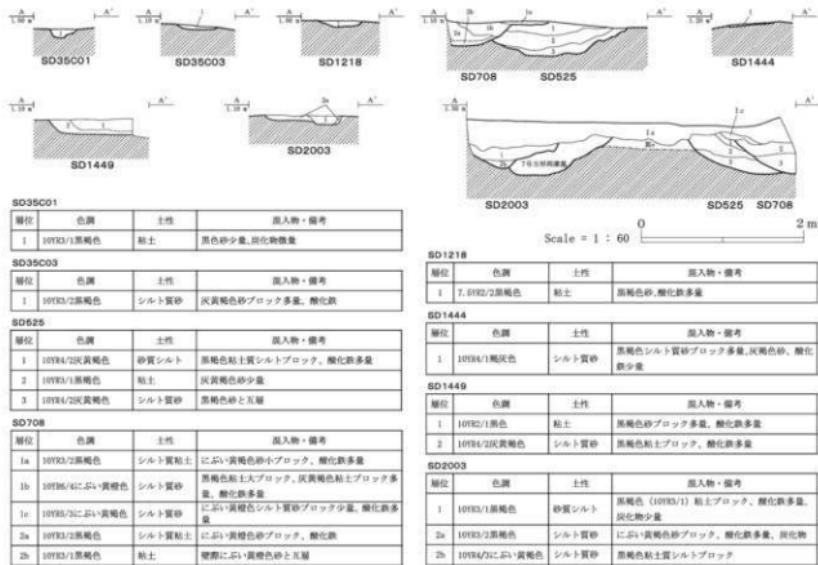
SD35CO3溝跡（第99・100図、第20表）OB-09a Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SD1449、



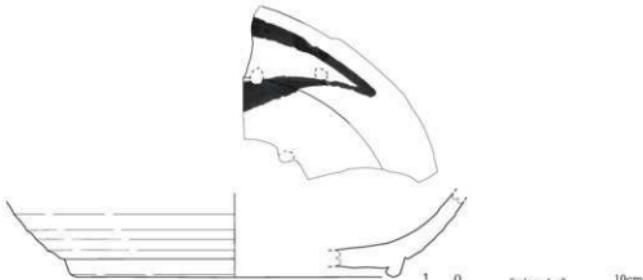
第98図 III層上面SK土坑平面図・断面図



第99圖 沼向遺跡第35次調查C區 II層上面遺構全體圖



第100図 II層上面SD溝跡断面図



No.	登録番号	遺物名・基本層	層位	種別	器種・名称	部位	器高 長さ	口径 幅	直徑 厚さ	重さ	備考	国版番号
I	I-01	SDT08	埋土	海螺	大林	底部	残存 5.1	-	(19.5)	-	ロクロ 内面: 鶴鳥の文様 三角の形に三葉草に円彫ビン瓶 佐村: 田畠(底) 芦田美濃産 17世紀前半	20-32
-	I-02	SDT08	埋3	海螺	榧木	口縁部	残存 5.3	(30.0)	-	-	ロクロ 内面: 鶴鳥 横目6本 底地不明 17世紀	20-31
-	J-07	SDT08	埋1	榧木	小瓶(白磁)	底部	残存 1.2	-	4.5	-	ロクロ 剥り出し: 高台 内面: 本物形容で「寿」の文字 佐村戸美濃産 1850~1860年代	20-33

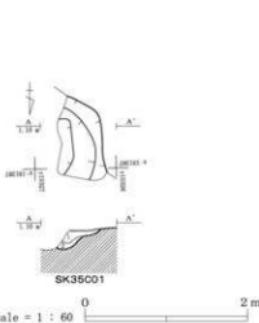
※1-02・J-07は、写真のみ掲載している。

第101図 II層上面SD溝跡出土遺物

単位は cm³·g ()の数値は復元値

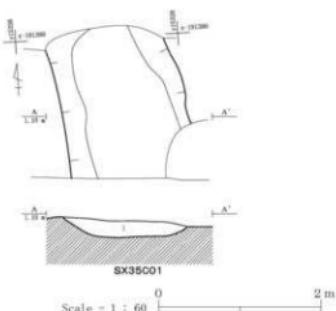
SD2003より古い。南北方向に走る溝で、両端は他遺構に削平される。遺物は出土していない。

SD525溝跡（第99・100図、第20表、写真図版13）OB-012ab OB-011ab OB-010ab Gridに位置する。本遺構は複重関係から、SD708、SD1218より古い。東西方向に走る溝で、東側は調査区内で収束し、西側は第12次調査北区へ続く。遺物は出土していない。



SK35C01			
層位	色調	土性	出土物・備考
1	10YR3/2褐色	シルト質砂	灰黃褐色砂ブロック多量
2	10YR4/3c-5a-黃褐色	シルト質砂	黒褐色砂ブロック少量

第102図 II 層上面SK土坑平面図・断面図



SX35C01			
層位	色調	土性	出土物・備考
1	10YR4/1褐色	シルト質砂	灰黃褐色砂ブロック、灰褐色粘土ブロック、酸化鉄少量

第103図 II 層上面SX性格不明遺構平面図・断面図

SD708溝跡（第99・100・101図、第20表、写真図版13・20） 0C-012c 0C-011d 0B-011ab 0B-010ab 0B-09ab Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SD525、SD1449より新しく、SD1218より古い。東西方向に走る溝で、北側は第7次調査区へ続き、東側は第14次調査中区へ続き、西側は調査区内で収束する。遺物は、埋土から須恵器片、陶磁器片が出土している。そのうち陶磁器3点を図あるいは写真で示した。他に須恵器片、陶磁器が出土した。第101図1は、陶器大鉢で、内面に鉄袖で文様が描かれる。

SD1218溝跡（第99・100図、第20表） 0C-012d 0B-012ab Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SD525、SD708より新しい。東西方向に走る溝で、東側は北へ屈曲する。両端は第12次調査北区へ続く。遺物は出土していない。

SD1444溝跡（第99・100図、第20表） 0B-09c Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SD2003より新しい。東西方向に走る溝で、両端は調査区内で収束する。本来、第20次調査区より続く溝であったが、非常に浅かったため東側の第20次調査へのつながりは確認できなかった。遺物は出土していない。

SD1449溝跡（第99・100図、第20表） 0B-09ab Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SD708より古く、SD35C03、SK35C01より新しい。東西方向に走る溝で、東側は第14次調査中区へ続き、西側は調査区内で収束する。遺物は出土していない。

SD2003溝跡（第99・100図、第20表、写真図版13） 0B-012ab 0B-011ab 0B-010ab 0B-09abcd Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SD35C01、SD1444より古く、SD35C03、SX35C01より新しい。東側は第20次調査区へ続き、西側は第12次調査北区へ続く。遺物は出土していない。

(2) SK土坑 II 層上面の土坑は、1基検出した。

SK35C01土坑（第102図、第21表） 0B-09a Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SD708、SD1449より古い。遺物は出土していない。

(3) SX性格不明遺構 II 層上面の性格不明遺構は、1基検出した。

SX35C01性格不明遺構（第103図、第22表） 0B-09ad Gridに位置する。本遺構は重複関係から、SD2003より古い。遺物は出土していない。

3. その他の出土遺物

I 層から非クロロ土師器、須恵器、陶磁器が出土しており、1点を写真で示した。

第18表 その他の出土遺物

No	登録番号	遺構名・基層	層位	種別	器種・名称	部位	器高 見さ	口径 幅	底径 厚さ	重さ	備考	図版番号
-	I-03	I 層	-	陶器	粗鉢	口縁部	残存 5.5	-	-	-	クロロ 内外面:鉄錆 邊縁:19世紀船頭	20-34

* I-03は、写真的み掲載している。

単位は cm・g ()の数値は復元値

第3節 まとめ

1. 検出遺構

第35次調査C区は、合計12基の遺構を検出した。内訳は、Ⅲ層上面遺構の方形周溝墓1基、土坑1基、Ⅱ層上面遺構の溝跡8条、土坑1基、性格不明遺構1基である。

2. 出土遺物

第35次調査C区では、合計9点の遺物が出土した。これらの内訳は、非ロクロ土師器が3点、須恵器が2点、近世の陶磁器が4点である。

3. 遺構群の変遷

Ⅲ層上面遺構の7号方形周溝墓の南半部を調査し、やや東西方向に長い方形であることが明らかとなった。先行する第7次調査の調査成果から古墳時代前期に属すると考えられるが、本調査区では遺物は出土していない。

Ⅱ層上面遺構では、主な遺構として溝跡8条が認められ、古段階、中段階、新段階の3期に時期区分される。うち4条は古段階から中段階に調査区を横断して平行して走る区画溝である。

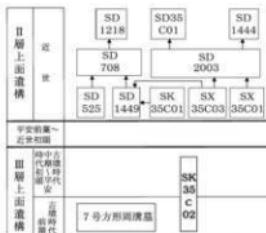
4.まとめ

第35次調査C区は、遺跡の東部に位置する。調査面積は166.7 m²である。

遺構は古墳時代前期と、近世に認められる。出土遺物は少ない。

Ⅲ層上面遺構では、7号方形周溝墓の調査が行われ、その全容が明らかにされた。古墳時代前期の墓域の広がりが確認された。

近世のⅡ層上面遺構では、3期に区分される遺構の重複関係が認められたが、詳しい時期は不明である。



第104図 沼向遺跡第35次調査C区検出遺構新旧関係模式図

第19表 第35次調査C区遺物出土数量表

遺構名 ・基木屋	層位	調査	剖面	土器類												骨器	陶製品	土瓦	土製品	石器	石製品	紙石	織	金属製品	机	木製品	木材	その他	計	備考
				高さ(2.7m)	高さ(2.7m)	直幅	横幅	土器	土製品	石器	石製品	紙石	織	金属製品	机															
SD708	堆土	-	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	第35次調査C区内出土数		
上層	-	0	0	3	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5			
	合計	-	0	0	3	0	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9			

第20表 第35次調査C区方形周溝墓觀察表

遺構番号	Grid	上端規模(α)	廣幅×深さ(α)	埋葬施設	時期
7号方形周溝墓	OB-01abh OB-09ab	10, 10×4.07m	0.63～1.52×0.36～0.49m	無	古墳時代初期

第21表 第35次調査C区SD溝跡觀察表

遺構番号	Grid	走行方向	全長(α) × 上端幅(α) × 深さ(α)	平面形・断面形	時期
SD35C01	OB-012a	N-36°-W	1.66以上×0.40×0.13m	直線・開いた「U」字状	近世後段階
SD35C02	矢臺	-	-	-	-
SD35C03	OB-09a	N-21°-E	0.76以上×0.59×0.06m	直線・開いた「U」字状	近世古段階
SD525	OB-010ab	N-86°-W	26.88以上×1.92以上×0.45m	直線・開いた「U」字状	近世古段階
SD708	OB-012c OB-011d OB-011ab OB-010ab	N-87°-W	33.40以上×1.32以上×0.52m	直線・開いた「U」字状	近世中段階
SD1218	OB-012c-d OB-012ab	N-81°-W	3.40以上×0.97×0.08m	圓曲・開いた「U」字状	近世後段階
SD1444	OB-09c	N-78°-E	1.03以上×0.71×0.03m	直線・浅い埋り跡状	近世後段階
SD1449	OB-09ab OB-010ab OB-09abcd	N-84°-W	7.38以上×1.76以上×0.19m	直線・開いた「U」字状	近世古段階
SD2003	OB-012ab OB-011ab	N-86°-W	36.10以上×1.32×0.10m	直線・開いた「U」字状	近世中段階

第22表 第35次調査C区SK土坑觀察表

遺構番号	Grid	長軸方向	長軸(α) × 短軸(α) × 深さ(α)	平面形・断面形	底面	時期
SK35C01	OB-09a	N-4°-W	0.98以上×0.61以上×0.23m	不明・側いた「U」字状	平底	近世古段階
SK35C02	OB-010ab	N-8°-W	1.64以上×1.23以上×0.21m	不整円形・開いた「U」字状	平底	平安時代初期以前

第23表 第35次調査C区SX性格不明遺構觀察表

遺構番号	Grid	長軸方向	長軸(α) × 短軸(α) × 深さ(α)	平面形・断面形	底面	時期
SK35C01	OB-09ad	N-10°-E	1.93以上×1.53×0.20m	不明・側いた「U」字状	平底	近世古段階

第5章 第35次調査D区

第1節 調査概要

1. 調査の経過

D区は遺跡範囲の北西部に位置する。三箇所の試掘トレンチを設定し、遺構の確認を行なった。調査期間は9月29日～9月30日で、実働2日間である。試掘区は、西からトレンチ1・トレンチ2・トレンチ3を設定した。調査面積は南西のトレンチ1は43.3 m²、中央のトレンチ2は52.2 m²、北東のトレンチ3は33.9 m²で、合計129.4 m²である。その結果、確認した遺構はトレンチ2のII層上面遺構の溝跡1条である。遺物は基本層I層から非クロロ土師器が1点見つかっている。遺構確認面の標高は0.3～0.8mである。トレンチ2とトレンチ3で、浜堤列から後背湿地への移行部を確認した。

2. 基本層序

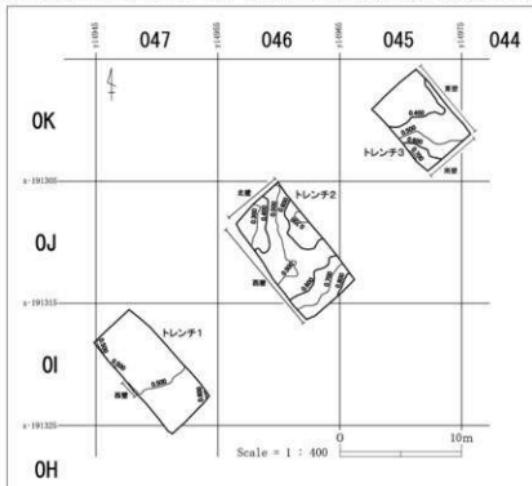
沼向遺跡第1～3次調査に準じた浜堤列基本層Ia層、Ib層、IIIe層及び後背湿地基本層2層、4層、5層、6層、7・8層を確認した。また、基本層に対応しない層をA層、B層とした。

調査範囲の中央には現況の大溝が走っており、トレンチ2と3では、灰白色火山灰の平面的な堆積を確認し、その下部に泥炭質粘土の堆積が認められた。浜堤列基本層III層は、トレンチ1では緩やかに北西側へ、トレンチ2では西側へ、トレンチ3では北側へ傾斜していた。トレンチ2と3では、緩やかな傾斜の途中から急に落ち込む地形の転換が認められた。これらの成果から、上記の泥炭質粘土の堆積層は沼向遺跡後背湿地基本層7・8層であり、D区周辺は浜堤列から後背湿地への移行部と考えられる。

第2節 検出遺構と出土遺物

1. トレンチ1（第105・106・107図、写真図版15）

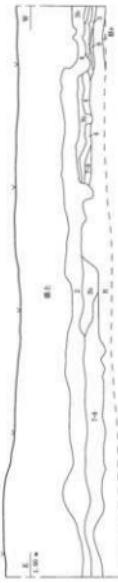
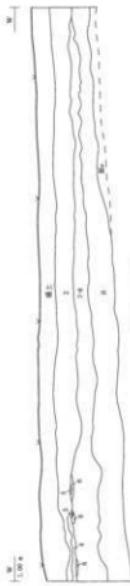
01-047abcd OH-047b Grid に設定した試掘区である。浜堤列基本層序の、Ia層とIIb層、IIIa層を確認した。後背湿地の基本層序は確認していない。南から北へ地形面がゆるやかに傾斜することを確認した。遺構は検出



第105図 沼向遺跡第35次調査D区壁土層断面位置図・等高線図

Scale = 1 : 40, 0

第106図 沿向道路第35次調査の試掘区壁土層断面



044

045

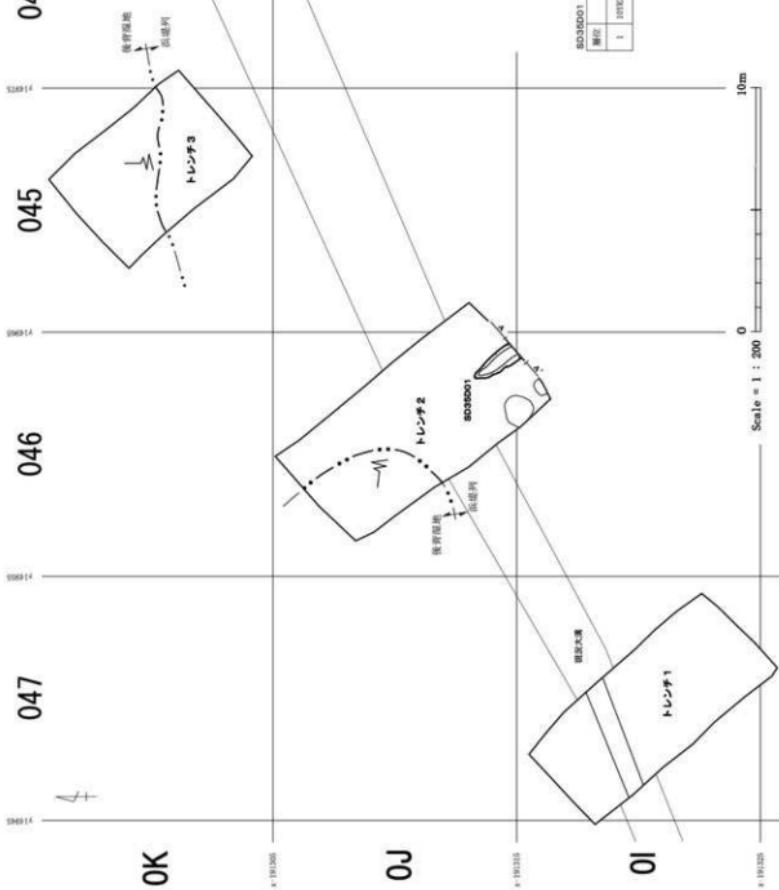
046

047

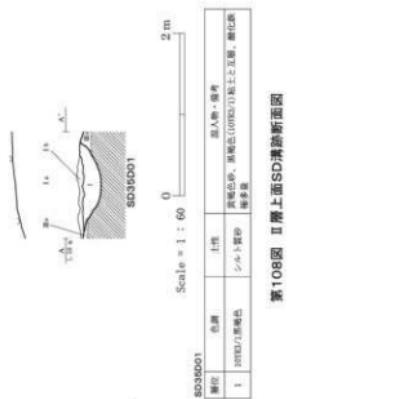
OK

JO

OI



第107図 沼向遺跡第35次調査D区全体図



第108図 II層上面SD測量断面図

しておらず、遺物の出土もない。

2. トレンチ2（第105・106・107図、写真図版15）

0J-046abcd 0J-045a 0J-046b Grid に設定した試掘区である。確認した基本層序は、浜堤列基本層序では I a層・I b層とII b層、III e層で、後背湿地では、2層、4層、5層、6層、7・8層である。また、後背湿地の、7・8層の下面で黒褐色粘土層のB層を確認している。地形面は、南東から北西へ低くなり、試掘区中央で浜堤列から後背湿地へ移行することを確認した。遺構はII層上面遺構のSD35D01を検出した。SD35D01は0J-045c Gridに位置する。近世に属する。他遺構との新旧関係はない。北西方向に走る溝で、南東は調査区外に続く。現況の大溝より南東側で確認された。大溝に直交して走り、大溝の手前で止まっている。溝跡からの遺物は出土していない。基本層1層から非クロロ土師器片が1点出土している。

3. トレンチ3（第105・106・107図、写真図版15）

OK-045abcd OK-044d Grid に設定した試掘区である。確認した基本層序は、浜堤列ではIII e層で、後背湿地では、2層、3b層、4層、5層、6層、7・8層である。また、後背湿地の、4層の下面で暗褐色粘土層のA層を確認し、7・8層の下面で黒褐色粘土層のB層を確認している。地形面は、南西から北東へ低くなり、試掘区の中央で、浜堤列から後背湿地へ移行することを確認した。遺構は検出しており、遺物の出土もない。

第3節 まとめ

第35次調査D区は遺跡の北西部に位置する。調査面積は 129.4 m²である。

トレンチ1～3を設定して試掘調査を行ったところ、トレンチ2でII層上面遺構の溝跡1条を、基本層序I b層下層で検出した。この遺構の時期は近世と考えられるが、詳しい時期は不明である。

また、浜堤列から後背湿地への移行部を確認した。移行部は、トレンチ2では南東から北西へ低くなるのに対し、トレンチ3では南西から北東へ低くなり、トレンチ1では、移行部を確認していない。浜堤列から後背湿地微地形の境界には灰白色火山灰の平面的な堆積が認められ、沿向遺跡の北西部が少なくとも 10 世紀初頭には微地形の境界として存在していたことが判明した。

第24表 第35次調査D区出土遺物数量表

遺物名 ・基本層	層位	織文	乳生	土器類		瓦	陶器 破片	土瓦	土器 製品	瓦	石器 製品	瓦砾	鐵	金銀 製品	核	木 製品	木 材	その 他の 遺物	計	備考
				井戸A12	井戸D12															
I層	-	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
合計		0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	

第25表 第35次調査D区SD溝跡観察表

遺構番号	Grid	走行方向	全長 (m) × 上端幅 (m) × 底さ (m)		平面形・断面形	時期
			西-東	2.00以上×0.82×0.23m		
SD35D01	0J-046b	N-36°-E			直線・開いた「U」字状	近世

第6章 総括

1. A区

- ・A区は、遺跡西部の浜堤列に立地する。
- ・III層上面遺構では、古墳時代後期の住社式新段階から栗園式期にかけての堅穴住居跡4軒と堅穴遺構2基などが検出され、この時期の居住域が確認された。また、奈良～平安時代初頭の畑耕作域を検出した。畑耕作域の西側が溝で区画されていることが判明した。
- ・II層上面遺構では、近世の遺構群に3時期の変遷が認められた。A区では古段階は畑耕作域として利用されていたと考えられる。中段階になると古段階の区画を踏襲しつつ、区画溝が現れるようになる。新段階ではほぼ東西南北の大きな区画溝が成立する。

2. B区

- ・B区は、沼向遺跡西部の浜堤列に立地する。
- ・III層上面遺構では、栗園式期の性格不明遺構1基と、それ以前の区画施設1条が検出された。
- ・II層上面遺構では、近世の溝跡3条が検出された。

3. C区

- ・C区は、遺跡東部の浜堤列に立地する。
- ・III層上面遺構では、古墳時代前期の方形周溝墓1基と土坑1基を検出した。遺跡の東部が墓域として利用されていたことが、改めて確認された。
- ・II層上面遺構では、近世の東西方向の溝跡が見つかった。

4. D区

- ・D区は、遺跡北西部の浜堤列から後背湿地へかけて立地する。
- ・III層上面遺構の検出はなかった。
- ・II層上面遺構では、トレンチ2の浜堤列で溝跡1条が検出された。

5.まとめ

今回の調査は、A区～D区の4地点で行なわれ、古墳時代前期から近世にかけての遺構が検出された。

古墳時代前期（塩釜式期）では、C区で方形周溝墓が検出され、墓域であることが確認された。

古墳時代後期（住社式新段階～栗園式期）では、A区とB区は居住域として土地利用され、奈良～平安時代初頭には、A区を西端とする生産域（畑）が展開していることが知られた。

近世では、溝跡などがA～D区で検出され、居住域・屋敷、あるいは生産域に伴う区画溝としての機能が考えられた。

このように今回の沼向遺跡の調査は、地点的ではあったが、古墳時代前期から近世にかけて浜堤列における居住域、生産域、墓域としての土地利用の一端が明らかにされた。

註

1・2：この自然遺物2点については、仙台市科学館副館長高取知男氏のご教示をいただいた。高取氏によると、この2点は遺存状態は良好ではないものの、キチン質とみられる部分が残っており、また成長線と思われる筋がみられることから貝と考えてよく、貝種は、形状や大きさから、カラスガイ、ドブガイなどの可能性があり、いずれも淡水の砂層～軟泥底に生息している種ということである。

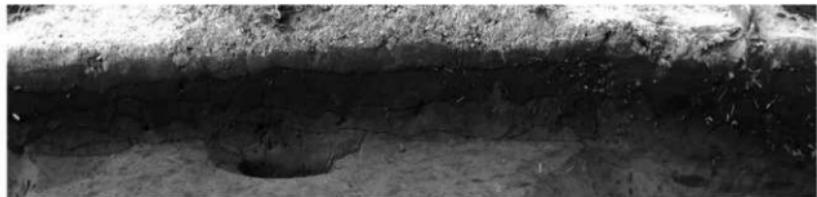
文献

- 氏家 和典 1957 「東北土師器の型式分類とその編年」『歴史』第14輯
- 斎野 裕彦 2008 「仙台平野における古代の農耕－仙台市沼向遺跡を中心として－」『開館15周年記念シンポジウム 日本人は何を食べてきたか？ 資料』奥松島繩文村歴史資料館
- 志間 泰治 1958 「宮城県角田町住社遺跡発見の堅穴住居跡とその考察」『考古学雑誌』第43巻第4号

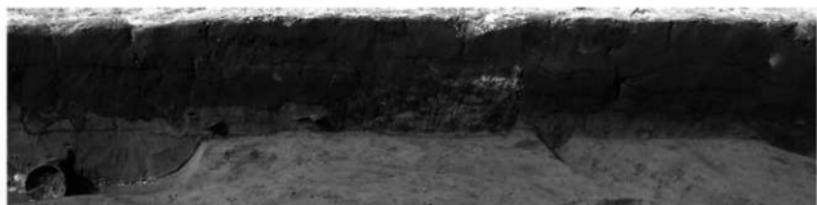
- 仙台市教育委員会 1982『栗遺跡』仙台市文化財調査報告書第43集
- 仙台市教育委員会 1994『南小泉遺跡－第22次・23次発掘調査報告書一』仙台市文化財調査報告書第192集
- 仙台市教育委員会 2000『沼向遺跡第1～3次調査』仙台市文化財調査報告書第241集
- 仙台市教育委員会 2001「沼向遺跡第10次調査現地説明会資料」
- 仙台市教育委員会 2003「沼向遺跡第18次東調査・第24次調査・第26次調査現地説明会資料」
- 仙台市史編さん委員会 2001『仙台市史 通史編・近世1』
- 松本 秀明 1994「臨海沖積平野と軟弱地形」『仙台市史 特別編1 自然』仙台市史編sann委員会
- 宮城県教育委員会 1981「清水遺跡」『東北新幹線関係遺跡調査報告書V』宮城県文化財調査報告書第77集



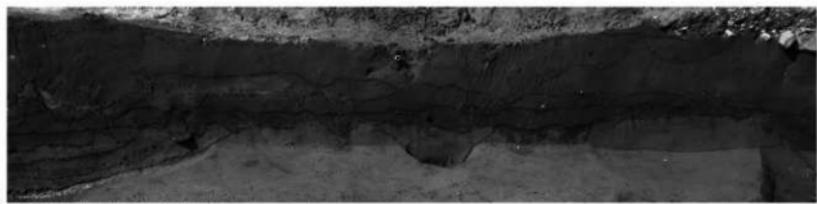
1.A区北西壁土層断面1 (0F-040付近) (南東→)



2.A区北西壁土層断面2 (0F-039付近) (南東→)



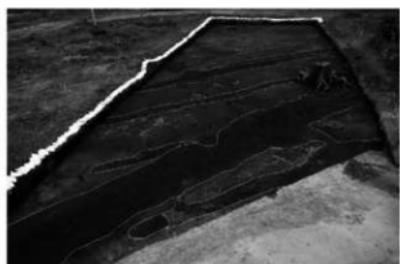
3.A区北西壁土層断面3 (0G-039付近) (南東→)



4.A区北西壁土層断面4 (0H-038付近) (南東→)



5.A区北西壁土層断面5 (0H-037付近) (南東→)



1.A区Ⅱ層上面造模確認状況(南西→)



2.A区Ⅱ層上面造模確認状況(南西→)



3.A区Ⅱ層上面造模完掘状況(南西→)



4.A区Ⅲ層上面造模確認状況(北東→)



5.A区Ⅲ層上面造模完掘状況(北東→)



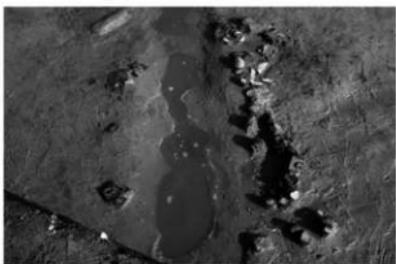
1.A区Ⅲ層上面遺構完掘状況(南西→)



2.A区SI35A01Aベルト土層断面(西→)



3.A区SI35A01完掘状況(南→)



4.A区SI35A03遺物出土状況(西→)



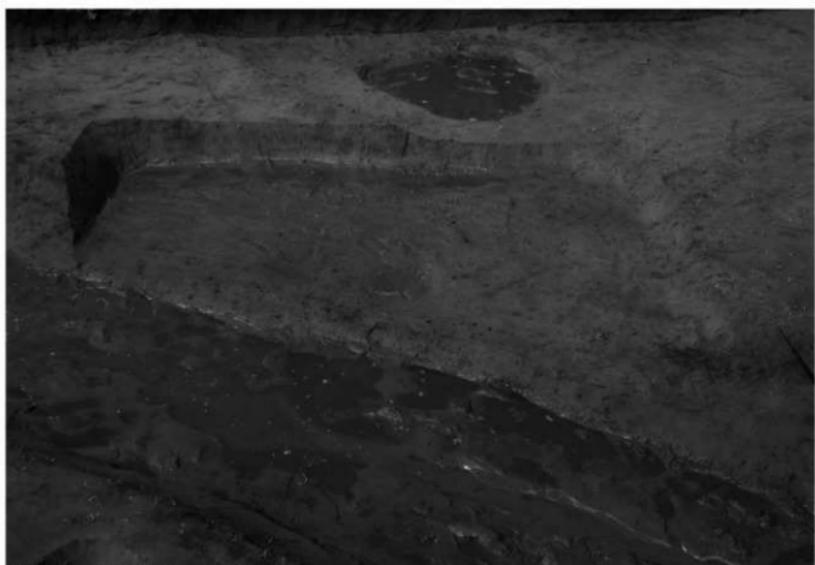
5.A区SI35A03完掘状況(西→)



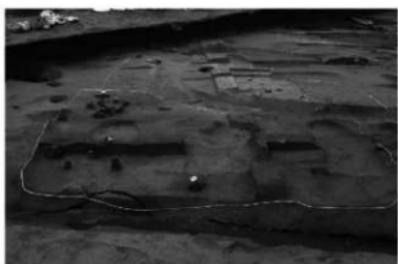
1.A区SI35A03カマド検出状況(西→)



2.A区SI35A04土層断面(南西→)



3.A区SI35A04床面検出状況(南東→)



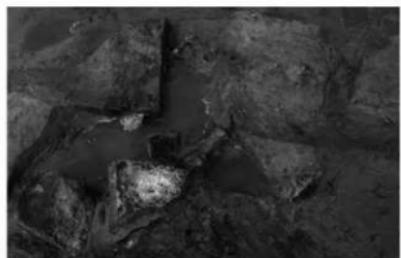
4.A区SI35A08Aベルト土層断面(南→)



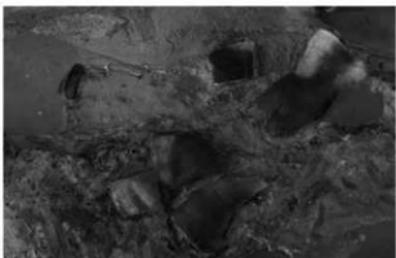
5.A区SI35A08周清土層断面(南→)



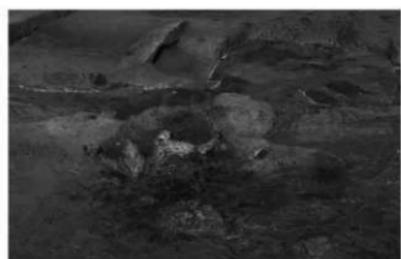
1.A区SI35A08床面施設完掘状況(南→)



2.A区SI35A10カマド遺物出土状況(南東→)



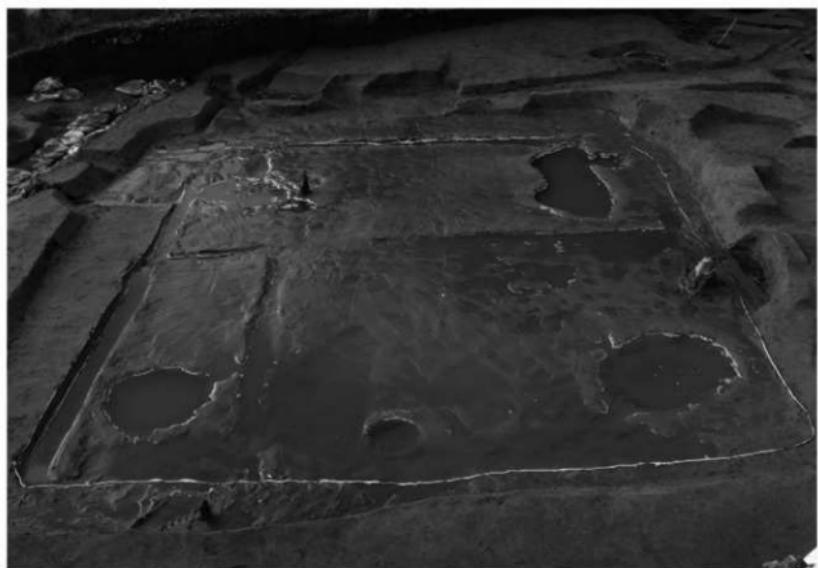
3.A区SI35A10カマド燃焼部遺物出土状況(南東→)



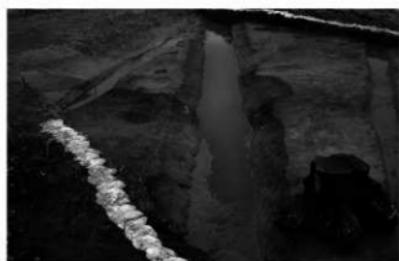
4.A区SI35A10カマド検出状況(南東→)



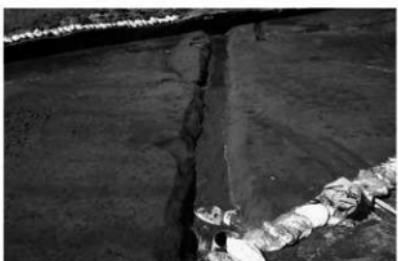
5.A区SA2502土層断面(北→)



1.A区SI35A10B床面施設完掘状況(南東→)



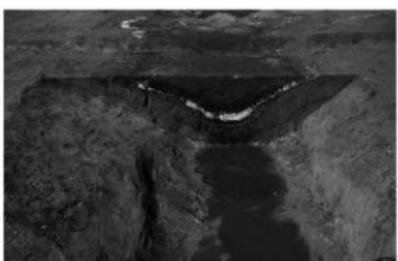
2.A区SD35A01完掘状況(東→)



3.A区SD35A07・SD35A08・SD35A09完掘状況(南→)



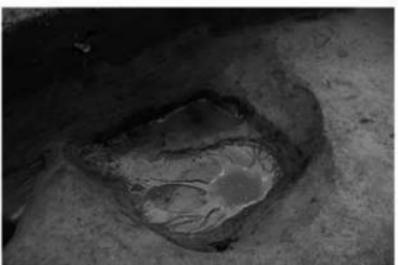
4.A区SD35A15完掘状況(北東→)



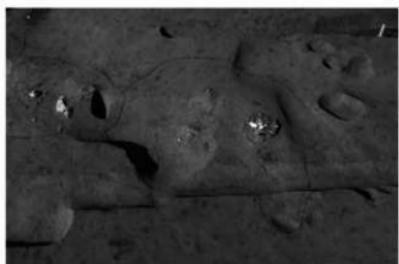
5.A区SD2523土層断面(南→)



1.A区SK35A12完掘状況(北→)



2.A区SK35A18完掘状況(南→)



3.A区SK35A27・SK35A28確認状況(南→)



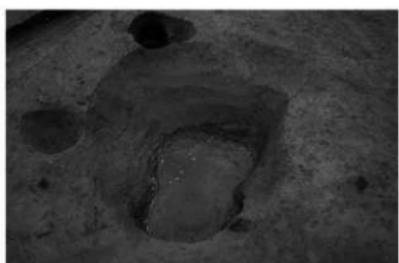
4.A区SK35A27遺物出土状況(南→)



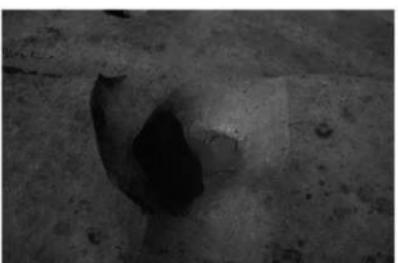
5.A区SK35A28遺物出土状況(南→)



6.A区SK35A34完掘状況(北→)



7.A区SK35A35完掘状況(北→)



8.A区SK35A39完掘状況(北→)



1.A区SK35A40遺物出土状況(南→)



2.A区SK35A40完掘状況(東→)



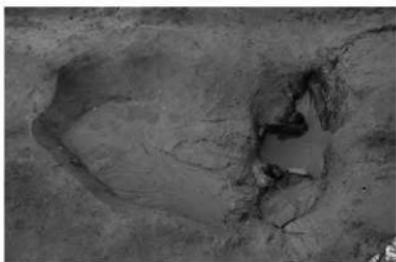
3.A区SX35A04土層断面(南→)



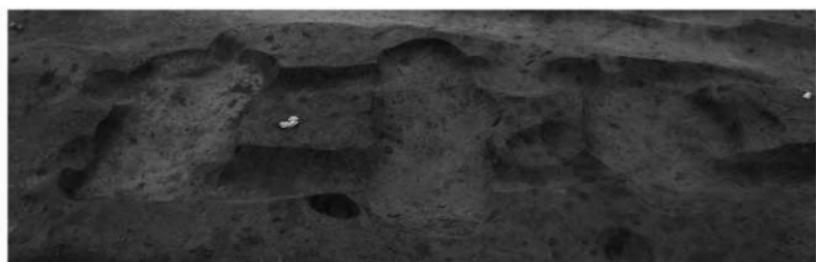
4.A区SX35A05土層断面(南→)



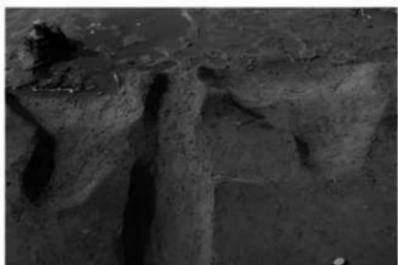
5.A区SX35A06土層断面(南→)



6.A区SX35A08完掘状況(南→)



7.A区SX35A04-SX35A05-SX35A06完掘状況(南→)



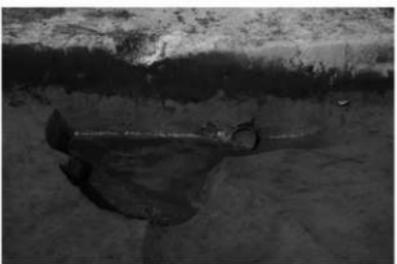
1.A区SX35A16・SX35A17完掘状況(北東→)



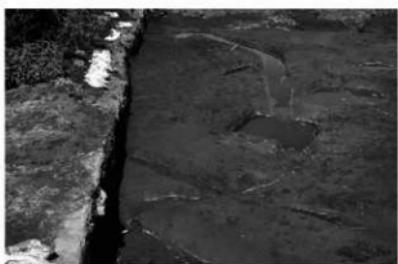
2.A区SX35A19完掘状況(南→)



3.A区SX35A31完掘状況(南→)



4.A区SX35A32完掘状況(南東→)



5.A区SX2501完掘状況(南西→)



6.A区小溝状遺構群35次A群⑧工具直撃出状況(東→)



7.A区小溝状遺構群35次A群⑨ベルト土層断面(東→)



1A区SD2523・小溝状造橋群35次A群完照状況



2A区小溝状造橋群35次A群完照状況(北京一)



1.B区南壁土層断面 (OE-030付近) (北→)



2.B区南壁土層断面 (OE-030付近) (北→)



3.B区南壁土層断面3 (OE-030付近) (北→)



4.B区南壁土層断面 (OE-030付近) (北→)



5.B区遺構完掘状況 (東→)



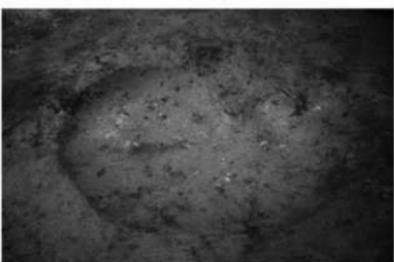
1.B区造構確認状況(東→)



2.B区SA35B01完掘状況(東→)



3.B区SD35B05完掘状況(北→)



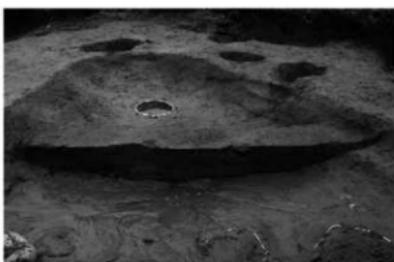
4.B区SK35B03完掘状況(南→)



5.B区SK35B04完掘状況(南→)



6.B区SX35B03遺物出土状況(南東→)



7.B区SX35B03土層断面(南東→)



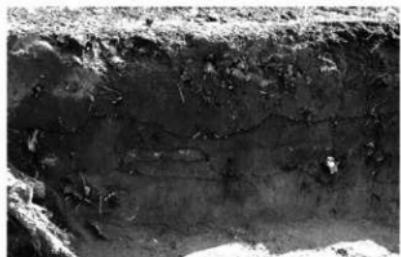
8.B区SX35B03完掘状況(南東→)



1.C区南壁土層断面1 (0B-010付近) (北→)



2.C区南壁土層断面2 (0B-011付近) (北→)



3.C区南壁土層断面3 (0B-011付近) (北→)



4.C区南壁土層断面4 (0B-012付近) (北→)



5.C区東半邊構造確認状況 (東→)



6.C区造構完成状況 (東→)



7.C区SD525・SD708土層断面 (西→)



8.C区SD525・SD708・SD2003完結状況 (西→)



1.C区7号方形周溝基確認状況1(東→)



2.C区7号方形周溝基礎確認状況2(北→)



3.C区7号方形周溝基土層断面1(東→)



4.C区7号方形周溝基土層断面2(東→)



5.C区7号方形周溝基完成状況(北西→)



1.D区トレーンチ1挖掘状況(南東→)



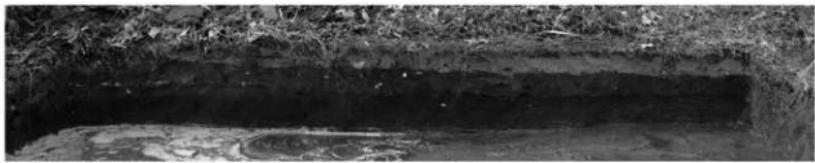
2.D区トレーンチ2挖掘状況(南東→)



3.D区トレーンチ3挖掘状況(南東→)



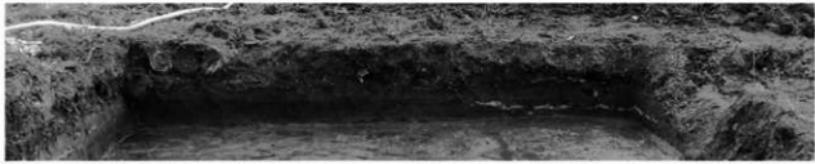
4.D区トレーンチ1西壁土層断面(北東→)



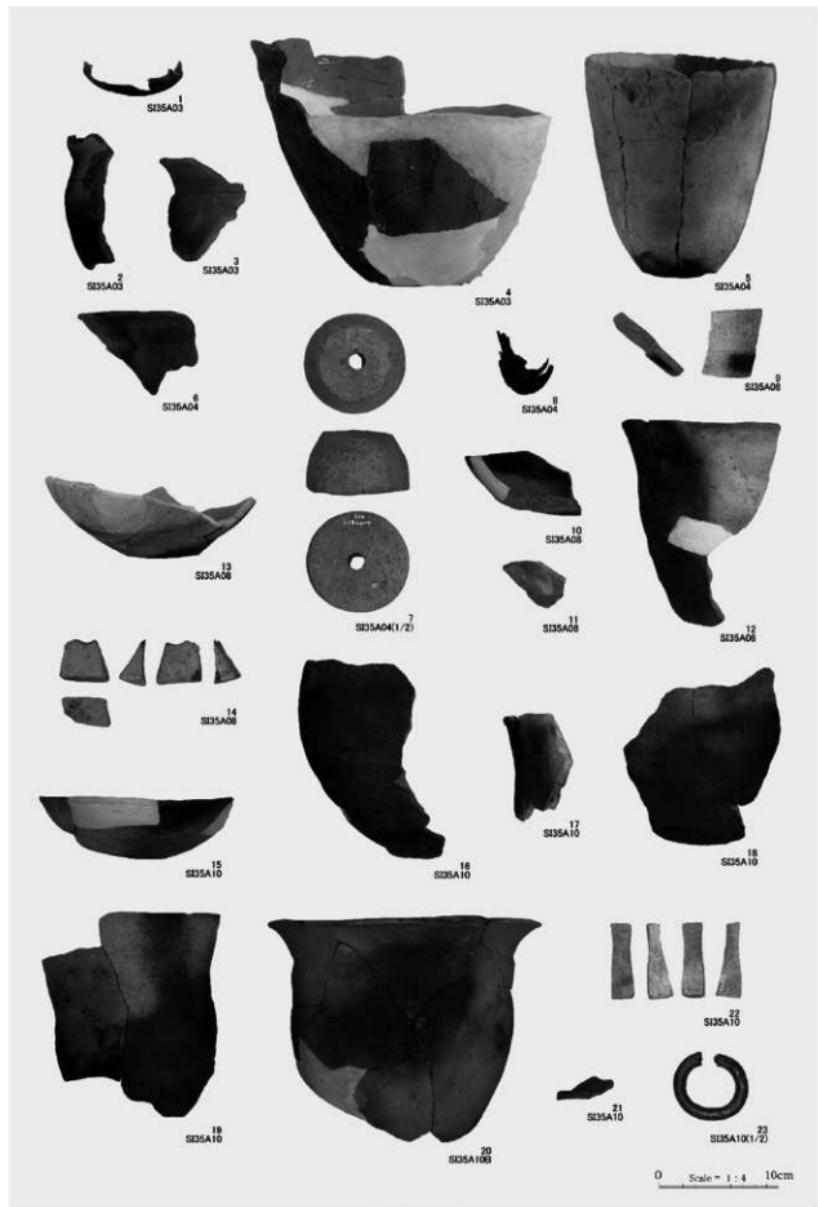
5.D区トレーンチ2北壁土層断面(南東→)



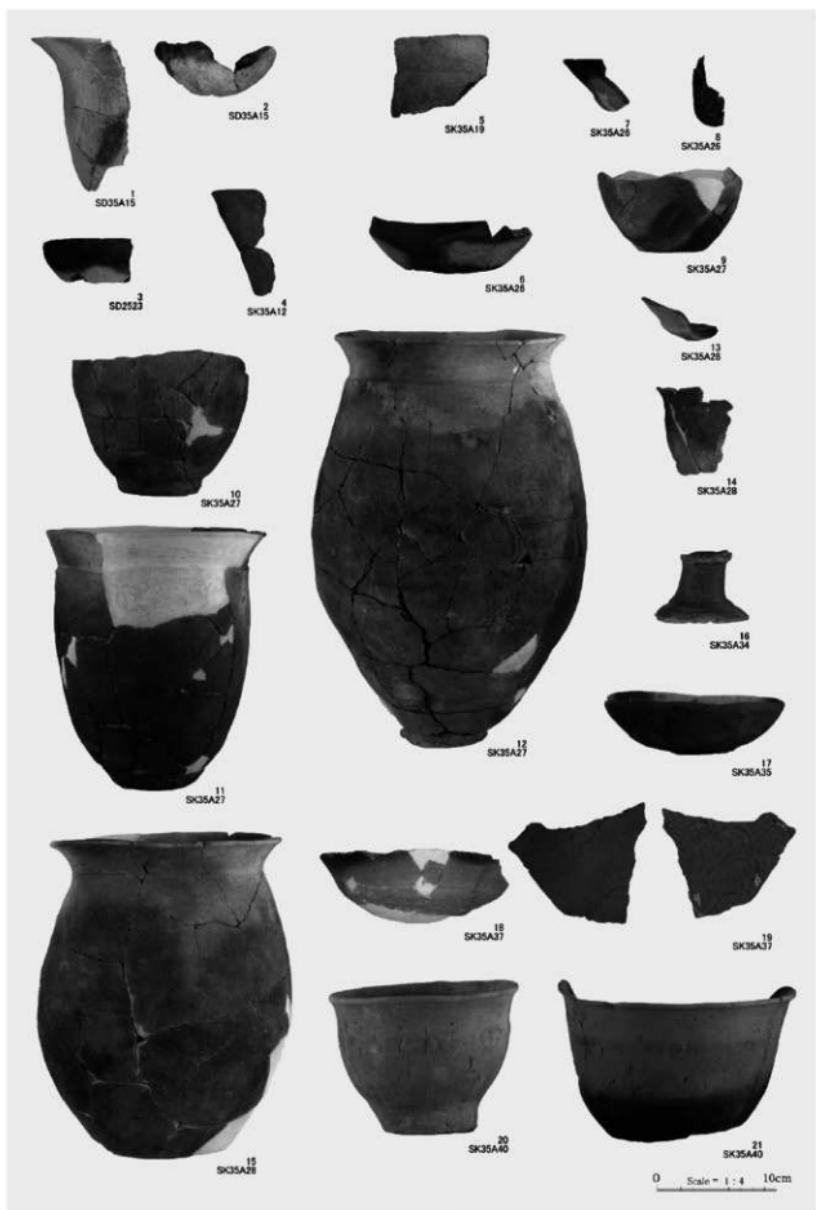
6.D区トレーンチ3東壁土層断面(北西→)



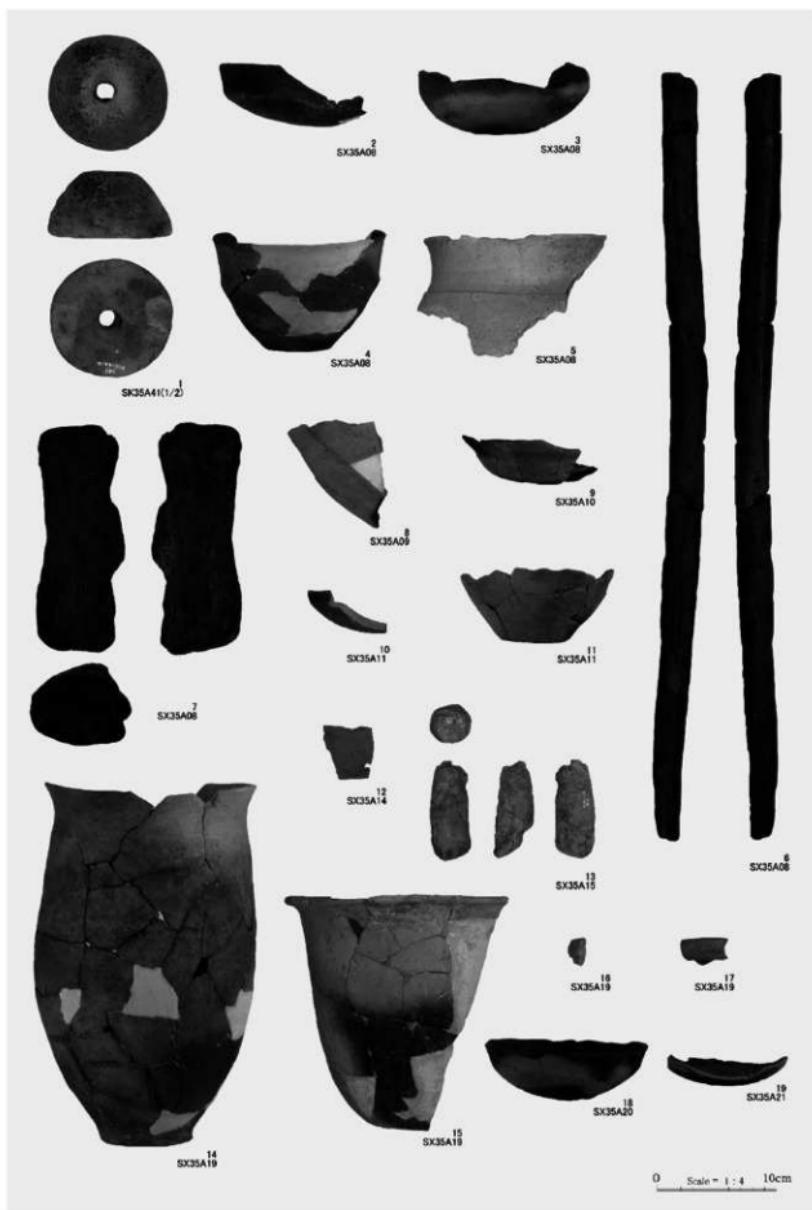
7.D区トレーンチ3南壁土層断面(北→)



写真図版-16(遺物)



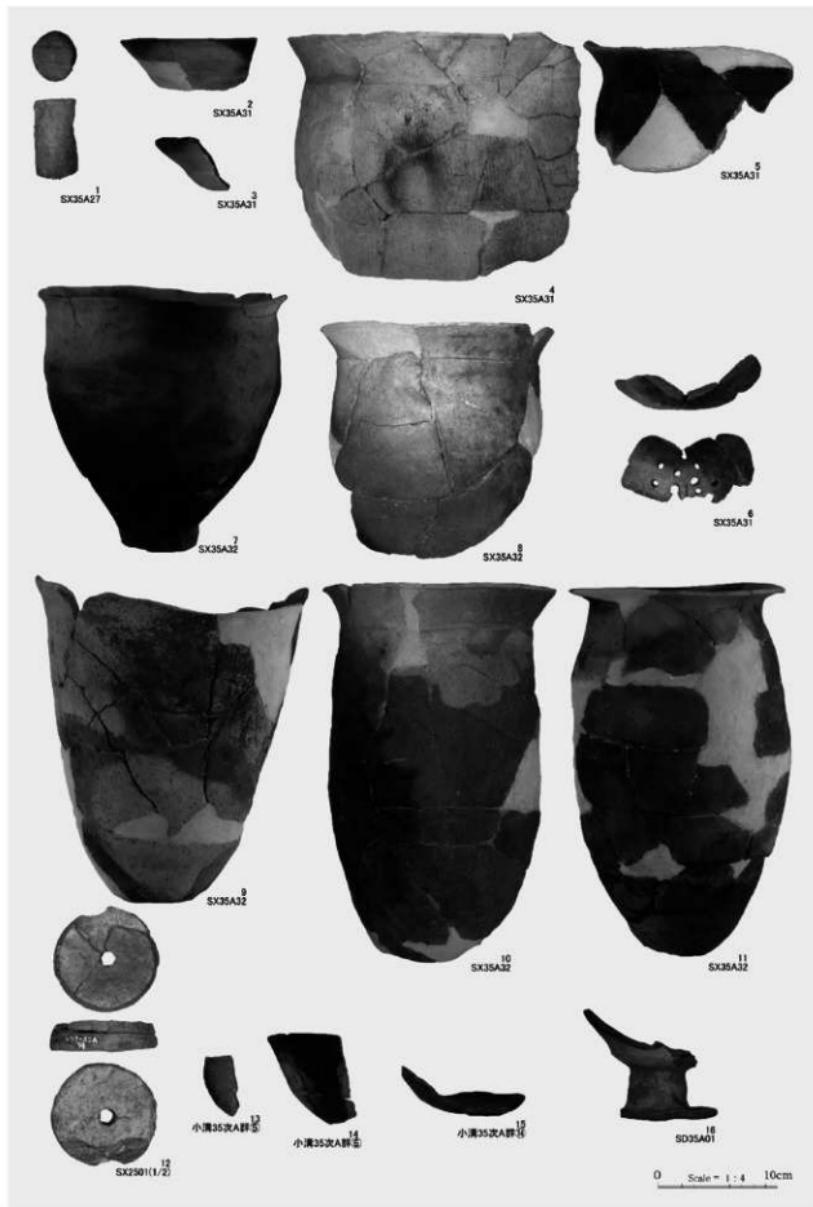
写真図版-17(遺物)



写真図版-18(遺物)

- 118 -

0 Scale = 1 : 4 10cm



写真図版-19(遺物)



写真図版-20(遺物)

- 120 -

0 Scale = 1 : 4 10cm

報告書抄録

ふりがな	ぬまむかいいせきだい35じちょうさ							
書名	沼向遺跡第35次調査							
副書名	宮城県仙台港背後地土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書II							
卷次	II							
シリーズ名	仙台市文化財報告書							
シリーズ番号	第337集							
編集者名	佐伯修一・斎野裕彦・高橋直崇・田口雄一							
編集機関	仙台市教育委員会							
所在地	〒980-8671 宮城県仙台市青葉区国分町三丁目7番1号 電話022-214-8894							
発行年月日	2009年2月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
沼向遺跡 第35次	仙台市宮城野区 中野字沼向87、107-1、134-1他	04100	01151	38° 16' 35"	141° 00' 20"	平成20年 7月28日 平成20年 10月20日	839.4m ²	土地区画整理 事業に伴う 事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
第35次A区	散布地	縄文時代晚期 弥生時代前期			縄文土器 弥生土器			
	集落跡	古墳時代後期	堅穴住居跡 区画施設 土坑 性格不明遺構	非ロクロ土師器 須恵器 耳環 木鍤		古墳時代後期:居住域		
	烟跡	奈良～平安 時代初頭	小溝状遺構群 区画溝			奈良～平安時代初頭:生産域(烟)		
	集落跡	近世	溝跡	陶磁器		近世:区画溝		
第35次B区	集落跡	古墳時代後期	区画施設 性格不明遺構	非ロクロ土師器		古墳時代後期:居住域		
	散布地	奈良～平安 時代初頭		ロクロ土師器 須恵器				
	集落跡	近世	溝跡	陶磁器		近世:区画溝		
第35次C区	墓跡	古墳時代前期	方形周溝墓			古墳時代前期:墓域		
	集落跡	近世	溝跡	陶磁器		近世:区画溝		
第35次D区	散布地	古墳時代後期		非ロクロ土師器		浜堤列と後背湿地の境界		
	集落跡	近世	溝跡					

仙台市文化財調査報告書第337集

沼向遺跡第35次調査

—宮城県仙台港背後土地地区面整埋事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅱ—

2009年2月

発行 仙 台 市 教 育 委 員 会

〒980-8671 仙台市青葉区国分町三丁目7番1号

文化財課 022(214)8894

印刷 株 式 会 社 グ レ イ ン

〒064-0804 札幌市中央区南4条西16-2-7

011(551)3034
